

1843号土坑 (S K 1843, 第281図, 図版114・116・141)

X 225 Y 396にみられる浅い不整形な土坑でS D 2069と重複し, 切られている。また, S D 2840はS D 2069を切っている。規模は, 推定で2mほどと思われる。遺物には中世土師器・瀬戸美濃・青花・中国製白磁・漆器碗・蓋・曲物底板などがある。

2515は中世土師器の皿である。口径8.5cm, 器高2cm, 非ロクロ成形で, 口縁部と体部内面をナゲ調整し, 体部外面は未調整である。体部は外方へ開き, 口縁端部は上に小さくつまみあげる。2516は青花の碗で, 口径11.8cm, 体部は深く内湾しながら立ち上がり, やや外方へ開く形となる。口縁部外面の界線の上に, やや青みを帯びた透明釉がたまり, ふくらみとなる。断面に漆継ぎの痕がみられる。2517・2518は中国製白磁の端反り皿である。2517は口径12.8cm, 器高3.5cm, 高台は断面が逆台形となる。全面に施釉されるが, 畳付の釉はヘラ削りされ, 畳付内側と底部には砂が付着する。二次被熱のため, 粗い貫入がはいる。2518は全面施釉され, 断面が逆三角形の高台の畳付部付近内外が露胎となる。畳付部内側には砂が付着する。2519は瀬戸美濃の皿で, 口径10.2cm, 器高2.5cm, 口縁部が外反し, 端反りとなる。灰釉が全面施釉され, 底部に輪ドチ痕がみられる。2次被熱を受ける。2520は木製の蓋で, 口縁部はやや外傾して垂下する。全面的に火を受けて炭化しているため, 口縁端部は欠損している。内外面に黒色漆を塗布する。2521は漆器碗で, 口縁部が欠損する。高台は白形を呈し, 外へ開く。外面に黒色漆, 内面に赤色漆を塗布する。火を受けて一部炭化している。2522は桶の底板で, 直径は約24cm。断面の上下2カ所に, 他の材と結合させるための穴があり, 中に木釘が残存する。2523は曲物の底板で, 縁辺に近い部分に2本1対の切込みが入り, 側板を結合するための綴皮が残存する。直径は約22cm。2524・2525は鉄製の釘で, いずれも断面は四角形となる。上端を叩き, 幅を広くして頭部とする。下端が欠損する。

1847号土坑 (S K 1847, 第282図)

X 229 Y 394にみられる直径70cm, 深さ18cmの円形の穴で, S D 906を切る。遺物には下駄・箸・加工木がある。

2526は下駄で, 前壺のみが穿たれた雪下駄である。全長20cm, 左側約1/5が欠損する。平面は長円形で, 前壺は円形である。2527は箸で, 下端が欠損する。断面は円形となり, 上端は中央よりもやや細める。2528は加工材で, 表面と両小口は細かく削って, 丸みをもたせる。

1881号土坑 (S K 1881, 第282図)

X 222 Y 394にみられる直径30cm, 深さ32cmほどの柱穴状の穴で, S K 1882を切る。遺物には天秤の針がある。

2529は天秤の針で, 銅製。頭部に直径3mmの孔をあけ, その下の両側に刻みを2カ所いれ, 突起を作り出す。針の先端は角度を変えて外傾し, 浅いS字をなす。

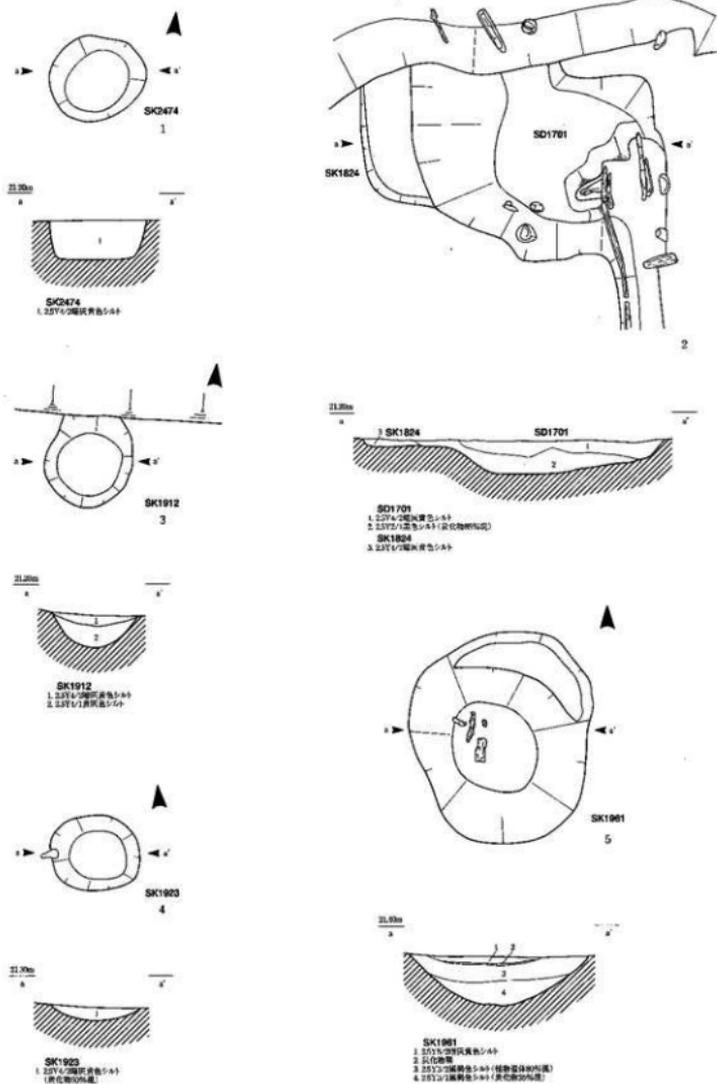
1885号土坑 (S K 1885, 第282図)

X 218 Y 393にみられる直径50cm, 深さ31cmの隅円円形の穴で, 遺物には下駄がある。

2530は下駄で, 前壺のみを穿つ雪下駄である。全長11.2cm, 平面形は長方形で, 角を落として隅丸とする。小型で, 子供用かと考えられる。裏面に刃物痕がみられる。

1890号土坑 (S K 1890, 第282図, 図版142)

X 223 Y 396にみられる幅1.14m, 1.1mの楕円形の土坑で深さ43mである。北側部分は後世の暗渠により切られている。遺物は, 底板・釘がある。

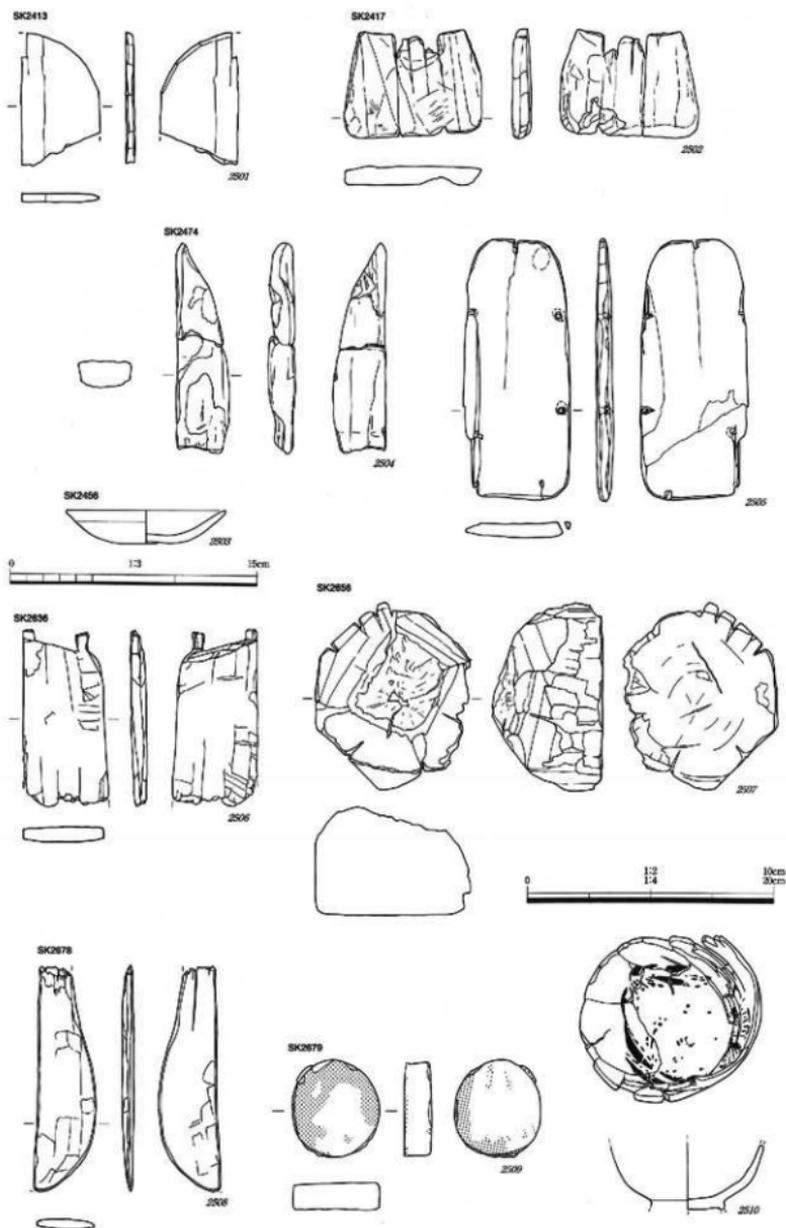


第278図 遺構実測図

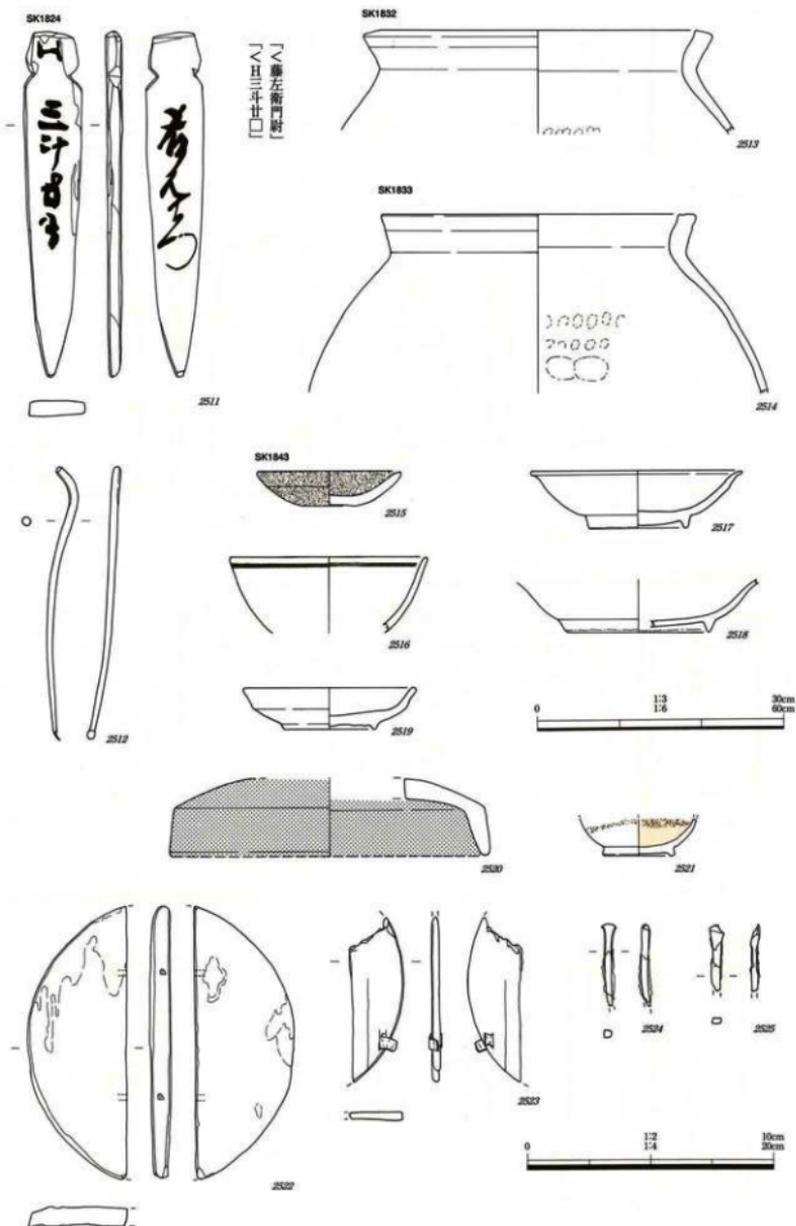
1. SK2474 2. SD1701・SK1824 3. SK1912 4. SK1923 5. SK1901





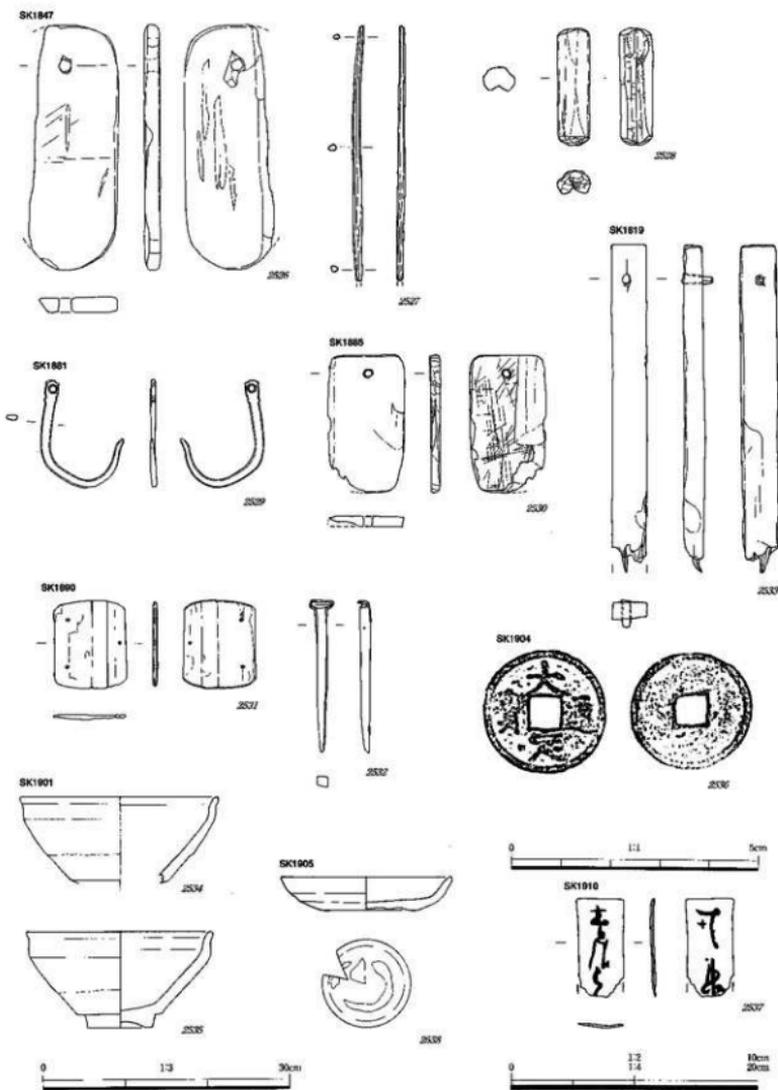


第280図 遺物実測図 (2501-2509 1/2, 2503 1/3, 2502・2504~2508・2510 1/4)  
 SK2413(2501) SK2417(2502) SK2456(2503) SK2474(2504・2505) SK2636(2506)  
 SK2656(2507) SK2678(2508) SK2679(2509・2510)



第281図 遺物実測図 (2511・2512・2524・2525 1/2, 2515～2519 1/3, 2520～2523 1/4, 2513・2514 1/6)

SK1824(2511・2512) SK1832(2513) SK1833(2514) SK1843(2515～2525)



第282図 遺物実測図 (2526 1/1, 2529・2532・2533, 2537 1/2, 2534・2535・2538 1/3, 2526~2528・2530・2531 1/4)  
 SK1847(2526~2528) SK1881(2529) SK1885(2530) SK1890(2531・2532) SK1891(2533)  
 SK1901(2534・2535) SK1904(2536) SK1906(2538) SK1910(2537)



2531は底板かと考えられるもので、長さ7.2cm。平面形は隅丸方形、三角形の頂点にあたる3ヵ所に孔を1つずつ穿つ。2532は鉄製の釘で、長さ6.2cm。頭部は平たく叩きのばし、折り曲げて作る。

1891号土坑（SK1891、第282図）

X223Y395にみられる直径75cm、深さ24cmの円形の穴で、遺物には木釘が打たれた板材がある。

2533は加工材で、長細い材の一方の端近くに孔を穿ち、木釘を打ち込んである。他方は欠損しているもの、やはり同じ方向に向けて、孔が穿たれている。

1901号土坑（SK1901、第282図、図版111・116・122）

X218Y397にみられる隅丸長方形の土坑で、SD168と切り合う。新旧ははっきりしない。遺物には、天目茶碗が2点ある。

2534・2535は瀬戸美濃の天目茶碗で、体部が直線的に外方に伸びて屈曲し、S字口縁となるものである。体部内面と外面下半まで鉄軸が施され、高台周辺は薄い鎔軸が施される。2534は口径11.8cm、2535は口径11.1cm、内反り高台で、曲線的に削り込む。いずれも大窯第Ⅱ段階のものと考えられる。

1904号土坑（SK1904、第282図）

X221Y396付近にみられる整地面を土坑としたもので規模は3m四方ぐらいである。排水溝としてSD9120が付けられている可能性がある。遺物には、銅銭がある。

2536は銭貨で、「大定通寶」（初鑄1174年）である。

1905号土坑（SK1905、第282図）

X225Y396にみられる68cm×50cm、深さ14cmの不整形の土坑で、瀬戸美濃の皿が出土している。

2538は瀬戸美濃の皿で、丸皿Ⅱ類にあたるものである。口径10.2cm、体部は内湾し、口縁部は外反する。浅い削り込み高台で、底部に輪ドナ痕が付着する。灰釉が全面に施釉されているが、二次被熱のため、白く変色する。

1910号土坑（SK1910、第282図、図版142）

X220Y395にある直径約85cmの円形の穴で、深さは10cm。遺物には、墨痕のある付札がある。

2537は付札である。幅2cmの薄い板の表裏に文字が書かれるが、判読不明。下端が欠損している。

1913号土坑（SK1913、第283図、図版142）

X228Y393のSD2309の中に確認された1.4m×1m、深さ18cmの楕円形の土坑で、漆器碗・箸・数珠玉・加工板が出土している。

2539は漆器碗である。総黒色漆で、外面底部に赤色漆で「木」と書く。内面底部には炭化物が付着する。2540は箸で、長さ22.8cm、完形である。断面は円形で、両端の幅は中央部と比べて細くならない。2541～2554は木製の数珠である。平面は円形、断面は丸みを帯びた菱形に近い形となり、中央の孔の周囲に平坦面を作る。直径は7～9mmで、8mmのものが一番多く、厚さは3～4mmである。

2553・2554は他の数珠より一回り小さく、直径5mmである。

1914号土坑（SK1914、第283図）

SK1913の南東に接するように位置する70cm、深さ26cmほどの土坑で、東側の形がはっきりしない。遺物には、漆器碗がある。

2555は漆器碗で、口径13cm、総黒色漆である。口縁部は強く外反して段をなし、口縁部外面は面をとる。内面に炭化物が付着する。

1915号土坑 (S K 1915, 第283図, 図版114)

S K 1913の北東に接するようにみられ、南側のプランがはっきりしない。規模は残存部で1.5m、深さ18cmである。遺物には中国製白磁・鉄鏝・鎌がある。

2556は中国製白磁で、端反りの皿である。口径10.8cm、全面に施釉する。高台の断面は逆三角形で、高く立つ。畳付付近の内外面は斜めにヘラ削りされ、砂が付着する。2557は鉄鏝で、現存長17.7cm、頭部先端と茎の下端が欠損する。頭部は一方の面の中央や上寄りに縦溝を切り、反対の面では鏝をもつ。頭部の断面はV字形、幅は1.2cmになる。茎と頭部の境は段をつくる。茎は頭部に近い断面は長方形となるが、下端にいくほど厚みを減じて平らになる。2558は鉄鏝である。刃部の峰は曲線となり、茎部は刃部から鈍角に曲がって直線的にのび、目釘孔が穿たれる。茎部の下端も欠損する。

1923号土坑 (S K 1923, 第278・283図)

X 220 Y 384にみられる直径70cmの円形土坑で、深さ13cmである。遺物には製塩土器・瀬戸美濃・加工板がある。

2559は製塩土器で、内外面をナデ調整する。外面には粘土接合痕が残る。

1930号土坑 (S K 1930, 第283図)

X 222 Y 384にみられる66cm×61cmの長円形の土坑で、深さ33cm。遺物には底板・箸・加工板がある。

2561は底板で、直径14cm、およそ半分が欠損する。

1941号土坑 (S K 1941, 第283図, 図版114)

X 221 Y 381にみられる約45cmほどの円形土坑で、遺物には中国製白磁皿・加工板がある。

2560は中国製白磁で、口縁部が欠損しているが、端反りの皿である。全面に施釉する。高台の断面は逆三角形で、低く立つ。畳付付近の外面は斜めにヘラ削りされる。畳付内外には砂が付着する。

1961号土坑 (S K 1961, 第278・284図, 図版142)

X 229 Y 379にみられる1.7m×1.5mの歪んだ楕円形の土坑で、深さは43cm、断面の形状は皿状である。遺物には、下駄・糸巻・銅銭がある。

2562は下駄で、長さ19.2cm、幅8cm、雪下駄と草履下駄をあわせての形のものである。前壺のほか、上端隅に2カ所、両側辺の中央に1カ所ずつ、合わせて4つの小孔が穿たれる。特に上端隅の2つの小孔は、裏面の隅を一段削り、両側辺の中ほどにある2小孔は裏面に溝を削りこんで穿っている。下駄の表面には土痕がある。2563～2565は糸巻きである。2563・2564は杵木で、2563は上下の柄孔の側面に、横木を留めるための木釘の孔を穿つ。2564は上下端が欠損しているが、柄穴が1つ残存する。この柄穴の側面も欠損しているが、木釘用の孔が穿たれていた痕がある。2565は横木で、中央に軸を通す孔を穿つ。2566・2567は銭貨で、2566は「熙寧元寶」(初鑄1068年)、2567は「元豐通寶」(初鑄1078年)である。

1963号土坑 (S K 1963, 第279・284図, 図版104・142)

S K 1961の北側約1mにある73cm×65cmのやや歪んだ円形の土坑で、深さは24cmである。遺物には、中世土器・漆器碗がある。

2568は中世土器の皿である。口径9.8cm、非口クロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。口縁端部を上へ小さくつまむ。口縁部内外には煤が付着する。2569は漆器碗である。口径12.6cm、器高4.7cm、総赤色漆で、体部は内湾しつつ立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。高台は輪高台で、底部中央に穿孔がある。

1970号土坑（SK1970, 第279・284図, 図版117）

X227Y384にみられる1.23m×0.98mの楕円形の土坑で、深さ56cmで断面形は漏斗状である。

遺物には、青花・桶底板がある。この土坑は、SB118・SB119のいずれかの建物に伴う施設と考えられる。また、SK1992を切る。

2570は青花で、端反りの皿である。口径12cm。外面は口縁部に界線、体部に牡丹唐草文、腰部から高台にかけて3条の界線を描く。内面は口縁部に界線、体部に意匠不明な文様、見込みにも2条の界線と花文を描く。高台内部にも施軸し、壘付は軸が削りとられ、砂が付着する。2571は桶の底板である。直径は約31cm、表面の中心寄りに刃物痕があり、中央付近が炭化している。

1977号土坑（SK1977, 第284図）

X227Y379にみられ、SK1976に切られる重複関係をもつ。直径60cm、深さ10cmほどの柱穴状である。遺物には、縦じもをもった板材がある。

2572は加工板で、薄い長方形の板の4ヶ所に3本1組の切り込みがあり、縦皮が残る。

1981号土坑（SK1981, 第284図, 図版143）

X226Y381にみられる直径77cmほどの円形土坑で、深さ28cmである。遺物には漆器碗がある。

2573は漆器碗である。口径12.2cm、器高5.9cm、総黒色漆で、体部は内湾し、口縁部は直立する。高台は台底部に溝を彫り、高台を表現する。

1988号土坑（SK1988, 第284図）

X230Y384にみられる1.67m×1.06mの不整形な方形で深さ3cmと浅い。中にSK1989が検出されるが、重複関係は不明。遺物には、口金具（2574）・加工材がある。

1991号土坑（SK1991, 第284図）

SK1988の東側に位置する1.1m×0.8m、深さ11cmの浅い不整形な土坑で、釘が出土している。

2575は鉄釘である。断面は四角で、頭部が瘤状にふくらむ形のものである。下端が欠損する。

2018号土坑（SK2018, 第285図）

X229Y376～377付近にSK1964, 2016, 2017などと東西に並ぶ直径1.3mほどの柱穴状の穴で、深さも20cm程である。遺物には、丁寧に細工された加工木がある。

2576は加工材である。上端に突起をつくり、続けて連続する2つの弧を丁寧に削り出す。下方は欠損している。

2024号土坑（SK2024, 第279・285図）

SK2018の南東3mに位置する直径87cmの円形の土坑で、深さ32cmある。遺物には銅銭がある。

2577～2579は銭貨である。2577は「元豊通寶」（初鑄1078年）で、2578・2579は「皇宋通寶」（初鑄1039年）である。

2026号土坑（SK2026, 第285図）

SK2024の南東2mに位置する直径約70cm、深さ24cmの円形土坑で、瀬戸美濃・加工材・曲物の底板が出土している。

2580は加工材で、上端に段を削りだし、やや下がったところに孔を穿つ。他端は欠損している。

2027号土坑（SK2027, 第285図）

SK2018の南70cmに位置する直径20cm、深さ4cmの小さな柱穴状の円形ピットで、中世土師器が出土している。

2581は中世土師器の皿である。口径11.6cm、器高2.5cm、非ロクロ成形で、口縁部に一段のナデを施

し、体部を強く指で押さえて、外反させる。口縁端部に煤が付着し、内外面に付着物がある。

2030号土坑 (SK2030, 第279・285図)

X223Y384にある残存長1.39m, 幅61cm, 深さ51cmの細長い土坑で、南側を暗渠に切られる。遺物には、中世土師器・越前・曲物・箸・加工板がある。

2582は箸である。上端が欠損するが、残存長でも26cmを越えており、長めのものである。断面は四角で、下端は尖らせている。

2038・2039・2040号土坑 (SK2038～2040, 第279・285図, 図版143)

SK2038・2039・2040はX212Y357付近にみられる楕円形のプランをもつ70cmから1.5mほどの規模を持つ土坑で、SK2040が2038を切る。遺物は、SK2038から加工板(2583)・鉄製品の小札(2584)、SK2039から茶臼(2585)、SK2040から時代は異なるが剥片石器(2586)が出土している。

2583は加工板である。薄い板の両側が欠損している。両面に黒色漆を塗布する。2584は鍍小札である。上下端が欠損しているため、残存しているのは2列8孔のみである。両面に黒色漆を塗布する。2585は茶臼の上臼である。直径は約19.2cm, 上面は欠損があり、側面の打込穴で割れている。打込穴の周囲は一重の菱形を作り出して装飾とするが、欠損のため詳細は不明である。下面の擦り面は「ふくみ」をもつ。目のパターンは8分画で、副溝は10本ほどかと考えられる。被熱のため、部分的に焦げている。2586は剥片石器である。流紋岩製。

2048号土坑 (SK2048, 第285図, 図版143)

X224Y382にみられる直径60cmほどの円形土坑で、深さ28cmである。遺物には小型の曲物底板がある。

2587は底板である。直径6.2cm, 側面に加工痕が残る。

2060号土坑 (SK2060, 第286図, 図版104・114)

X222Y376付近にみられる1.8m×1mの不整楕円形の土坑で、深さ19cmである。土坑はSD1953に接するように作られている。遺物には、中国製白磁・底板・箸・加工材・加工板などがある。

2588は中国製白磁の杯である。口径11.5cm, 口縁部が強く外反し、内外面に施釉する。2589は底板である。直径9.2cm, 薄い板で、全体の1/3が残存する。2590は加工材である。幅2.1cmのやや反りのある板に直径9mmの円孔を穿ったもので、この円孔の下側にも、また孔が穿ってあるようだが、欠損のため不明である。2591～2593は箸である。いずれも上端が欠損しているが、下端は細く削って尖らせる。

2070号土坑 (SK2070, 第286図)

X228Y393付近にみられる1.7m×1.7mの浅い土坑で、SK1831やSK1915に隣接している。銅銭・柱根・加工板・杭が出土している。

2594は銭貨で、「皇宋通寶」(初鑄1039年)である。

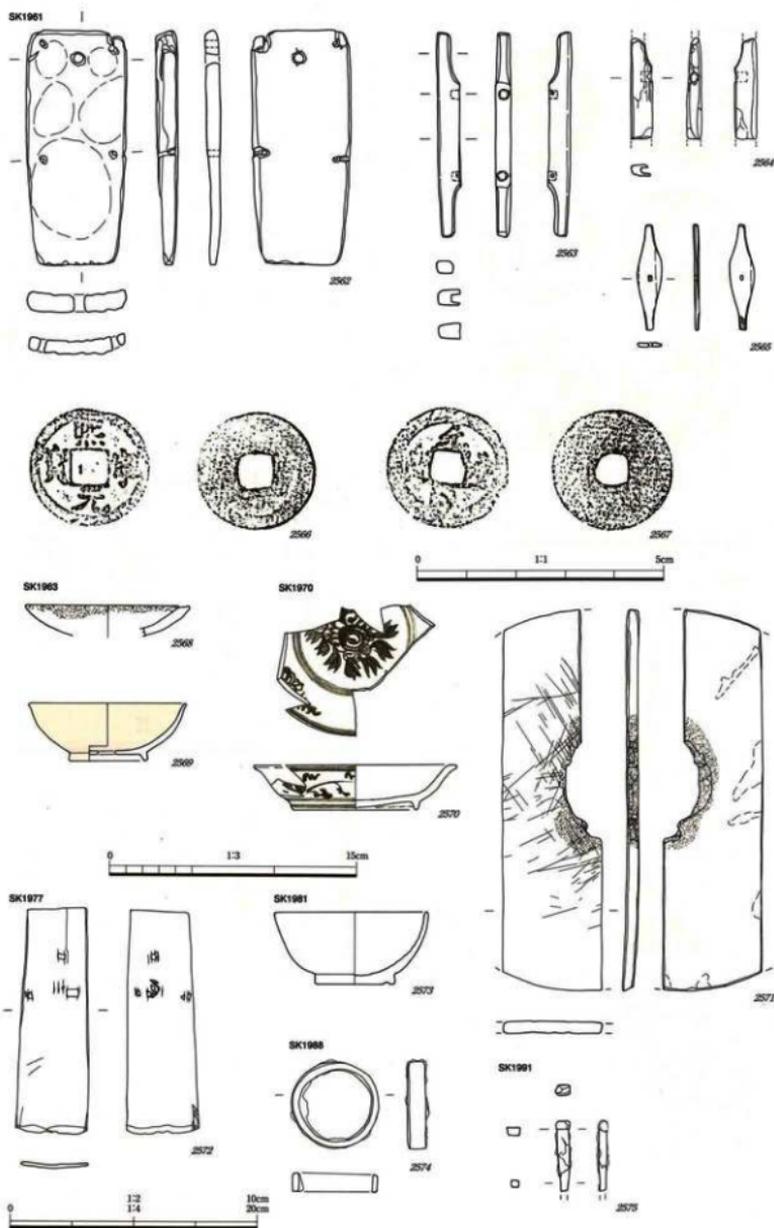
2088号土坑 (SK2088, 第279・286図, 図版143)

X218Y380にみられる直径70cm, 深さ12cmの円形土坑で、瀬戸美濃・桶・下駄が出土している。

2595は下駄の未製品かと考えられる。長さ20.8cm, 幅9cmの長円形の板材で、歯をもたず、また歯を組み合わせるには厚みがないため、前壺を穿った雪下駄になるのではないだろうか。裏面と側面が炭化している。

2095号土坑 (SK2095, 第286図, 図版143)

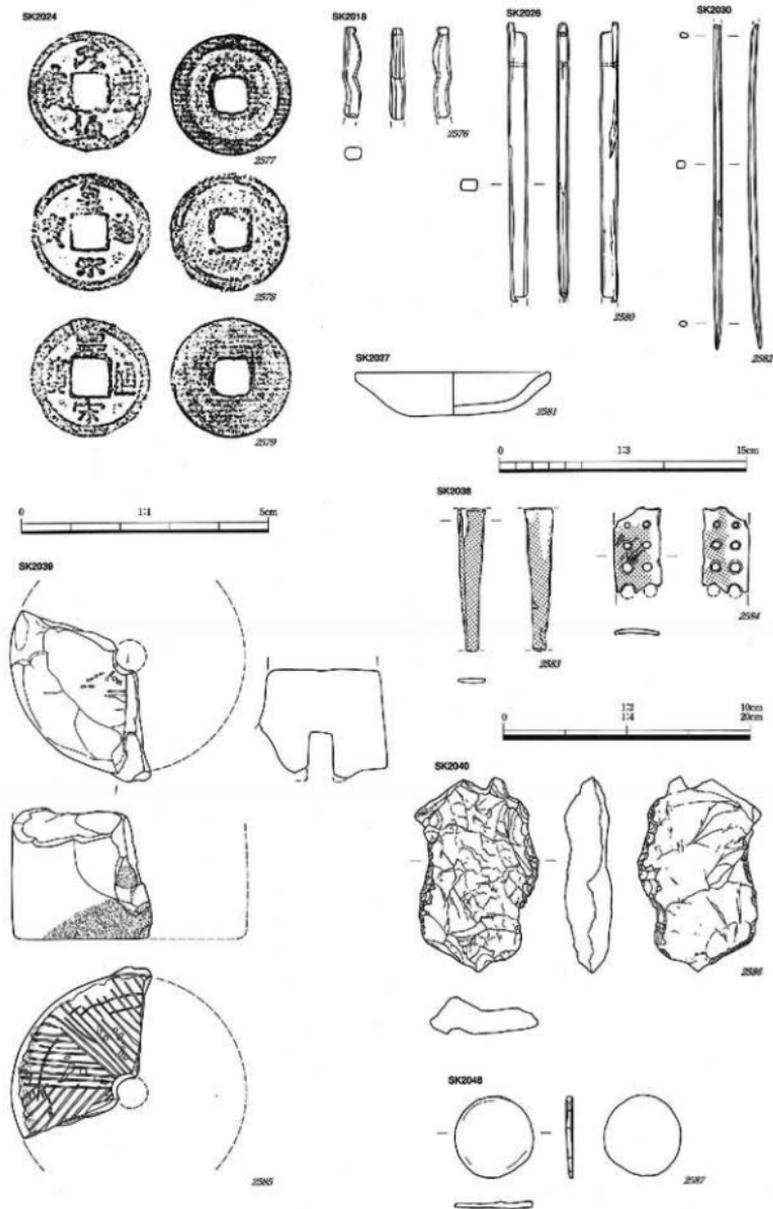
X227Y379にある1.08m×83cm, 深さ54cmの楕円形の土坑で、遺物は、杭・加工材がある。



第284図 遺物実測図 (2566・2567 1/1, 2574・2575 1/2, 2568・2570 1/3, 2562~2565・2569・2571~2573 1/4)

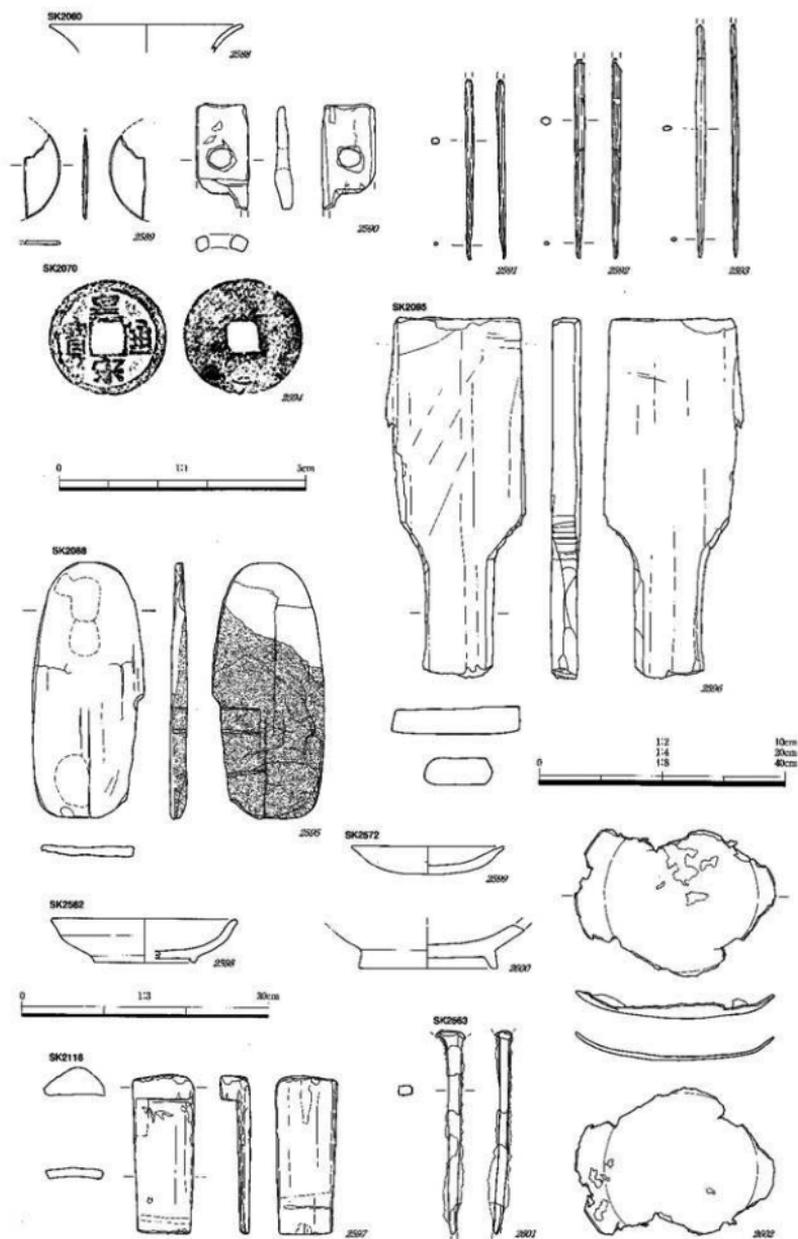
SK1961(2562~2567) SK1963(2568・2569) SK1970(2570・2571) SK1977(2572) SK1981(2573)

SK1988(2574) SK1991(2575)



第285図 遺物実測図 (2577~2579 1/1, 2584・2586 1/2, 2581 1/3, 2576・2580・2582・2583・2585・2587 1/4)

SK2018(2576) SK2024(2577~2579) SK2026(2580) SK2027(2581) SK2030(2582) SK2038(2583・2584)  
 SK2039(2585) SK2040(2586) SK2048(2587)



第286図 遺物実測図 (2594 1/1, 2590・2600・2601・2602 1/2, 2588・2598・2599 1/3, 2589・2591~2593・2595・2596 1/4, 2597 1/8)

SK2060(2588・2593) SK2070(2594) SK2088(2595) SK2085(2596) SK2118(2597) SK2562(2598)  
SK2563(2601) SK2572(2599・2600・2602)

2596は杓子の木製品かと考えられる。長さ29.5cm、幅11cmで、両肩の部分で粗く削って、柄と身の形を作り出している。柄も側面を削り、角を面取りする。

2118号土坑 (S K 2118, 第286図)

X 220 Y 395に S K 1910・S K 2136とかがたまってみられる長径88cm、深さ36cmの土坑で、加工木が出土している。

2597は加工材で、長さ25.8cm、幅10cm。上端から約4cmは断面が三角形になるように削り、そこから下端までは削り込んで厚さ1.5cmの板状にする。断面が三角形の部分と板の部分とが直角をなすところには刃物痕が多数みられる。下端近くには圧痕がある。

2562号土坑 (S K 2562, 第286図)

X 218 Y 385にみられる1m×80cm、深さ8cmの上坑で、瀬戸美濃の皿・杭が出土している。

2598は瀬戸美濃の内壳皿である。口径11cm、器高2.6cmで、体部は内湾しつつ立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。高台は削り出し高台で、疊付を斜めに削る。底部内外面と疊付以外には鉄軸を施す。

2563号土坑 (S K 2563, 第286図)

S K 2562の西側約70cmに位置する長径1mほどの長円形の土坑で、瀬戸美濃・杭・釘が出土している。

2601は鉄釘で、頭部と先端部分に欠損がある。断面は四角形となる。

2572号土坑 (S K 2572, 第286図)

X 217 Y 383にみられる直径80cm、深さ41cmの円形土坑で、S K 2652・S K 1599と重複する。遺物には中世土師器・漆器碗・鉄皿などがある。

2599は中世土師器の皿である。口径9.1cm、器高1.7cm、非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。体部は外へ開き、口縁端部を小さく上へつまむ。内面は全面に煤が付着し、外面にも付着する。2600は漆器碗で、総黒色漆のもの。高台は輪高台となる。2602は鉄皿である。破損が激しく、口縁部も残りが悪いが、口径は9cmほどになると推定される。底部から体部へは弱く屈曲して開く。

1001号土坑 (S K 1001, 第287図)

X 218 Y 403にみられる直径80cmの円形土坑で、深さは、6cmと浅く皿状である。遺物は鍋が出土している。

1015号土坑 (S K 1015, 第292図)

X 220 Y 401にある直径30cmの柱穴状の小さな穴で、遺物には鉛玉 (2603) がある。

1018号土坑 (S K 1018, 第287・292図, 図版109)

X 218 Y 399に位置する1.2mほどの不整形の土坑で、S K 1274の上に作られている。また、S K 1251・S K 1252・S K 1253などと同じく遺構の中では最も新しいと考えられ、木舟城下町が廃絶された後に作られたと推測できる。遺物には中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・加工材・砥石がある。

2604は青花の碗である。見込みは蛇の目に釉剥ぎし、釉剥ぎの内側に「王」の文字、外側に2条の界線を描く。体部外面は草花文かと考えられる文様、腰部には1条の界線を描く。底径は5cmで、高台は逆台形を呈する。高台外側までは施釉し、疊付と高台内部にはヘラ削りを施して露胎となる。断面に漆継ぎの痕が残る。

1030号土坑 (S K1030, 第292図)

X 223 Y 403にみられる長径1.1m, 短径60cmの不整形な土坑で, S K1029・S K1762と重複する。遺物には鉛玉 (2605) がある。

1035号土坑 (S K1035, 第292図)

X 222 Y 401にみられる直径30cmの柱穴状の穴で, 土師器・越前・瓦質土器・硯が出土している。

2606は土師器の鍋である。口径は33.4cm, 体部から口縁部は強く屈曲して, 口縁部は外傾する。口縁端部は丸くおさめている。体部はカキメを施した後, ハケメを施す。2607は石硯である。図は上下が逆で, 硯尻の部分にあたる。幅4cm, 厚さ1cmで, 表面は欠損が激しく, 詳細は不明。裏面と側面に擦痕がある。

1038号土坑 (S K1038, 第292図)

X 223 Y 401にみられる直径35cmの柱穴状の穴で, S K1767を切る。遺物は底板・金属製品がある。

2608は底板である。直径は約20cmで, 表裏面とも火を受けて, 炭化している部分がある。2609は板状の銅製品で, 厚さ1.5mmの薄板の裏面に, 長さ3~6mmほどの線状で, わずかに隆起する部分が5カ所あり, 3カ所と2カ所で上下にわかれて, それぞれが1列になっている。

1082号土坑 (S K1082, 第292図, 図版104・144)

X 223 Y 401に位置する直径30cm, 深さ30cmの柱穴状の穴で, 瀬戸美濃の天目茶碗が出土している。

2611は瀬戸美濃の天目茶碗で, 口径11.2cm, 体部が強く屈曲し, S字口縁をもつ。体部内面から外面下半まで鉄軸を施し, 外面下半には錆軸を施す。かつて底部と高台が欠損したのを, 漆器碗の底部と高台で補い, 漆で継いだものである。この漆器の部分は欠損している。また, 体部にも2カ所に漆継ぎがある。

1099号土坑 (S K1099, 第287・292図)

X 226 Y 399にみられる一辺1m, 深さ20cmの隅円方形の土坑で, 須恵器・中世土師器・越前・加工板・銅銭が出土している。

2610は銭貨で, 「元祐通寶」(初铸1086年)である。

1125号土坑 (S K1125, 第287・292図)

X 228 Y 400にみられる長径1.9m, 短径1.4mの不整形な土坑で, 深さは39cmである。またS D1136に切られる。遺物には中世土師器・越前・青花・板材・箸・刀子・漆器がある。

2612は刀子である。長さは11.2cmで, 中ほどで折れ曲がっている。錆のため細部は不明であるが, 鋒は歪まで直となる。

1134号土坑 (S K1134, 第292図, 図版144)

X 229 Y 399にみられる土坑で, 近世溝S D1135, S K1172などに切られる。長径約1.5mほどの隅円方形となると思われるがはっきりしない。遺物は, 中世土師器・青花・木製品・漆塗りの栓がある。

2613は木栓で, 頭部のみが残存する。菊花形に彫り込む装飾が施され, 赤色漆を塗布する。頭部と栓部の付け根で折れて欠損しており, 付け根から推定する栓部の直径は約3.5cmになる。

1138号土坑 (S K1138, 第292図)

X 228 Y 399にみられる長さ2m, 幅70cm, 深さ5cmの不整形な土坑で, S K1162に切られる。遺物は, 土師器・中世土師器がある。

2614は中世土師器の皿である。口径12.9cm, 非ロクロ成形で, 口縁部と体部内面をナデ調整し, 体部外面は未調整である。口縁端部は上へ小さくつまみあげて, 端部内側に段をつくる。

1141号土坑 (SK1141, 第288・292図)

X227Y398にみられる長径1.9m, 短径1.6m, 深さ43cmの楕円形土坑で, 遺物には中世土師器・越前・加工板・銅銭がある。

2615は銭貨で, 「祥符元寶」(初鑄1009年)である。

1161号土坑 (SK1161, 第292図, 図版161・173)

X223Y398にみられる長径93cm, 短径48cm, 深さ18cmの楕円形の土坑で, 砥石・銅製品が出土している。

2616は銅製品である。長さ4.6cmの薄板の上端の両角をおとして台形にし, 下端は丸く加工する。裏面には, 3ヵ所に幅3～4mmの突起を設け, そのうち1ヵ所はホックのように薄板から3mmほど離れたところから外側に折り曲げる。残り2ヵ所は薄板から2～3mm離れたところで欠損しているため, 詳細は不明。2617は砥石である。砂質凝灰岩製で, 裏面に擦痕がある。

1172号土坑 (SK1172, 第293図)

X230Y400にある長径1.23m, 短径83cm, 深さ44cmの楕円形の土坑で, SK1134を切る。遺物には中世土師器がある。

2619は中世土師器の皿である。口径11.8cm, 器高2.3cm, 非ロクロ成形で, 口縁部と体部内面をナデ調整し, 体部外面は未調整である。底部は小さく, 体部が外方へ開き, 口縁部はわずかに外反して, 口縁端部はやや尖らせる。

1173号土坑 (SK1173, 第293図)

X218Y395にみられる直径54cm, 深さ13cmの円形土坑で, 遺物には須恵器・漆器・銅製品がある。

2620は板状の銅製品である。厚さが1mmもない薄板で, 3ヵ所で折れ曲がっている。平面形は側面を丸くして砲弾形にする。下端は中央部分を切り落として, 両端を残す。

1192号土坑 (SK1192, 第293図, 図版144)

X219Y390にある直径30cm, 深さ12cmの柱穴状の土坑で, 土台建物SB135に伴う隅柱かもしれない。遺物は, 中国製白磁・下駄が出土している。

2621は連歯下駄である。長さ17.5cm, 幅7.8cm, 長円形の台は2.6cmと厚く, 幅広で低い歯を削り出す。後歯の位置が左右でずれており, 左足用かと考えられる。

1194号土坑 (SK1194, 第293図, 図版144)

X219Y393にある長径95cm, 短径55cm, 深さ12cmの不整形な形で残り, 北側がSD1917と切り合っているが新旧は不明。遺物は加工木がある。

2622は加工材である。長さ16.2cm, 両端の幅をやや細めて中央がふくらむように削り, 断面は方形となる。中央に挟りを入れる。

1198号土坑 (SK1198, 第293図)

X222Y396にある長径1.3m, 短径98cm, 深さ8cmの浅い楕円形土坑で, 遺物には, 土師器・越前・加工板・砥石がある。

2623は砥石の破片である。凝灰岩製で, 側面に擦痕がある。

1213号土坑 (SK1213, 第293図)

X221Y403にある直径約50cm, 深さ16cmの浅い円形土坑で, 珠洲が出土している。

2624は珠洲の鐙鉢である。破片のため, 口径は復元できない。口縁部に櫛目波状文が施される。

1222号土坑（S K 1222, 第288・293図, 図版105・145）

X 221 Y 392にある直径70cm, 深さ30cmの円形土坑で, 遺物には, 箸・将棋の駒・小札・加工板などがある。

2626は将棋の駒である。長さ3.3cm, 幅は上端で2mm, 下端で1.1cmとなる。駒の表面の文字は「金将」である。半分に割れたものの, 上端の角を削って, 再び使用したものらしい。2627は鏝小札である。3枚の小札を重ね合わせているもので, 表表面に塗布された黒色漆が残存している。

1233号土坑（S K 1233, 第288・293図, 図版164）

X 220 Y 399にみられる残存長1.5m, 幅1.06m, 深さ38cmの不整形な土坑で, S K 1406に切られる。遺物も多く, 土師器・須恵器・中世土師器・越前・漆器碗・加工板・砥石・刀子などがある。特に砥石の量が多い。

2628は漆器碗である。底部のみ残存する。総黒色漆で, 見込みに赤色漆で文様を描く。高台は輪高台である。2629～2632は砥石である。いずれも凝灰岩製で, 平面形, 断面ともに方形を呈し, 擦痕がみられる。2630は裏面の中央にわずかに隆起するベルト状の部分があり, その上では擦痕がみられない。側面には黒色漆が付着する。2632は斜めに割れたのを漆繕ぎして, さらに使用している。2633は刀子である。破損が激しく, 刃部と基部の先端が欠損する。鋒は直で, 鋒・刃側とも関はほぼ直角につくる。

1246号土坑（S K 1246, 第288・294図）

X 221 Y 392にみられる直径約80cm, 深さ47cmの円形土坑で, S D 1895・S B 134と重複する。土坑が新しいと思われる。遺物には, 中世土師器・箸・加工板がある。

2634は箸である。下端が欠損するが, 現存長だけでも25cmとなる。

1248号土坑（S K 1248, 第288・294図, 図版145）

X 222 Y 393にみられる長径1.45m, 短径1.15m, 深さ43cmの楕円形土坑で, 現代の暗渠により切られる。遺物には珠洲・越前・青花・中世土師器・箸・底板・加工板・加工木がある。

2635は越前の甕である。口縁部はやや外傾ぎみに直立し, 方頭を早する。口縁部外面には稜, 内面には段をもつ。口縁部内外面と体部外面は丁寧なヨコナデを施すが, 体部内面は粗雑なヨコナデで, 粘土接合痕と指頭圧痕を残す。2636は箸で, 上端が欠損する。断面は円形で, 下端は細く削る。2637は加工板である。平面は長円形をなし, 長さは4.5cmである。

1251号土坑（S K 1251, 第294図）

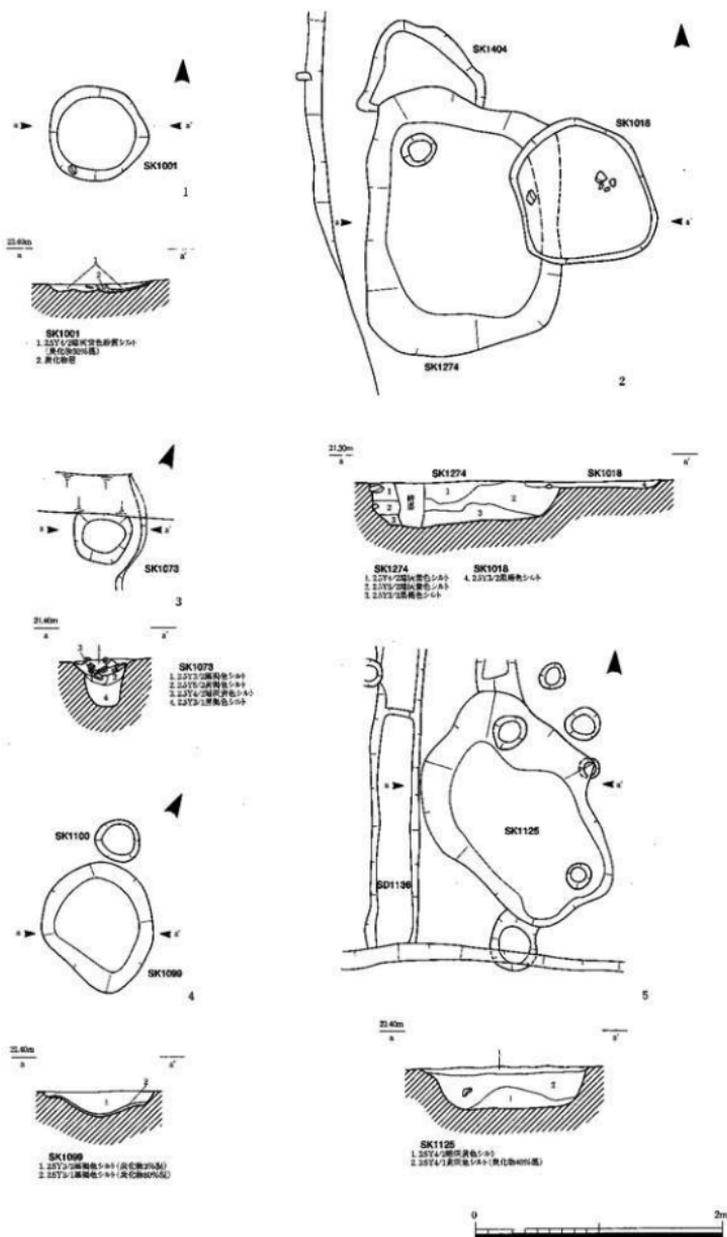
X 222 Y 398にみられる, S K 1235を切り作られた長径約1.9m, 短径1m, 深さ10cmの不整形土坑で, 遺物には土師器・須恵器・中世土師器・越前・下駄・加工木がある。S K 1251・S K 1252・S K 1253はゴミ穴の可能性がある。

2638は露卯下駄である。下端と側面に欠損があるが, 平面は長円形, 断面は三角形をなし, 厚さは3.3cm, 厚みは台の前後がそれぞれ薄くなる。台表には前後の縮孔と, 親指のものかと考えられる圧痕がつく。縮孔は台表では円形であるが, 台裏では四角形に彫り込む。差し込む歯の柄孔は前後に1つずつ穿たれる。

1272号土坑（S K 1272, 第294図, 図版145）

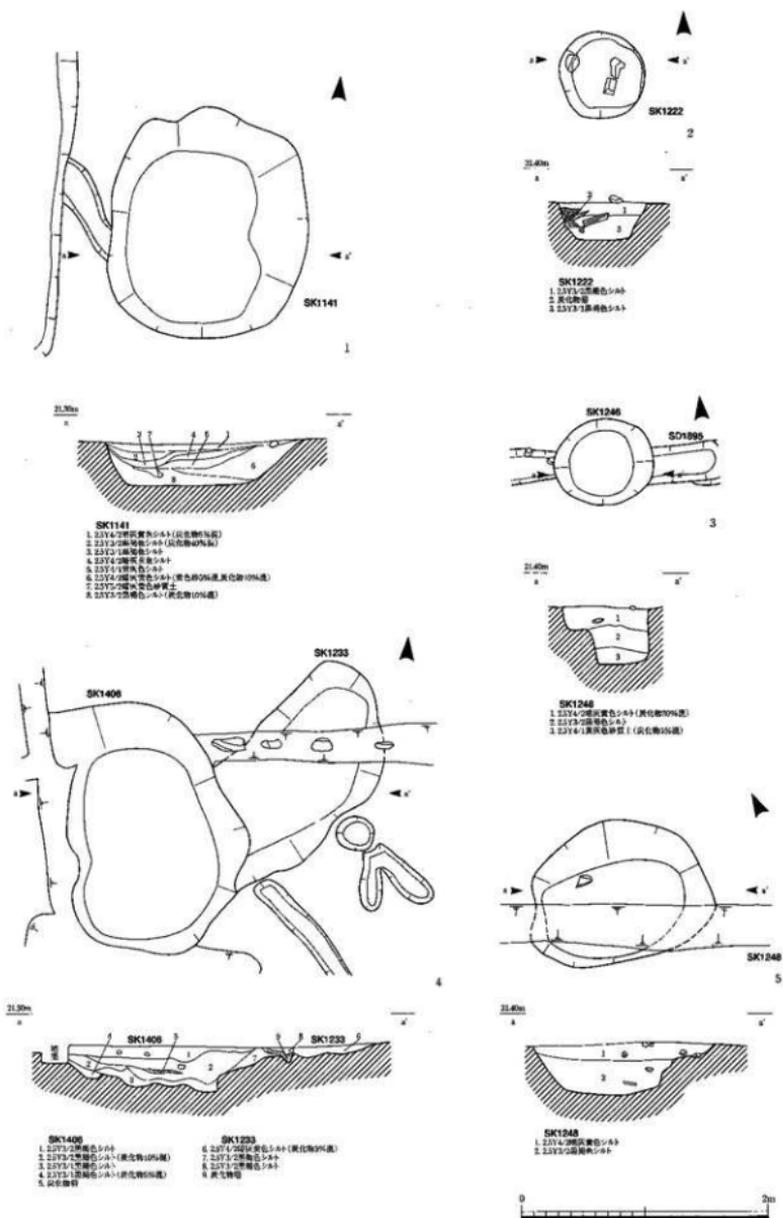
近世溝 S D 1165の中, X 222 Y 403にみられる直径約40cmの柱穴状の土坑で, 深さは9cmである。遺物は, 底板・杭がある。

2639は加工板である。隅丸方形をなし, 長さ7.6cm, 幅5.6cmとなる。



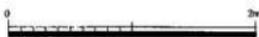
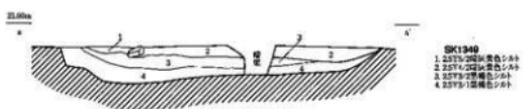
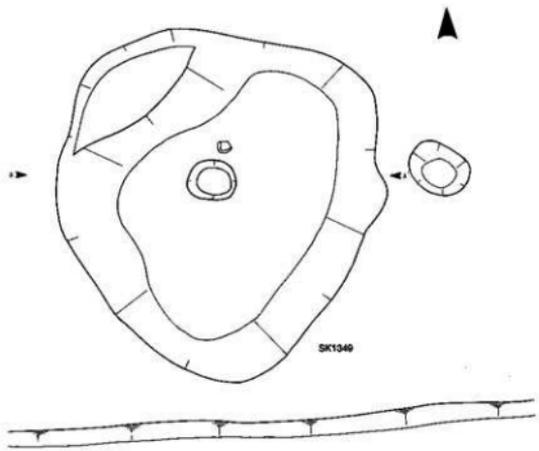
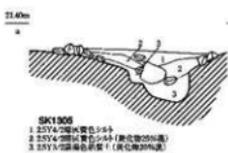
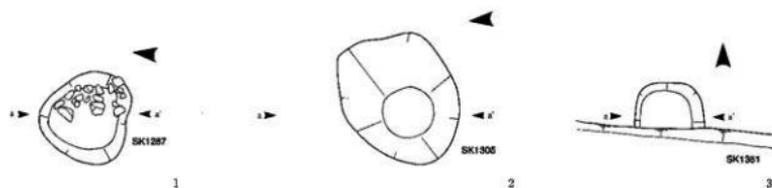
第287図 遺構実測図

1. SK1001 2. SK1018・SK1274 3. SK1073 4. SK1099 5. SK1125



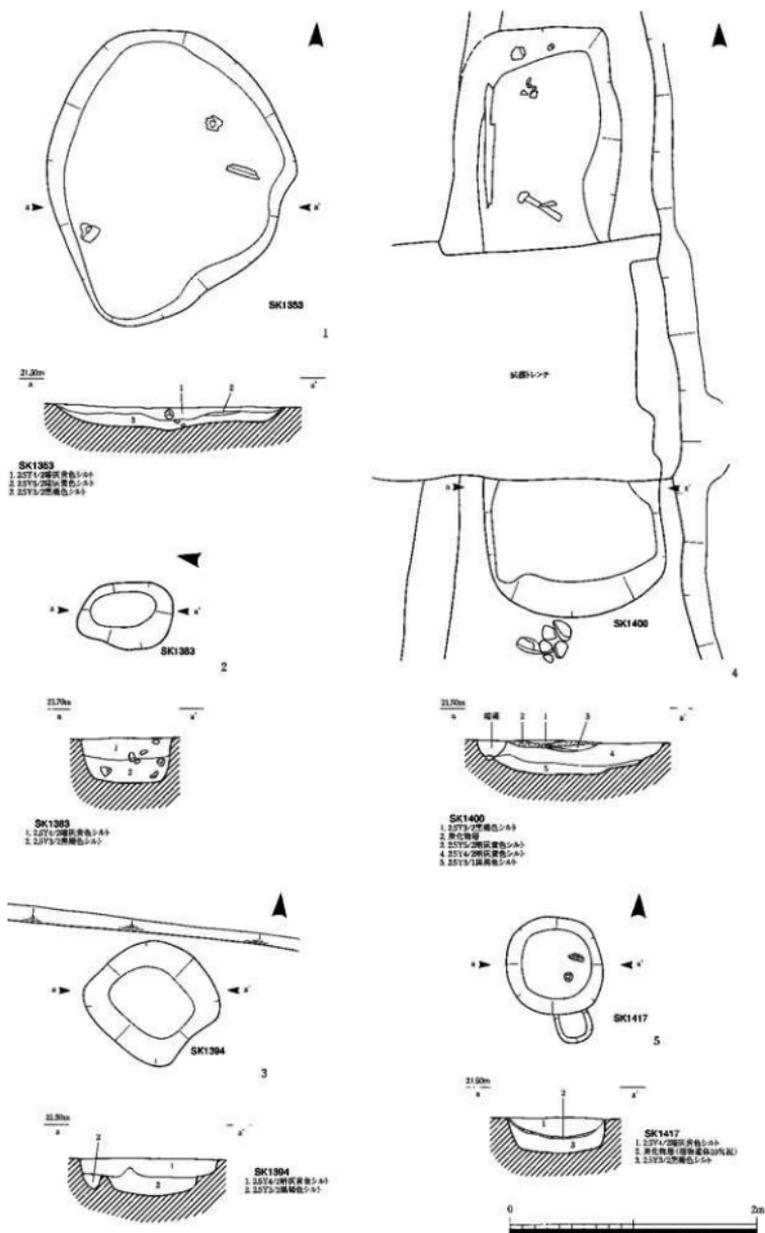
第288図 遺構実測図

1. SK1141 2. SK1222 3. SK1246 4. SK1233・SK1406 5. SK1248



第289図 遺構実測図

1. SK1287 2. SK1305 3. SK1351 4. SK1349



第290図 遺構実測図

1. SK1353 2. SK1383 3. SK1394 4. SK1400 5. SK1417

1274号土坑 (S K1274, 第287・294図)

X218Y399に見られる2.19m×1.59m、深さ41cmの方形土坑で、S K1018に切られ、S K1404を切る。遺物は珠洲・越前・銅銭がある。このS D1168の両側にあるS K1400・S K1406・S K1233・S K1401などはゴミ穴の可能性が高い。

2640は銭貨で、「太平通寶」(初鑄976年)である。

1287号土坑 (S K1287, 第289図)

X230Y394にある76cm×71cm、深さ14cmのほぼ円形の土坑で、中に割れた礫が入られている。用途は不明。遺物は、瓦質土器・加工棒がある。

1305号土坑 (S K1305, 第289図, 図版105)

X218Y381にある1.13m×90cm、深さ46cmのやや大型の土坑で、遺物は中世上部器・越前・瀬戸美濃・青花・加工板・加工棒がある。

1310号土坑 (S K1310, 第294図)

X224Y380にある溝S D2020を切り作られた81cm×75cm、深さ18cmの不整形な土坑で、土師器・須恵器・近世陶磁器・加工板・箸・竹製品が出土している。

2641は須恵器の杯Aである。口径11.6cm、器高3.3cm、体部が外へひらき、口縁端部は外反する。9世紀前半のもの。

1323号土坑 (S K1323, 第294図)

X223Y382にある東部分を暗渠により破壊された長径約90cm、深さ27cmの土坑で、遺物には瀬戸美濃・加工板・加工材がある。

2642は瀬戸美濃の靉皿である。口径9.4cm、器高2.4cm、体部はゆるやかに外反し、口縁端部は外側を軽く面取りする。高台は削り込み高台となる。全面に鉄軸を施釉する。見込みにトチン痕、底部に輪ドチ痕がある。大窯第Ⅱ段階のものと考えられる。2643～2646は加工材である。2643～2645は長さが15.5cm～16.5cmとほぼ同じ長さの角材で、2646だけが25cmと長い。角材の幅は4本とも1.2cmである。2643・2645は角材の中央に孔を穿ち、中に木釘が残る。また、両端の小口面から穴をあける。2644は角材の中央に挟りをいれ、2643・2645と同様に両端の小口面から穴をあける。2646は角材の中央と両端に同じ面から孔を穿つ。この4本は同一製品の部材と考えられる。

1331号土坑 (S K1331, 第294図)

X225Y378の溝S D2020の上に掘り込まれた直径約65cm、深さ6cmの浅い土坑で、遺物は越前・青花・加工板・銅銭・刀子がある。

2647は刀子である。鉄製で、長さ8cm。峰・刃ともに直だが、先端は峰・刃が平行なまま、刃側に傾く。刃から茎へは、斜めに幅を減じている。

1334号土坑 (S K1334, 第295図, 図版145)

X223Y383にある北側を暗渠により切られた直径30cm、深さ8cmの土坑で、漆塗りの部材が出土している。

2648は加工板である。縦2.5cm、横5.5cmの板で、2カ所を挟って横幅の広いT字形に加工し、板の長い方、短い方それぞれの短辺を斜めに切り落として、断面を台形にする。上の小口の両端近くにそれぞれ1つずつ孔が穿たれており、その2孔には木釘が残る。裏面と挟りをいれた部分に黒色漆が付着している。

## 1340号土坑 (S K1340, 第295図, 図版116)

X 217 Y 381にあり, S D1378が北側と西側を「L」状に囲む。土坑は69cm×54cm, 深さ18cmで不整形である。遺物には, 越前・中国製白磁・瓦質土器・石臼・加工木がある。

2649は中国製白磁の端反り皿である。口径10.8cm, 器高3cmで, 全面に施釉され, 見込みは蛇の日に釉剥ぎする。この釉剥ぎの内側に砂が付着し, 重ね焼きの痕が残る。高台から高台内部, 底部において釉のかからない部分がある。壘付内外には砂が付着する。2650は石臼の上臼である。直径は約27cmで, 欠損が激しく, また火を受けて焦げた部分がある。裏面には供給口と「ものくばり」があり, 目の間隔は粗い。

## 1342号土坑 (S K1342, 第295図)

S K1340のわずかに東に位置する直径約80cmの長円形の土坑で, 越前・硯が出土している。

2651は石硯である。凝灰質泥岩製で, 硯尻側の破片である。厚さは1.9cm。内面に墨痕が残り, 裏面に擦痕がある。

## 1349号土坑 (S K1349, 第289図, 図版105)

X 217~218 Y 374~375にある2.85m×2.65m, 深さ32cmの不整形な土坑で, 須恵器・土師器・中世土師器が出土している。

## 1351号土坑 (S K1359, 第289図)

S K1349の南西約2mに位置する長径56cm, 深さ43cmの穴で, 柱痕を残す。遺物はない。

## 1353号土坑 (S K1353, 第290・295図, 図版105)

X 220 Y 374にある2.36m×2.05m, 深さ27cmの不整形な形で, 遺物には須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・底板・加工板・加工材・漆製品がある。

2652は中世土師器の皿である。口径13cmで, 非ロクロ成形, 口縁部と体部内面をナデ調整し, 体部外面は未調整である。身は浅く, 体部は強く外反し, L縁部は厚みを増して, 内部に平坦な面を作る。L縁端部は上へ小さくつまみあげ, 端部内面に溝ができる。2653・2654は加工材である。2653は縦5.2cm, 横9.5cmの長方形の板の左下部を大きく切り取った形のもので, 全体で7ヵ所に木釘の穴が穿たれ, 2ヵ所で木釘が残存する。特に右側は切欠きにし, 凸部と凹部で木釘を打ち込む方向を変えている。箱のようなものの部材かと考えられる。2654は幅が2.6cmの長方形の板で, 上端近くに木釘の穴を2ヵ所穿ってある。下部は欠損している。2655は底板である。直径は約28.5cmで, 表面の縁辺部に黒色漆が付着する。

## 1362号土坑 (S K1362, 第295図)

X 225 Y 375にある1.6m×1.2m, 深さ12cmの不整形な土坑で, 須恵器・越前が出土している。

2656は須恵器の甕の口縁である。口径18cmで, 口縁端部が外へ引き出されて, 断面が三角形となる。

## 1363号土坑 (S K1363, 第295図)

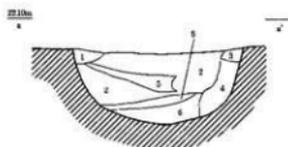
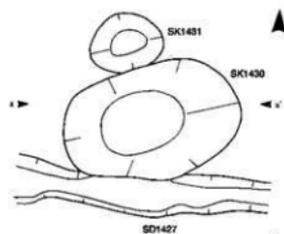
X 219 Y 381にある78cm×72cm, 深さ21cmの円形土坑でS K2089を切る。遺物には加工棒・加工板・加工材・箸がある。

2657は箸である。長さ26.2cm, 完形で, 両端はやや細くなるものの, 尖らせない。

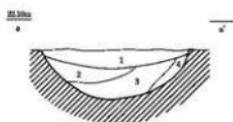
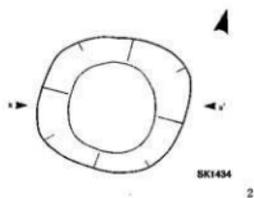
## 1371号土坑 (S K1371, 第295図)

X 228 Y 371にある直径58cm, 深さ15cmの円形土坑で, S K1372と切り合う。遺物には砥石がある。

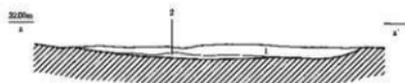
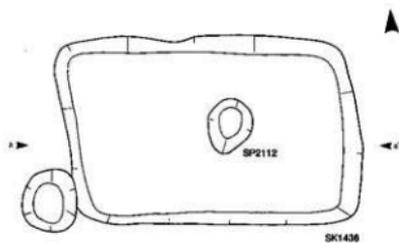
2658は砥石である。流紋岩製で, 表裏両面に擦痕がある。



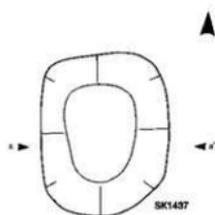
- SK1430**
1. 2375/4 障子土層 (少) 少
  2. 2374/4 障子土層 (少) 少
  3. 2375/5 障子土層 (少) 少
  4. 2374/7 障子土層 (少) 少
  5. 2373/7 障子土層 (少) 少
  6. 2373/7 障子土層 (少) 少



- SK1434**
1. 2374/2 障子土層 (少) 少
  2. 2373/2 障子土層 (少) 少
  3. 2373/7 障子土層 (少) 少
  4. 2374/7 障子土層 (少) 少



- SK1436**
1. 2374/4 障子土層 (少) 少
  2. 2374/4 障子土層 (少) 少

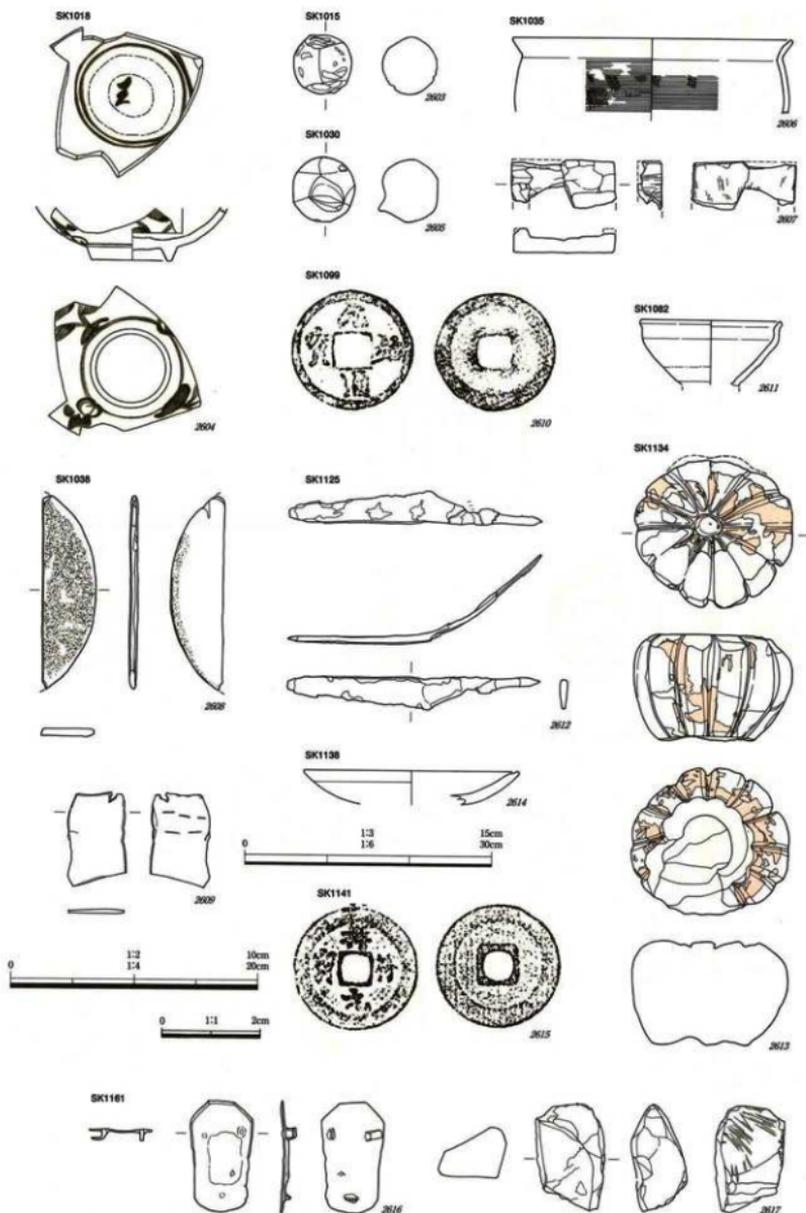


- SK1437**
1. 2374/4 障子土層 (少) 少



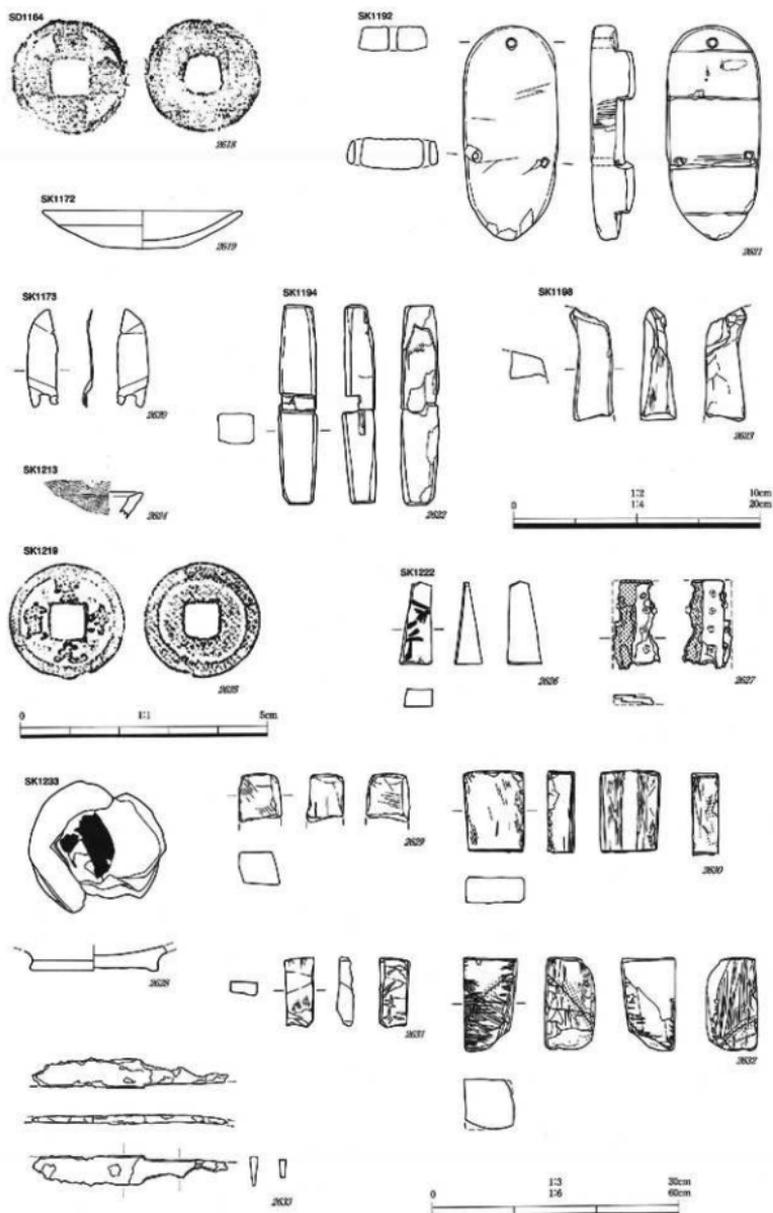
第291図 遺構実測図

1. SK1430 2. SK1434 3. SK1436 4. SK1437

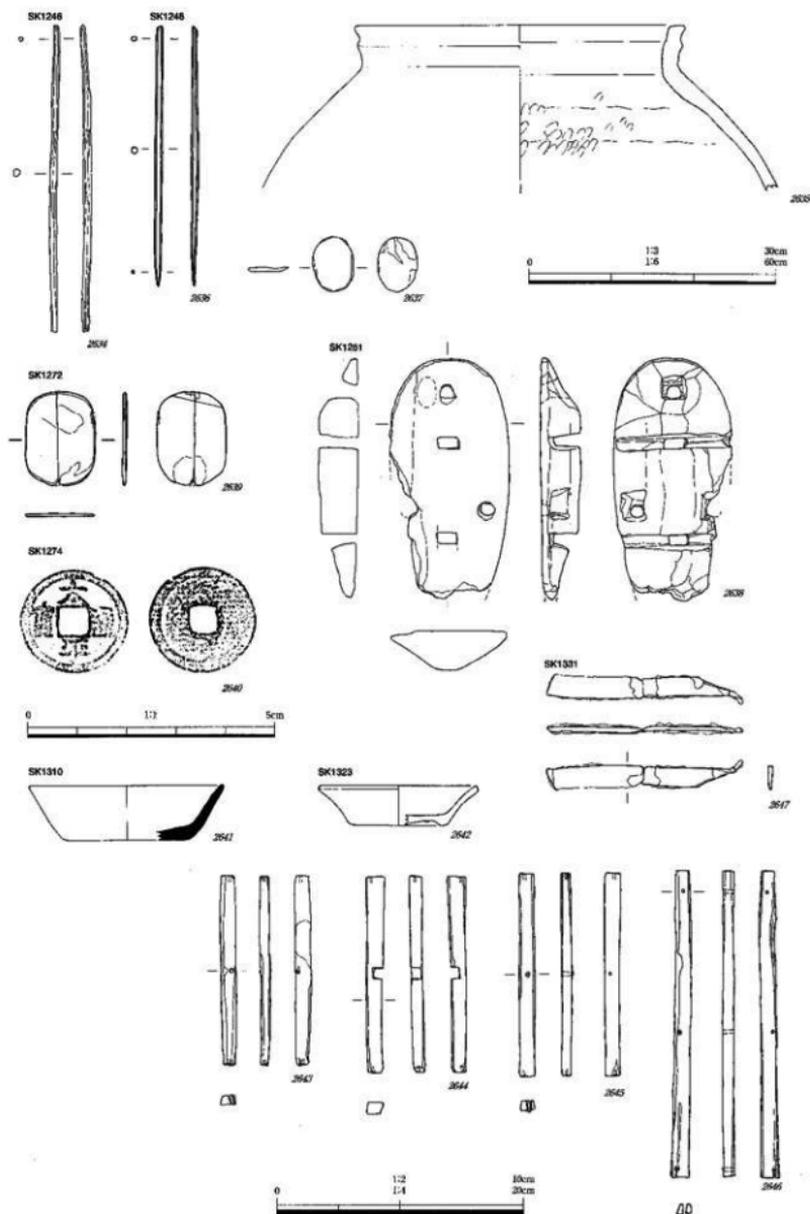


第292図 遺物実測図 (2603・2605・2610・2615 1/1, 2607・2609・2612・2613・2616 1/2, 2604・2614 1/3, 2608・2611・2617 1/4, 2606 1/6)  
 SK1015(2603) SK1018(2604) SK1030(2605) SK1035(2606・2607) SK1038(2608・2609) SK1082(2611)  
 SK1099(2610) SK1125(2612) SK1134(2613) SK1136(2614) SK1141(2615) SK1161(2616・2617) 181

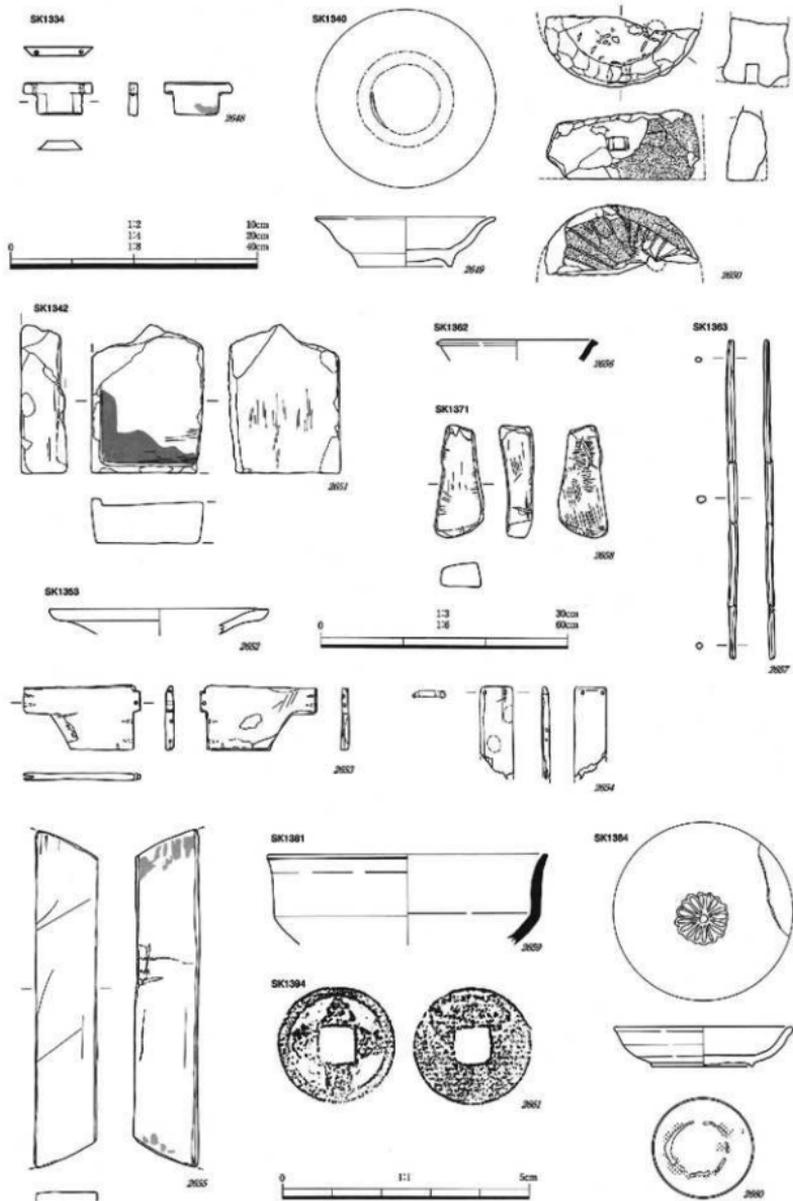
1 中世 (A地区~C地区)



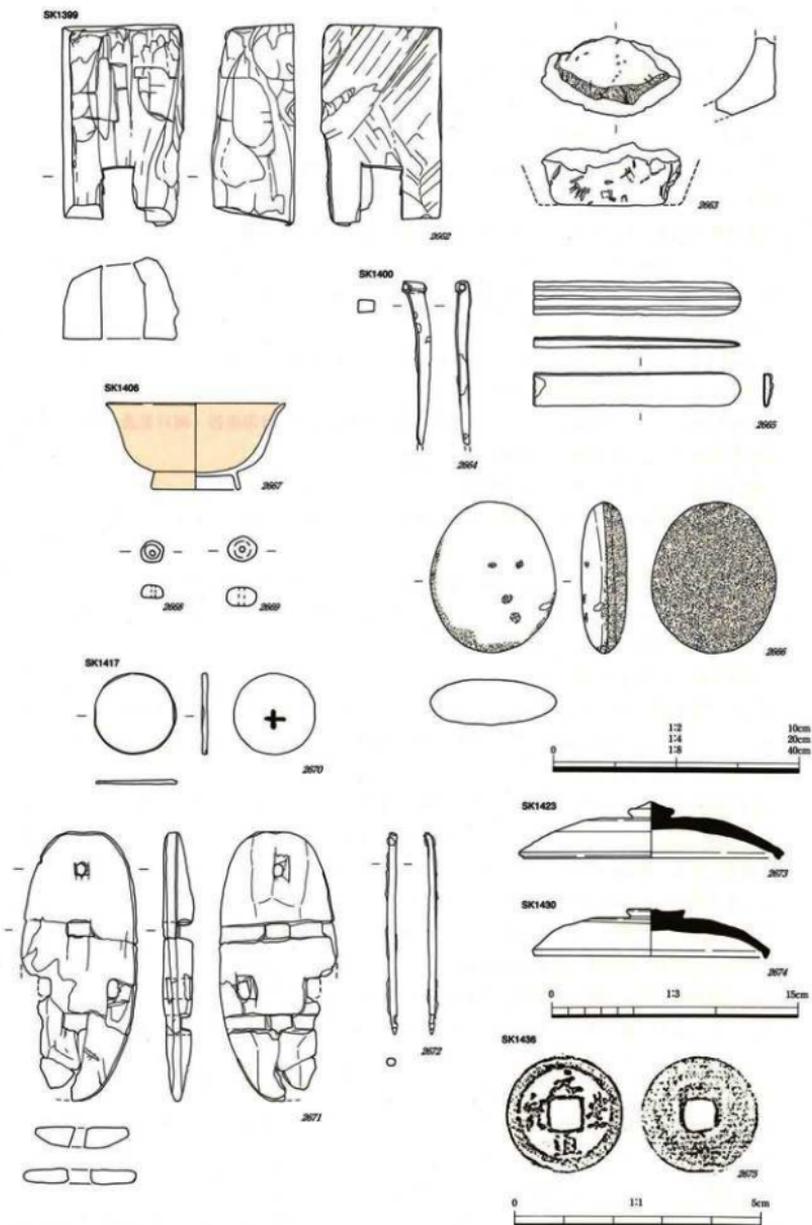
第293図 遺物実測図 (2618・2625 1/1, 2620・2626~2628・2633 1/2, 2619 1/3, 2621~2623・2629~2632 1/4, 2624 1/6)  
 SD1164(2618) SK1172(2619) SK1173(2620) SK1192(2621) SK1194(2622) SK1198(2623)  
 SK1213(2624) SK1219(2625) SK1222(2626・2627) SK1233(2628~2633)



第294図 遺物実測図 (2640 1/1, 2647 1/2, 2641・2642 1/3, 2634・2636-2639・2643-2646 1/4)  
 SK1246(2634) SK1248(2635-2637) SK1251(2638) SK1272(2639) SK1274(2640) SK1310(2641)  
 SK1323(2642-2646) SK1331(2647)



第295图 遺物実測図 (2661 1/1, 2651 1/2, 2649・2659・2660 1/3, 2648・2653・2654・2655・2657・2658 1/4, 2656 1/6, 2650 1/8)  
 SK1334(2648) SK1340(2649・2650) SK1342(2651) SK1353(2652~2655) SK1362(2656) SK1363(2657)  
 SK1371(2658) SK1381(2659) SK1384(2660) SK1394(2661)



第296図 遺物実測図 (2668・2669・2675 1/1, 2664・2665・2672 1/2, 2673・2674 1/3, 2662・2666・2667・2670・2671 1/4, 2663 1/8)

SK1399(2662・2663) SK1400(2664~2666) SK1406(2667~2669) SK1417(2670~2672) SK1423(2673) SK1430(2674) SK1436(2675)

1381号土坑 (S K 1381, 第295図)

X 217 Y 384にある直径約60cm, 深さ6cmの円形土坑で, 須恵器が出土している。

2659は須恵器の稜碗である。口径16.8cmで, 体部は屈曲して明確な稜をなし, 口縁部で外反する。口縁端部は丸くおさめ, 外面に浅い溝を1条めぐらせる。

1384号土坑 (S K 1384, 第295図, 図版105・117)

X 228 Y 370にある96cm×78cm, 深さ40cmの長円形の穴で, 遺物には越前・瀬戸美濃・加工棒・加工板がある。

2660は瀬戸美濃の丸皿である。口径10.6cm, 器高2.4cmで, 全面に灰釉を施す。体部は丸みをもって立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。漆継ぎが施され, 見込みには菊の印花が押捺されている。底部に輪ドチ痕があり, その周囲に黒色漆が付着する。大窯第Ⅱ段階にあたると考えられる。

1383号土坑 (S K 1383, 第290図)

X 228 Y 371にある77cm×55cm, 深さ37cmの楕円形土坑で, 遺物には土師器がある。

1394号土坑 (S K 1394, 第290・295図)

X 230 Y 379にある一辺94cm, 深さ31cmの隅円方形の土坑で遺物には須恵器・瀬戸美濃・銅銭がある。

2661は銭貨で, 「元祐通寶」(初鑄1086年)である。

1399号土坑 (S K 1399, 第296図, 図版164)

X 228 Y 390にある長径2.68m, 短径2.22m, 深さ20cmの不整形な土坑で, 遺物には越前・青花・加工材・石鉢がある。

2662は加工材である。長さ16.3cm, 幅9.8cmの長方形で, 6.5cmと厚みのある材の下部中央を長方形に抉る。裏面には削りの痕がみられ, 平らに仕上げている。2663は石鉢である。内外面には粗いノミ痕が残る。被熱により, 内面の一部が焦げている。

1400号土坑 (S K 1400, 第290・296図, 図版165・173)

X 219・220 Y 397に見られる長さ4.83m, 幅1.44m, 深さ29cmの大きな土坑で中央部は試掘トレンチで削られている。そのため2個の土坑の可能性もある。遺物には須恵器・中世土師器・越前・加工板・漆器・磨石・小柄・釘がある。

2664は鉄釘である。断面は四角形で, 上端を叩き伸ばして平らにし, 折り曲げて頭部とする。下端は欠損している。2665は小柄である。長さ8.4cm, 幅1.4cmで, 柄尻を丸くし, 片面に3条の沈線を彫って装飾とする。2666は磨石である。花崗岩製で, 裏面全面が焼けている。

1406号土坑 (S K 1406, 第288・296図, 図版145)

S D 1168を挟んだ東側にみられる長さ2.11m, 短径1.66m, 深さ39cmの楕円形土坑でS K 1233を切る。遺物には青花・漆器碗・数珠玉がある。

2667は漆器碗である。緋赤色漆で, 口径14.4cm, 器高7cm。体部は内湾しつつ立ち上がり, 口縁部が外反する。高台は輪高台で, 細く外傾する。2668・2669は数珠である。2668は直径5mm, 2669は直径6mm, ややつぶれた円形で, 中央の孔の周囲に平坦な面をもつ。

1417号土坑 (S K 1417, 第290・296図, 図版105・145)

X 224 Y 378にある直径約80cm, 深さ30cmの円形土坑でS K 1338と重複する。遺物には, 越前・箸・漆器・底板・下駄・加工板・加工材・棒状鉄製品がある。

2670は蓋板で, 直径6.6cm, 裏面に「」の墨書がある。2671は露卯下駄である。台は長さ21.9cm, 幅9.4cmの長円形である。前壺は台裏から四角形に彫り込んで, 台表では円形にする。後壺は台の表裏

から彫り込んで四角形になる。歯と組み合わせる納孔は前後に1つずつ穿つ。2672は棒状の鉄製品である。上端はやや曲がっており、下端は円錐状に尖る。

1423号土坑（S K1423, 第296図）

X217Y359にある長径81cm, 短径58cm, 深さ59cmの楕円形の土坑で、S P1109と重複する。遺物には、須恵器・漆器がある。

2673は須恵器の杯B蓋である。口径15.4cm, 器高3.4cm, つまみは擬宝珠形で、頂部をヘラ削りし、他はロクロナデで調整する。口縁端部は下方に短く垂下させ、強くなでて断面が三角形となる。

1430号土坑（S K1430, 第291・296図, 図版117）

X118Y358にある長径1.45m, 短径94cm, 深さ63cmの楕円形土坑で須恵器・珠洲・中世土師器が出土している。また、S D1427・S K1431と重複する。

2674は須恵器の杯蓋である。口径14cm, 器高2.8cm, つまみは扁平な擬宝珠形となる。頂部はロクロ削りし、他はロクロナデで調整する。口縁端部は下方へやや長めに垂下させる。

1436号土坑（S K1436, 第291・296図, 図版105）

X218Y359にある2.37m×1.54m, 深さ12cmの長方形の土坑で、遺物には土師器・越前・中国製白磁・銅銭がある。S B16と重複関係をもつが新旧は不明。

2675は銭貨で、「元豊通寶」（初鑄1078年）である。

1441号土坑（S K1441, 第297・300図, 図版105）

X220Y358にある2.08m×2.02m, 深さ8cmのやや歪んだ方形の土坑で、S B124に取り込まれた竪穴状土坑と考えられる。遺物には土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・中国製青磁・中国製白磁がある。

2676～2678は中世土師器の皿である。いずれも非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。2676・2677は口径8.7cm・9.2cm, 器高2.1cm・2.2cmで、体部が内湾して立ち上がり、口縁端部を小さく尖らせる。2676は口縁部の下を指で押え、口縁端部外面に煤が付着する。2678は口径12.2cm, 器高2.2cm, 平底で、体部が外方へ開き、口縁端部は小さくつまんで尖らせる。

1457号土坑（S K1457, 第300図, 図版109）

X224Y358にある長径1.06m, 短径85cm, 深さ34cmの楕円形の土坑で、遺物には土師器・青花がある。

2679は青花の端反り皿で、口径10.4cm, 体部から口縁部へ強く屈曲し、この屈曲部外面に界線を1条描く。口縁部は水平に近く、口縁部内側の幅広の面に界線を1条描く。2次被熱を受ける。

1469号土坑（S K1469, 第300図, 図版116）

X222Y356のS K1451の中に検出された柱穴状の穴で、直径30cm, 深さ18cmである。遺物には中世土師器・越前・加工板がある。

2680は中世土師器の皿で、口径10.6cm, 器高2.4cm, 非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。体部はやや外方へ開き、口縁端部は小さく尖らせる。

1477号土坑（S K1477, 第297・300図, 図版106・108・109）

X226～227Y357～358にある4m×3.29m, 深さ86cmの歪んだ方形の土坑で、中に別の直径1.2mの円形土坑が重複する。遺構の新旧関係はS D1471>S K1477>円形土坑となる。またS D1481はこの円形の土坑に伴う溝と考えられる。遺物には土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・中国製青磁・青花・付札・漆器・加工板・石臼・砥石・銅銭がある。

2682・2683は須恵器である。2682は杯B壺で、口径15.2cm、頂部はロクロ削りで調整する。口縁部はゆるく下方へ垂下させる。2683は杯で、口径15.2cm、体部は外方へ開き、口縁部は外反する。2684・2685は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。底部は平底をなし、身が浅く、体部が外方へ開き、口縁部が外反する。2684は口径13.4cm、器高2.1cm、口縁部は尖らせて、端部内面に平坦面をつくる。2685は口径14.8cm、口縁部を小さく上方へつまみあげる。2687は中国製白磁の端反り皿である。口径は11.2cm、器高3cm、高台壘付以外の全面に施釉され、壘付の外側には砂が付着する。2688は中国製青磁の碗である。口径15.8cm、体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は外に開く。幅の広い片切彫の鎬蓮弁文をもつ。2686・2689は青花である。2686は端反り皿で、口径10.4cm、体部から口縁部へ強く屈曲し、この屈曲部外面に界線を1条描く。口縁部は水平に近く、口縁部内側の幅広の面に界線を1条描く。2次被熱を受ける。接合はしないが、2679と同一個体かと考えられる。2689は碗である。口径11.9cm、体部は丸みをもって立ち上がる。外面に草花文？、内面に幅の広い線を1条描く。2690は石臼の上臼である。直径は約29cm、下部のふくみが大きく、日の間隔は粗い。2691は銭貨で、「天聖元寶」（初鑄1023年）である。

1511号土坑（SK1511、第298・300図、図版106）

X216 Y362にある2.93m×2.73m、深さ13cmの方形土坑で、SB127に伴う堅穴状土坑と考えられる。遺物には、土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃がある。

2692は須恵器の杯Aである。口径12.2cm、器高3.3cm、体部は外方へ開く。底部はヘラ切り未調整。1521号土坑（SK1521、第298図）

X218 Y364にある97cm×94cm、深さ69cmのほぼ円形の土坑で、土師器・須恵器・珠洲・石鉢が出土している。

1535号土坑（SK1535、第298・300図、図版106・117）

X220 Y360にある2.14m×2.11m、深さ11cmのほぼ方形の堅穴状土坑で、SB126に伴うと考えられる。遺物は、土師器・須恵器がある。

2693は須恵器の杯Bである。口径14cm、器高3.6cm、体部は外反気味に開き、口縁部はやや尖る。高台は内傾する。体部内面に降灰がかかる。

1553号土坑（SK1553、第299・300図、図版106）

X225 Y361にある86cm×62cm、深さ38cmの楕円形の土坑で、須恵器・越前が出土している。

2694は須恵器の瓶の頸部である。沈線が1条めぐり、内外面に降灰がかかる。

1568号土坑（SK1568、第299・300図）

X222 Y365にある1.17m×1.13m、深さ49cmの隅丸円形の土坑で、底は平坦でない。遺物には、土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・漆器・中世陶磁器がある。

2681は中世土師器の皿である。口径11.2cm、非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。体部はやや外方へ開き、口縁部が外反する。口縁部は小さく尖らせる。

1581号土坑（SK1581、第300図、図版117）

X222 Y362にある長辺1.92m、短辺1.25m、深さ13cmの長方形の土坑で、SD1582・SK1608に切られる。遺物には、須恵器・土師器がある。

2695～2698は須恵器である。2695・2696は杯Bである。2695は体部が直立気味に立ち上がる。高台は外傾して、高台の外端が接地する。底部はヘラ切り後軽いナデを施す。体部内面は降灰がかかる。2696は体部が内湾しながら立ち上がる。高台は外傾し、高台の内端が接地する。底部はヘラ切り後未

調整である。2697は杯B蓋で、口径16cm、口縁端部は外傾しながら長く垂下させる。2698は壺で、口径12.6cm、器高17.3cm、口縁部は外傾し、端部はやや外側を面取り気味に丸くおさめる。頸部から肩部へはカキメ、体部下半はヘラ削りを施す。

1583号土坑（SK1583、第299・300図）

X220Y361にみられる1.48m×1.2m、深さ49cmの不整形な土坑で、SD1612と重複する。遺物には、土師器・須恵器・石臼がある。

2699は石臼の下臼である。直径は約33cmで、上面は全て欠けており、目は不明である。ふくみが大きく、裏面にはノミ痕が残る。側面・裏面は火を受けて焦げている。

1700号土坑（SK1700、第299・301図）

X218Y394にある83cm×79cm、深さ20cmの隅円方形の土坑で、SD1168から西に続くSD1902の端にある。いわゆる水溜状の穴で、SB135の排水施設と考えられる。またSK1401・SK1400に切られる。遺物には須恵器・越前・中世土師器・瀬戸美濃・底板・箸・加工板がある。

2700は中世土師器の皿である。口径8.6cm、器高2.1cm、非口ロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。体部が内湾して立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。口縁端部内外には煤が付着する。2701は底板である。直径11.4cm、側面には加工痕が残る。

1704号土坑（SK1704、第301図、図版109）

X227Y403にある40cm×23cm、深さ11cmの柱穴状の穴で、SD1165・SD1098に切られる。遺物には青花・石鉢がある。

2702は青花の皿である。見込みにも2条の界線と花文、体部外面は唐草文、腰部から高台外面にかけて2条の界線を描く。全面に施釉する。壺付は斜めにヘラ削りを施して面とりし、砂が付着する。

1783号土坑（SK1783、第301図）

X220Y400にある土坑で、北側を暗渠により切られているため全長はわからないが幅54cm、深さ7cmが残る。遺物には刀子がある。

2704は刀子である。鋒と刃は直で、茎は欠損している。鏨のため、詳細は不明。

1916号土坑（SK1916、第301図、図版108・145・173）

SB133のプランと考えられる部分に掘り込まれた4.68m×3.75m、深さ26cmの竪穴状土坑で、埋土は殆ど藁灰状の炭化物であった。この炭化物層から、栽培植物の炭化したものや遺物が出土している。遺物には、土師器・須恵器・中国製白磁・青花・加工材・加工板・枕・竹製品・箸・糸巻・漆器碗・漆器・数珠玉・曲物・下駄・砥石・石突き・鉄・釘がある。

2705・2706は中国製白磁の端入り皿である。口径は15cmと15.3cm、器高は3.6cmと3.8cmで、全面に施釉する。高台はやや内傾し、壺付外側を斜めにヘラ削りを施して面取りする。壺付内外には砂が付着する。2707は漆器碗である。口径8.2cm、体部は丸みを帯びて立ち上がり、高台は外傾する。外面は黒色漆を塗布し、赤色漆で文様を描く。内面は赤色漆を塗布する。2708は加工板である。長方形の板で、上端近くの中央に1対の切込みがあり、綴皮が残る。また中央やや上寄りに圧痕がみられる。2709～2713は数珠である。直径7～9mm。2714は砥石である。欠損が多く、観察できる部分は少ないが、表面に擦痕がみられる。2715は鋏である。握り鋏で、両刃は残存するが、2つの刃をつなぐ部分が欠損する。両刃は咬み合わせると右の刃が上になる。2716は鉄釘で、長さ6.2cm、断面は四角形、上端を叩き伸ばし、折り返して頭部とする。2717は鉄製の石突で、長さ5.9cm、側面には対になるように2カ所に孔が穿たれており、上部に柄を差し込み、側面の孔から鉄の棒を貫通させて、柄と石突きを固定

する。下部は断面が六角形になるように面取りをする。

2031-2号土坑 (SK2031-2, 第301図)

X223Y384にみられるSB120・SB122・SB131などの柱穴が最も重複する部分にあたり土坑の大きさは推定にとどまるが長さ1.39m×61cm, 深さ42cmを測る。遺物には下駄・柱がある。

2718は雪下駄である。幅8cm, 下部は欠損しており, 表面は火を受けて炭化している。

2037号土坑 (SK2037, 第302図, 図版118)

X218Y379にある長径3.54m, 短径1.86m, 深さ42cmの不整形な土坑で, SK2079を切る。SK2078・SK2079などと同じく建物の裏に面して作られており, ゴミ穴と考えられる。遺物には, 須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・著・木椀・加工材・加工板がある。

2719は中世土師器の皿である。口径9.1cm, 器高2.2cm, 非口ロ成形で, 口縁部と体部内面をナデ調整し, 体部外面は未調整である。体部は内湾して立ち上がり, 口縁端部は小さく上につまむ。口縁端部内外には煤が付着する。2720は加工板で, 長辺に2孔, また上端の小口面から2穴を穿つ。表裏面には刀痕がみられ, 側面と裏面の一部に黒色漆が付着する。2721は底板で, 直径は約33cm, 綴皮のための切込みと, それよりもやや内側に小孔を穿つ。2722・2723は箸で, 長さ23cmと21.1cm。完形で, 両端をやや細くする。

2077号土坑 (SK2077, 第299・302図)

X219Y377にある1.77m×83cm, 深さ30cmの不整形な隅丸方形の土坑で, SD2053を切り作られている。SD2053は町割りを区画する溝であり, それを意識せず作られていることから, この土坑は最終段階の町屋消滅後の遺構と考えられる。遺物には, 中世土師器・越前・曲物・著・加工材・加工板がある。

2724は箸で, 長さ24.7cm, 完形である。断面は長方形で, 両端を尖らせるが, 削りが粗い。

2078号土坑 (SK2078, 第302図, 図版106)

SK2077・2037に接してみられる2.55m×2.14m, 深さ51cmの土坑で隅丸方形のプランとなる。用途はゴミ穴と考えられる。遺物には, 越前・曲物・下駄・編物・加工板・加工材・杭がある。

2725は雪下駄である。幅8.5cm, 下部が欠損している。表面の左側に疋痕が見られる。2726～2729は加工材である。2726は板の裏面の下半を一段削り, 上部に孔を1つ穿て, 木釘を差し込んだもの。2727は長方形の板の上端を半円形に加工し, 斜め方向に5条の線を彫り込む。2728は長方形の板の上端の一部を残して削り, 側面に等間隔に4つの穴を穿つ。2729は細長い板の上下端の片方の角を四角く抉り, 表面に対して斜めに削って, 側面からみて台形となるようにする。この側面から1つずつ穴を穿つ。また, 抉りを入れなかった長辺は等間隔に7つの孔を穿ち, 中央の孔以外には木釘が残存する。

2079号土坑 (SK2079, 第303図)

SK2037に切られる土坑で長径1.92m, 残存部で幅1.45m, 深さ37cmである。これもゴミ穴と考えられるもので, 遺物には中国製白磁・著・漆器・底板・加工板がある。

2730は中国製白磁である。高台は高く直立する。全面に施釉するが, 壺付の軸は削りとられ, 壺付内側に砂が付着する。

2084号土坑 (SK2084, 第279・303図, 図版114)

X224Y376にあるSD1953の肩の部分に作られた長径1.55m, 短径90cm, 深さ37cmの土坑で, 遺物には越前・中国製白磁・底板・加工板がある。

2731は中国製白磁の菊皿である。口径11.8cm, 口縁端部外面に軸がたまって厚みを増している。漆

継ぎの痕がみられる。2732は瀬戸美濃の壺で、茶入である。口径3.4cm、口縁部は短く外傾し、体部はなで肩である。鉄軸を施す。2733は底板である。直径は約21cm。縁辺からやや内側へはいったところに1対の孔を穿つ。

2089号土坑（S K2089, 第303図）

X218 Y381にあり S E1304・S K1363に切られる土坑で、約1/3が三日月状に残る。残存幅は81cm、深さ34cm。遺物には、瀬戸美濃・底板・加工材・錐がある。

2734は瀬戸美濃の天目茶碗である。口径11cm、体部は直線的に外に開き、強く屈曲してS字口縁となる。体部内面から外面下半は鉄軸、下半から腰部にかけては錐軸を施す。2735は底板である。平面は長円形となる。2ヵ所にそれぞれ1対の切込みがあり、緞皮が残る。表裏面に刀痕がみられ、表面は火を受けて炭化している。2736は錐である。鉄製で、長さ12.4cm、刃部は7.5cmで三角形を呈し、茎との境は直角となる。

2098号土坑（S K2098, 第303図）

X224 Y372にあり、S E2097に切られる土坑で、長さ1.19cm、深さ48cmの不整楕円形となる。遺物は中世土師器がある。

2737は中世土師器の皿である。口径12.9cm、器高2.2cm、非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。底部は平底、体部は外方へ開き、口縁部が外反する。

2124号土坑（S K2124, 第303図）

X218 Y369で S F 3 の東隅にある76cm×73cm、深さ30cmのほぼ円形の土坑で、遺物には中世土師器がある。

2738は中世土師器の皿である。口径9.4cm、非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。体部は外方へ開き、口縁端部は上へ小さくつまむ。口縁端部内側と体部外面に煤が付着する。

2131号土坑（S K2131, 第303図, 図版118）

X228 Y372にある17cm×14cm、深さ12cmの柱穴状で、遺物には、土師器・須恵器・珠洲・瀬戸美濃がある。

2739は瀬戸美濃の天目茶碗である。口径11cm、器高5.5cm。体部は丸みを帯て立ち上がり、屈曲してS字口縁となる。高台は削り出し輪高台となる。体部内面から外面下半は鉄軸、下半から高台には錐軸を施す。大窯第三段階のものと考えられる。

2178号土坑（S K2178, 第303図）

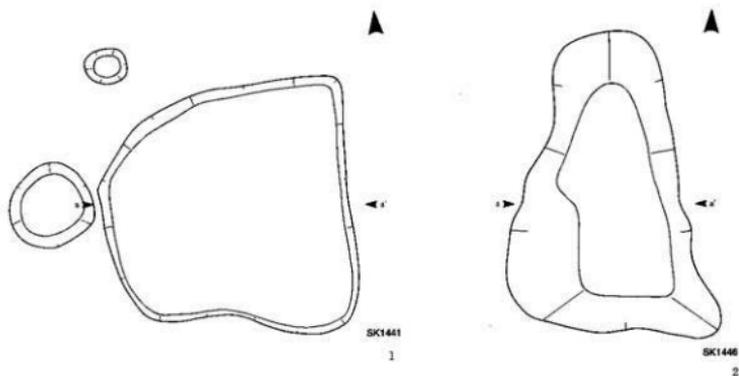
X223 Y356にある1.5m×1.37m、深さ47cmのほぼ円形の土坑で、遺物には、土師器・須恵器・瀬戸美濃がある。

2740は須恵器の杯Bである。口径15.6cm、体部は直線的に外方へ開き、口縁部は外反して細くなる。

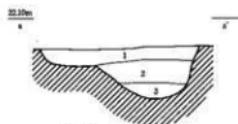
2238号土坑（S K2238, 第303図）

X225 Y361にみられる48cm×41cm、深さ33cmの土坑で、遺物には中世土師器がある。

2741は中世土師器の皿である。口径10cm、器高2.3cm、非ロクロ成形で、口縁部と体部内面をナデ調整し、体部外面は未調整である。底部は小さな平底、体部は外方へ開き、口縁端部はやや尖らせる。内外面に煤が付着する。



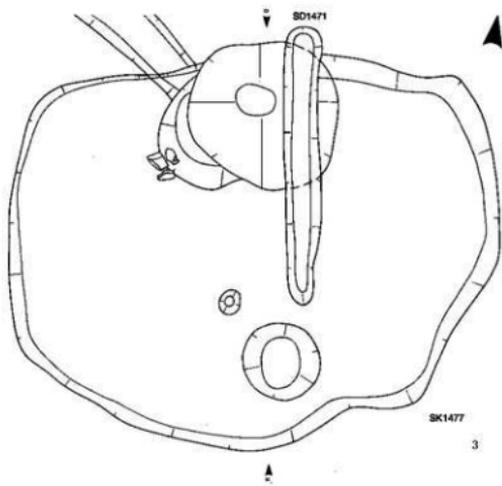
SK1441  
1. 2274号土層断面  
2. 2274号土層断面



SK1446  
1. 2274号土層断面  
2. 2274号土層断面  
3. 2274号土層断面

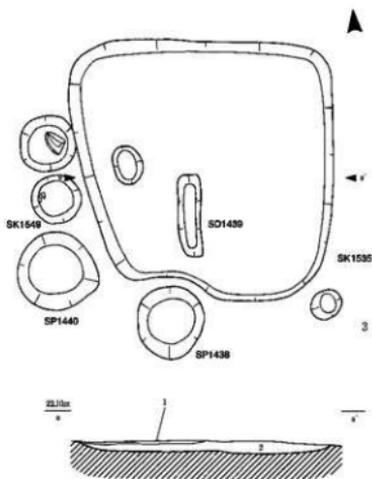
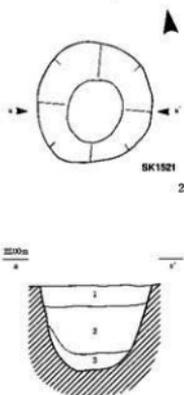
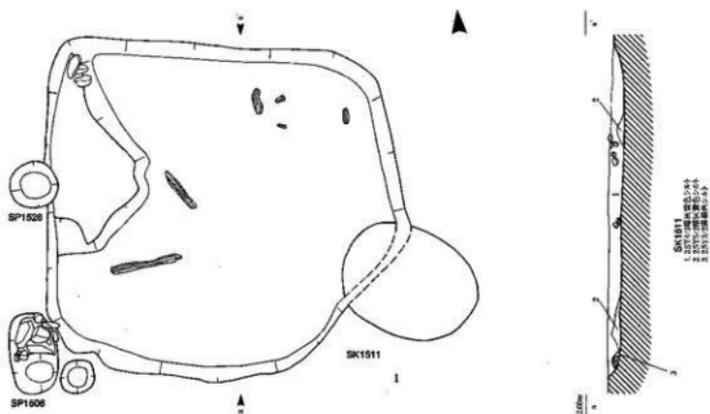


SK1477  
1. 2273号土層断面  
2. 2273号土層断面  
3. 2273号土層断面  
4. 2273号土層断面  
5. 2273号土層断面  
6. 2273号土層断面  
7. 2273号土層断面



第297図 遺構実測図

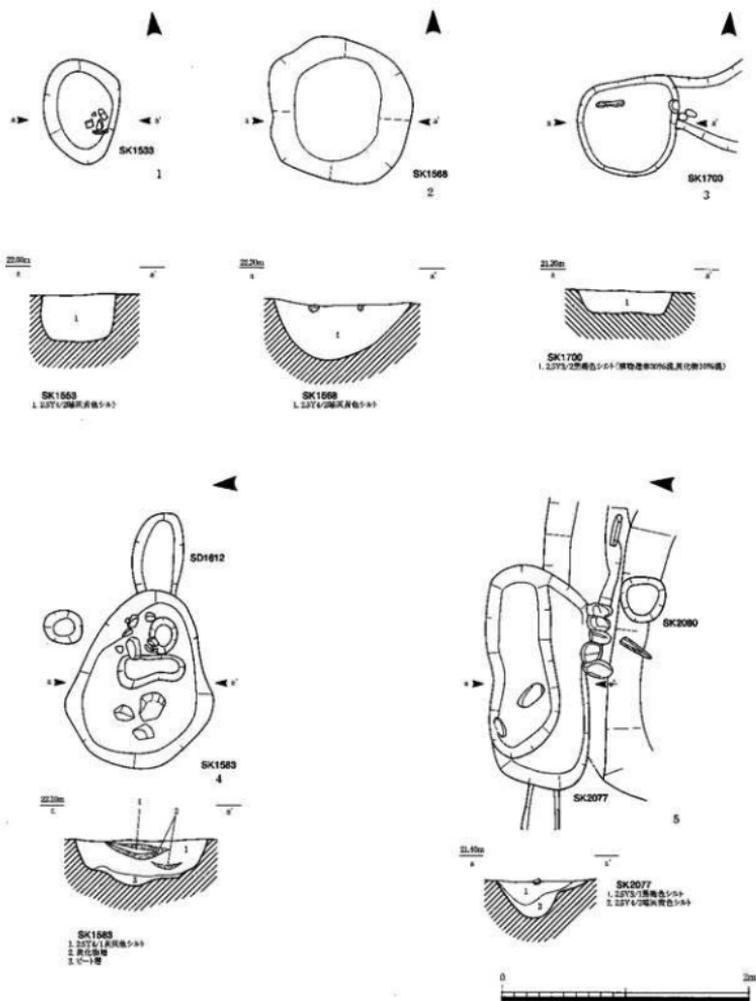
1. SK1441 2. SK1446 3. SK1477



第298図 遺構実測図

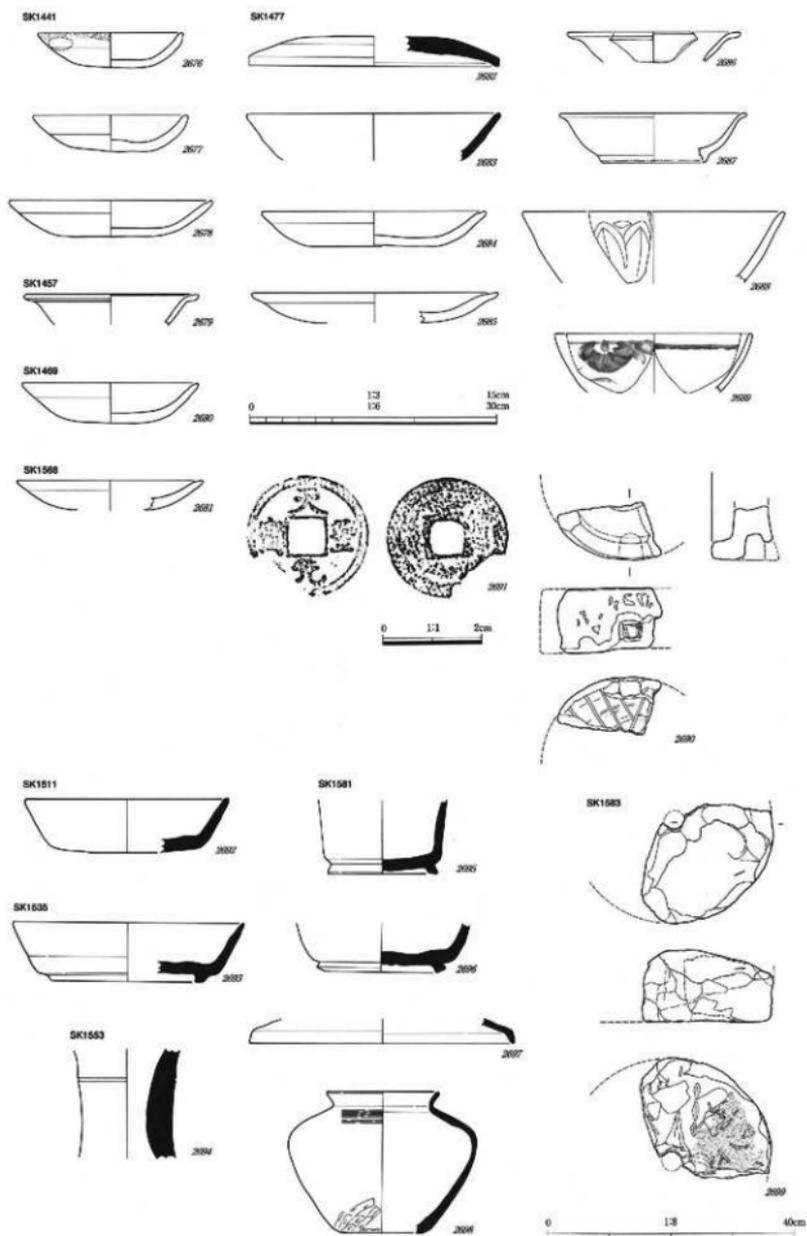
1. SK1511 2. SK1521 3. SK1535





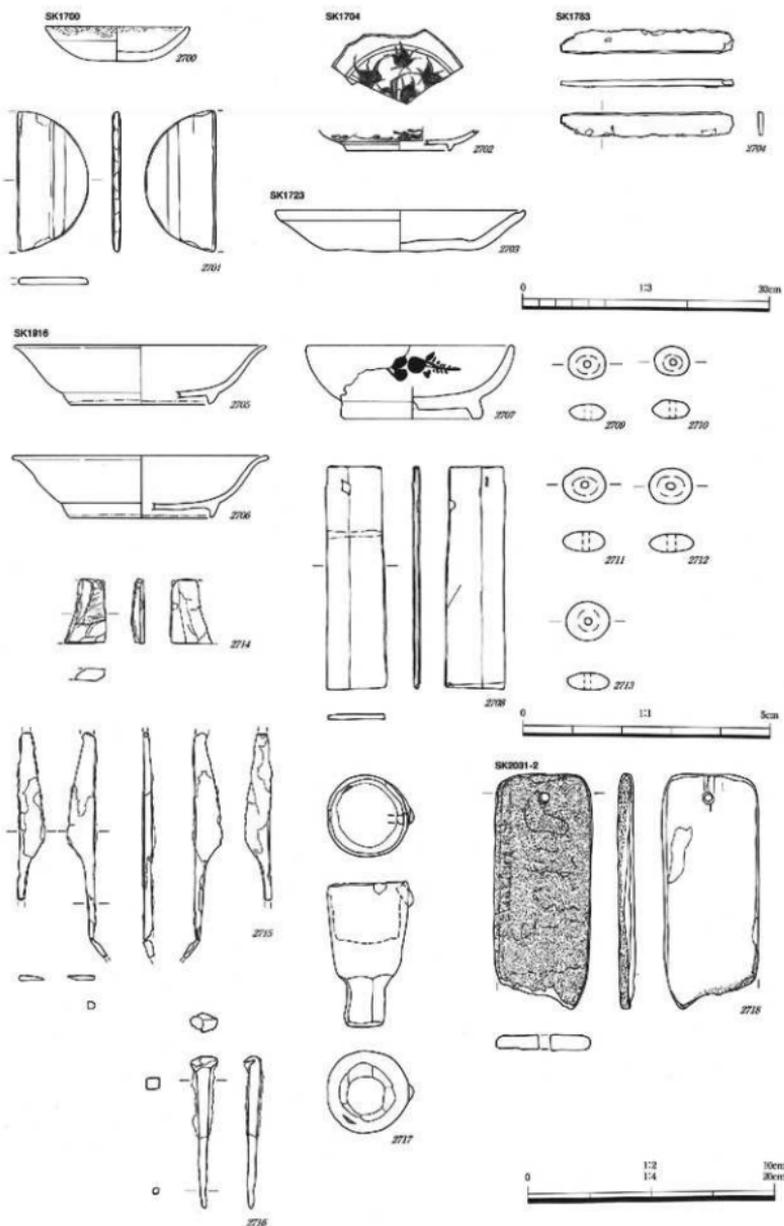
第299図 遺構実測図

1. SK1553 2. SK1568 3. SK1700 4. SK1583 5. SK2077

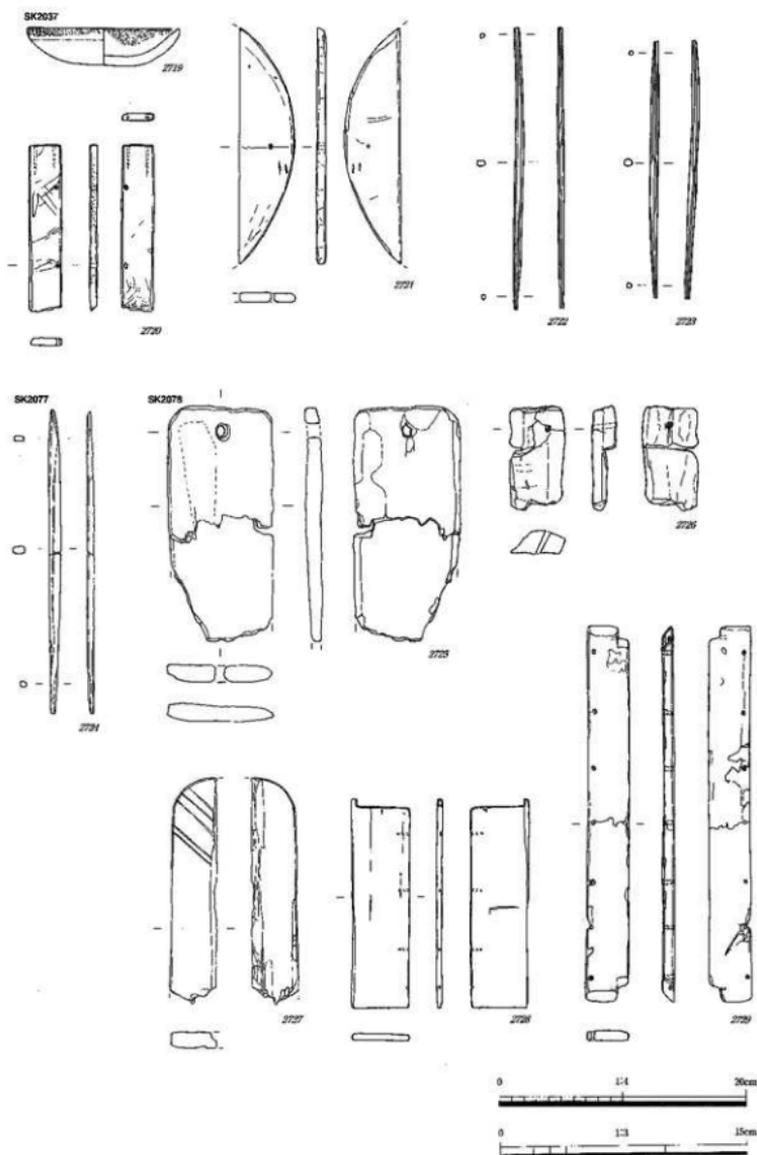


第300図 遺物実測図 (2691 1/1, 2676~2689・2692~2697 1/3, 2698 1/6, 2690~2699 1/8)

SK1441(2676~2678) SK1457(2679) SK1469(2680) SK1477(2682~2681) SK1511(2682) SK1535(2693)  
SK1553(2694) SK1568(2681) SK1581(2685~2688) SK1583(2699)

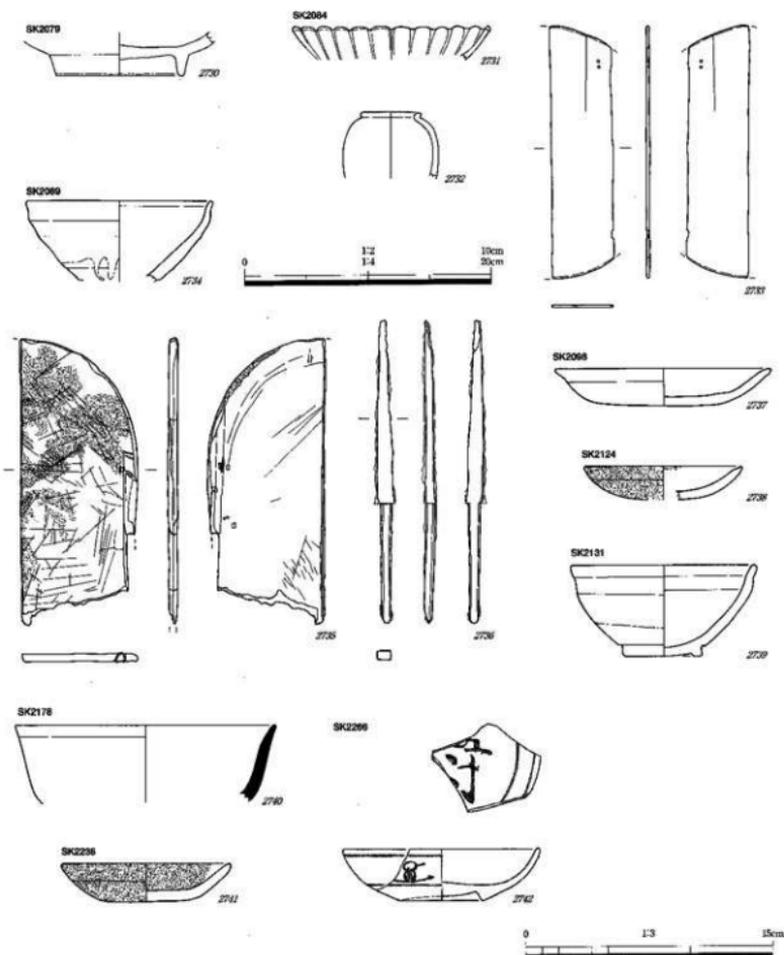


第301图 遗物実測図 (2709~2713 1/1, 2704·2715~2717 1/2, 2700·2702·2703·2705~2707 1/3, 2701·2708·2714·2718 1/4)  
 SK1700(2700·2701) SK1704(2702) SK1723(2703) SK1783(2704) SK1916(2705~2717) SK2031-2(2718)



第302図 遺物実測図 (2719 1/3, 2721~2729 1/4)  
 SK2037(2719~2723) SK2077(2724) SK2078(2725~2729)

1 中世 (A地区~C地区)



第303図 遺物実測図 (2736 1/2, 2730~2732・2734・2737~2742 1/3, 2733・2735 1/4)  
 SK2079(2730) SK2084(2731~2733) SK2089(2734~2736) SK2098(2737) SK2104(2738) SK2131(2739)  
 SK2178(2740) SK2238(2741) SK2266(2742)

## 2266号土坑 (S K 2266, 第303図, 図版109)

X 226 Y 368にあるS F 3上に掘られた直径約40cm, 深さ6cmの柱穴状の土坑で, 遺物には須恵器・青花がある。

2742は青花の皿である。口径11.8cm, 器高3.1cm, 碁笥底で, 体部は内湾しながら立ち上がる。高台内以外は施釉し, 体部外面には文字のような文様と, この上下に1条ずつ界線を描き, 見込みにも文字〔「寿」?〕を描く。  
(酒井重洋・深堀 西)

## 2917号土坑 (S K 2917, 第304図)

S B 147の南西隅に位置する隅丸長方形の土坑。S B 147に伴うものと考え。規模は長径3.86m, 短径1.35mで, 深さは22cmと浅く, 埋土は黒褐色土が堆積し, 中央が浅く窪む。遺物は須恵器が出土している。

## 2933号土坑 (S K 2933, 第304図)

C地区中央北側で検出し, S B 13の柱穴を切る。長径約1.5m, 短径約1.3mの楕円形を呈し, 深さは62cmと深い。埋土は上層に暗灰黄色シルト, 中層に黒褐色粘土質シルト, 下層にオリーブ褐色砂質シルトがレンズ状に堆積する。S B 13の柱穴を切ることから中世の土坑としたが, 他の中世の土坑の埋土が黒褐色土が主体であるのに対し, 様相が異なり, 古代の土坑の可能性もある。遺物は須恵器が出土している。

## 3004号土坑 (S K 3004, 第304・308図, 図版118)

同じくC地区中央北側で検出した菱形の土坑。S B 14の柱穴を切る。規模は長径約2.4m, 短径約1.6m, 深さは41cmである。埋土は上層に黒褐色シルトが堆積する。北に位置するS B 147あるいは南東のS B 152に関連する土坑であろうか。遺物は須恵器が出土している。

2743は口径8.5cm, 高さ3.9cmの杯Gで, 時期は古く7世紀第2四半期のものである。古代の包含層からの混入品であろう。

## 3048号土坑 (S K 3048, 第304図)

C地区中央南寄りで検出した不整形の土坑。S B 153の西に隣接する。規模は長径2.3m, 短径1.95m, 深さは12cmと浅い。埋土は炭化物が混じる黒褐色シルトが堆積する。遺物は須恵器が出土する。

## 3070号土坑 (S K 3070, 第308図)

S B 153の内部で検出した楕円形の小型の土坑。規模は長径81cm, 短径54cm, 深さ33cmである。埋土から石鉢(2744)の口縁部が出土している。口径は39cm, 口縁端部は上面で面を取る。凝灰角礫岩製で, 内外面に鑿跡が残る。

## 3502号・4174号土坑 (S K 3502・S K 4174, 第305・308・309図, 図版107・115・118)

近世の建物S B 151の東側に隣接して検出した大型の土坑。規模は長径3.7m, 短径3.2m, 深さは28cmである。埋土は炭化物の混じる黄灰色シルトで, 平坦な床面には全面に10cm大の自然石が敷き詰められていた。その自然石をはずした床面からは西寄りに, 直径約1.3mの円形の土坑S K 4174を検出した。S B 151に伴う土坑と考えられ, 遺物は土師器・須恵器・珠洲・越前・越中瀬戸・唐津・伊万里・石鉢・羽口が出土している。

2745は全体に色調が橙色を呈する8世紀前半頃の杯A。2746~2751は越中瀬戸である。2746は灰釉の折縁皿で, 内底面は内壳, 摩耗によって表面が滑らかになっている。高台は削り込み高台である。2747は白濁した灰釉の丸皿で, 内面には軸止めの段が巡り, 内底面には重ね焼き痕が残る。高台は削り出し高台である。2748・2749は鉄釉の丸皿である。2748の口縁端部は強く外反する。これらの皿は

口縁部が外反する皿が混じることから17世紀前葉～中葉のものと推定される。2751は播鉢の底部で、内外面には鎊釉が施され、内部には9本1束の卸目を半時計回りに施す。外面の体部と底部の境目には3箇所に指頭圧痕が残る。2750は壺水の底部で、内外面に鎊釉が施される。内底面には白色化した付着物の跡が、底部には炭化物が付着している。2752は唐津の皿で、体部中位に明瞭な屈曲部をもち、口縁部が外反する器形である。緑色を帯びた灰釉が内部全体と体部外面中位まで施される。見込みには3箇所の胎土目の跡が残る。体部下半は露胎で高台は削り込み高台である。体部外面、割れ口には一部炭化物が付着している。大橋康二氏の編年のI期(1580～1600年代)に相当する時期のものである。

2753は大型の羽口で、最大径は10cm、孔径2cmである。上端は剥落しているが、一部灰色に還元している箇所も残っている。

S K4174からは越中瀬戸の播鉢と石製暖房具が出土している。2771は内外面に鎊釉を施し、10本1束の卸目を反時計回りに施す。2772は暖房具の蓋で、内面にかえりが付き、天井部内側は煤けて黒色を呈する。2773は身の部分で、上下開閉式の平面形が半円形の暖房具であったと推定される。石材は白色の凝灰岩系のものである。

#### 3531号土坑 (S K3531, 第306・308図)

S K3502の東で検出した大型の近世の土坑。不整形な「L」字状を呈し、規模は長径約5.3m、最大幅で約3m、深さは18cmである。S K3502と同様に床面全面に3cm～10cm大の自然礫が敷き詰められていた。埋土はオリブ褐色シルトである。この土坑もS K3502と同じようにS B151などの近世の建物の付随するもので、作業場的な性格をもつ遺構ではなかったかと推定される。遺物は土師器・須恵器・越前・越中瀬戸が出土している。

2754は越中瀬戸の向付。鉄鉢は内面と外面の屈曲部まで施される。17世紀前葉～中頃のものか。2755は同じく越中瀬戸の播鉢である。10本1束の卸目を半時計回りに施す。内外面に鉄釉が施される。底部外面には炭化物が付着する。

#### 3577号土坑 (S K3577, 第304・308図, 図版40・107・116)

S B145の北東に隣接して検出した円形の土坑。S B145の柱穴を切る。直径約1.6m、深さ55cm、埋土は黒褐色シルトの単層である。S B145の柱穴を切っているが、S B145に関連する施設ではないかと考える。遺物は土師器・須恵器・製塩土器・珠洲が出土している。

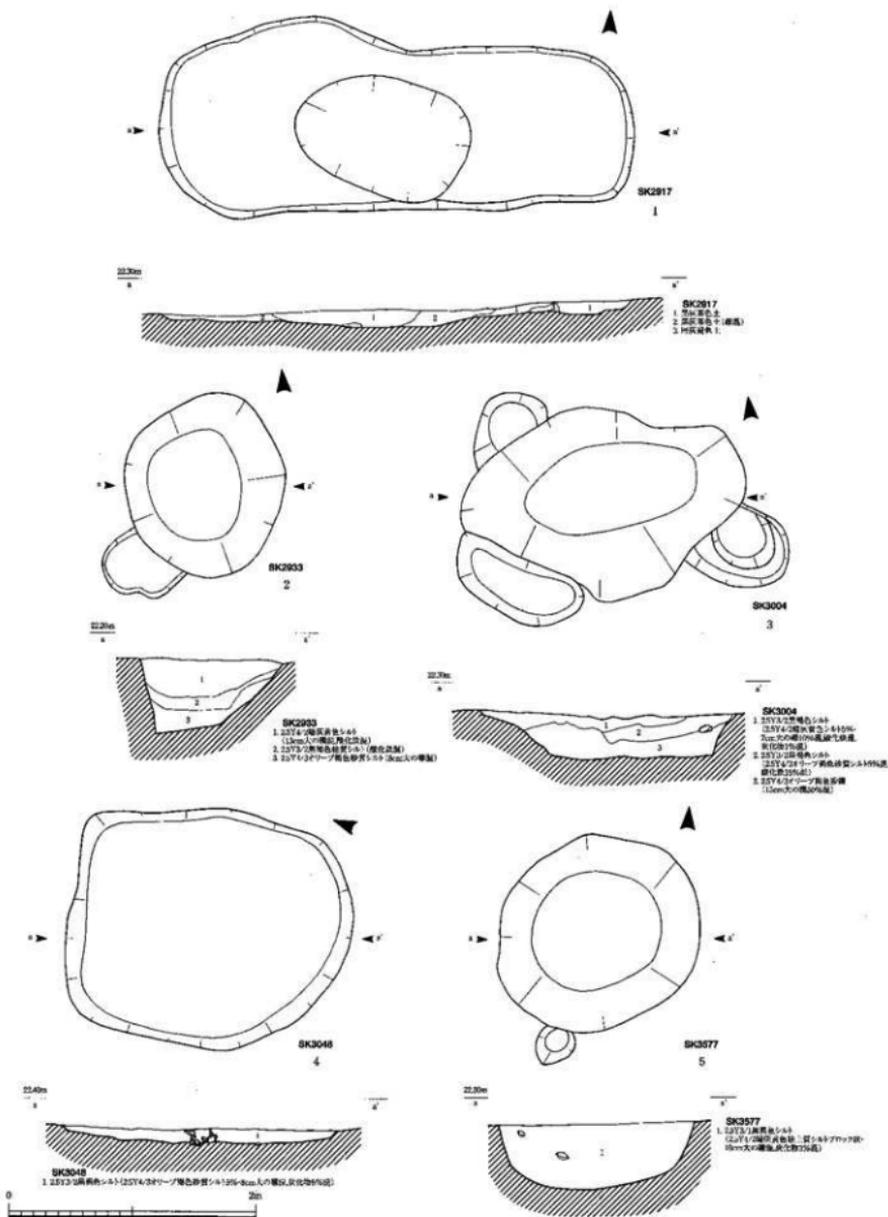
2756は口径7cmの小型の土師器の杯。古代のものと推定している。2757は製塩土器の胴部の破片。内面には粘土接合痕が残る。2758は珠洲の鉢の体部片。9本1束の卸目を流水状に施す珠洲II期のものである。

#### 3684号土坑 (S K3684, 第305図)

S B140の北側で検出した長方形の土坑。長径1.75m、短径1.05m、深さは33cmである。埋土は黄灰色シルトの単層である。遺構の時期は明らかではないが、とりえずここで述べた。遺物は須恵器・土師器が出土している。

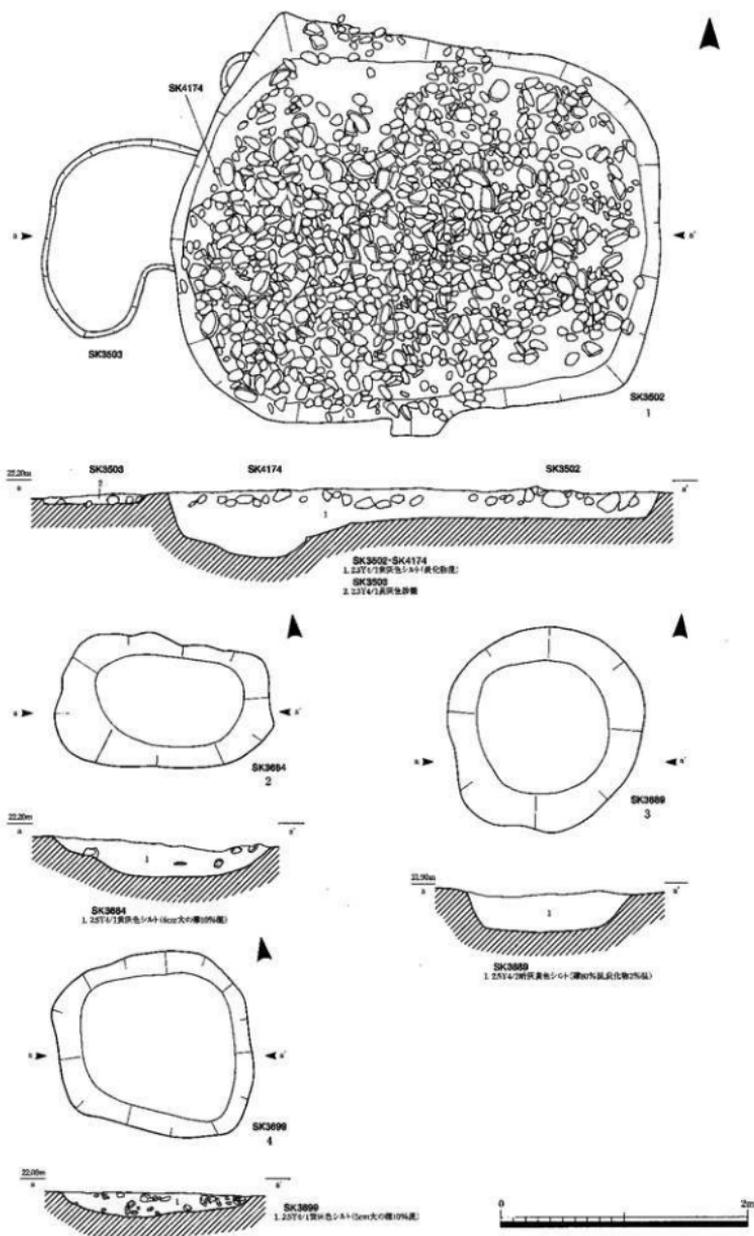
#### 3689号土坑 (S K3689, 第305・308図)

S B142の西、調査区坑寄りで検出した円形の土坑。直径約1.65mの円形で、深さは34cmである。埋土は暗灰黄色シルトの単層で、中央に特に集中して自然礫が混じっている。遺物は土師器・中世土師器・瓦質土器が出土している。



第304図 遺構実測図

1. SK2917 2. SK2933 3. SK3004 4. SK3048 5. SK3577



第305图 遺構実測図

1. SK3502・SK3303・SK4174 2. SK3694 3. SK3689 4. SK3699

2759は中世土師器の皿で黒色を呈し、内側には油煙が付着する。2760は瓦質の撞鉢である。口縁端部は四角く内側に低い稜をもち、その下に沈線が1条巡る。内側には9本1束の卸目が下から掻き上げられ、体部の内外面が一部黒色に変色している。

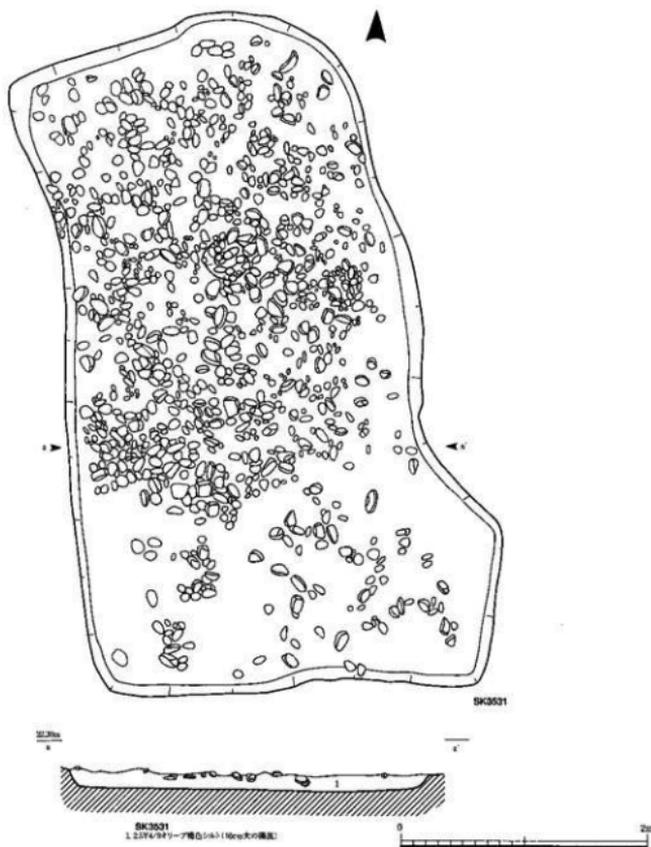
3699号土坑（SK3699、第305・308図、図版116）

区画溝SD3691の内側、SB139の西で検出した方形の土坑。長径約1.6m、短径約1.5m、深さは20cmである。埋土は礫が混じる黄灰色シルトの単層で、遺物は珠洲が出土している。

2761は珠洲の鉢の体部片で、11本1束の卸目が施される。Ⅲ期のものか。

3703号土坑（SK3703、第307図、図版107）

C地区東側SD3535とSD3691が重複する地点の北側で検出した3基の方形の土坑の一つ。一番北に位置し、規模は長径約1.8m、短径約1.7m、深さは17cmと浅い。埋土は黄灰色シルトの単層である。遺物は土師器と須恵器が出土している。



第306図 遺構実測図  
SK3531

## 3705号土坑 (S K 3705, 第307・308図, 図版107)

S K 3703の南東で検出した土坑。S D 3535より新しく、S D 3691には切り合いで負けることから、S D 3535の区画溝に伴う土坑であろう。規模は短径1.62m、深さ26cmでS D 3691の底部の深さと変わらない。埋土は黄灰色粘土質シルトが主体的に堆積する。遺物は中世土師器・木製品が出土している。2762は中世土師器の皿。薄手の作りで、内面全体に薄く煤が付着している。

## 3706号土坑 (S K 3706, 第307・308図, 図版107)

S K 3705の西に隣接する大型の方形の土坑。S B 143の北西隅に位置するが、遺物の時期からこの建物には伴わないと考える。長径3.64m、短径2.9m、深さ38cmである。埋土はS K 3703・S K 3705と同じ黄灰色シルトの単層である。これらの3基はセットとなってS D 3535の内部に存在していたであろう建物に伴う土坑と考えている。S K 3706からは土師器・中世土師器・瀬戸美濃・石製品が出土している。

2763は中世土師器の皿。口縁端部をつまみ上げるタイプで、底部中央がややへこんでいる。内外面には部分的に油煙が付着している。2764は瀬戸美濃の小型の丸皿。高台内側まで全面に灰釉が施釉されるが、一部被熱によって白色に変色している。見込みには日跡が残る。

## 3743号土坑 (S K 3743, 第307図, 図版107)

S D 3691の区画内部、溝が東に屈曲した部分の東端で検出した。長径約2.2m、短径約1.6mの長方形の土坑で、深さは20cmである。埋土は暗灰黄色シルトの単層である。遺物が出土していないので詳細な時期は判らないが、S B 143に伴うものか、S D 3691の区画内部の建物に伴うものかどちらかと考えられる。

## 3773号土坑 (S K 3773, 第307図)

S B 143の北東隅に位置する楕円形の土坑。S B 143の柱穴との切り合いは、柱穴の方が新しいようである。長径約2.4m、短径約1.7m、深さは37cmである。上面には暗灰黄色シルトが堆積し、遺物は須恵器・土師器・柱根が出土している。遺構の時期を決定する遺物の出土はないので詳細時期は不明であるが、S B 143に伴う可能性もある。

## 3791号土坑 (S K 3791, 第308図, 図版118)

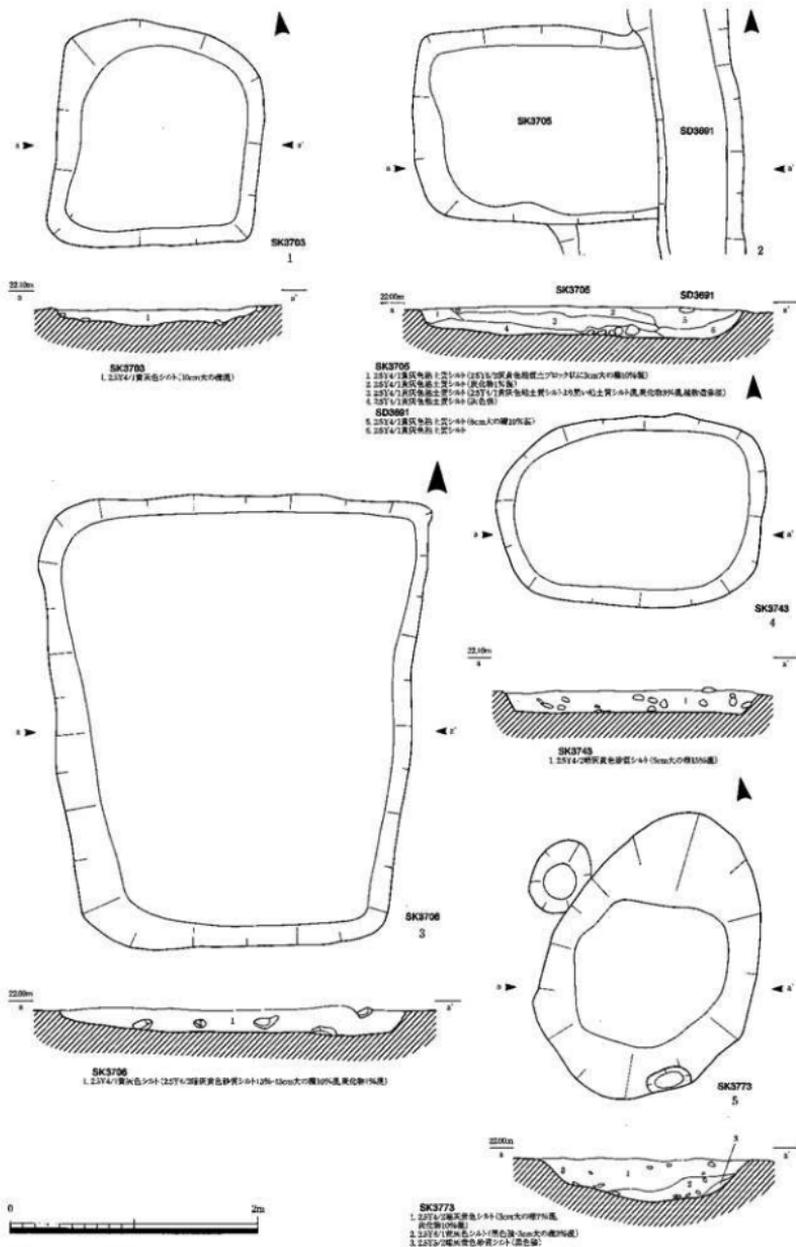
C地区東北端で検出した小型の土坑。S D 3792に切られる。深さは23cmで、土師器・伊万里が出土している。2765は伊万里の皿で、内外面に笹の文様をあしらう。高台は蛇ノ目凹形高台で、見込みには4箇所足付きハマの溶着痕が残る。18世紀後半以降のものである。

## 3857号土坑 (S K 3857, 第309図, 図版165)

S B 140の東にあり、建物の柱穴となる可能性がある小型の土坑。S K 3856に切られ、深さは22cmである。遺物は直径30.4cmの石臼の上臼(2766)が出土している。臼の溝は8分角5溝式で、側面には挽木の打ち込み孔が2箇所設けられる。石材は凝灰角礫岩である。

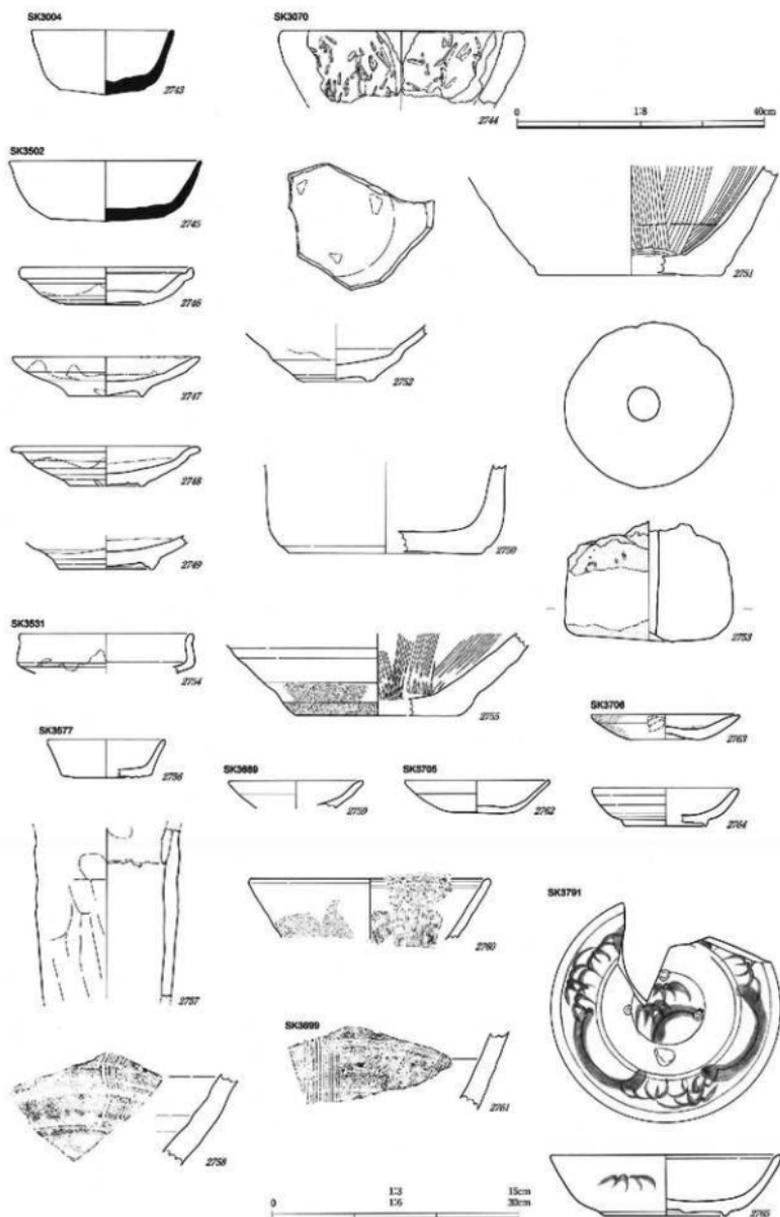
## 4012号土坑 (S K 4012, 第309図, 図版116)

C地区東端中央部に位置する小型の土坑。周辺には柱穴状の穴が多数密集し、北側には石組の井戸を検出しており、建物が存在した可能性が高いのであるが、穴の数が多く建物を確定することができなかった。この土坑はそんな建物の一部を形成していた可能性もある。規模は直径65cmの円形で、深さは18cmである。遺物は珠洲の壺の底部(2767)が出土している。体部外面はタケキ調整、底部には静止糸切り痕が残る。



第307図 遺構実測図

1. SK3703 2. SK3691・SK3705 3. SK3706 4. SK3743 5. SK3773



第308図 遺構実測図 (2743・2745~2759・2761~2765 1/3, 2760 1/6, 2744 1/8)  
 SK3004(2743) SK3070(2744) SK3502(2745~2753) SK3531(2754~2755) SK3571(2756~2758)  
 SK3689(2759-2760) SK3699(2761) SK3705(2762) SK3706(2763-2764) SK3791(2765)

## 4037号土坑 (SK4037, 第309図)

SK4012の南西で検出した小型の土坑。SK4012と同様、建物の一部を形成していた可能性がある。長径35cm、短径25cm、深さ24cmである。出土した中世土師器(2768)は口径8cm、高さ1.1cmで、体部外面のヨコナデは底部近くまで施される。内面は木口状のものでナデられ、被熱により赤色に変色している。14世紀頃のもの。SB143と同時期のものか。

## 4041号土坑 (SK4041, 第309図)

SK4037の東で検出した小型の土坑。規模は直径約50cmの円形で、深さは16cmである。遺物は中世土師器が出土している。

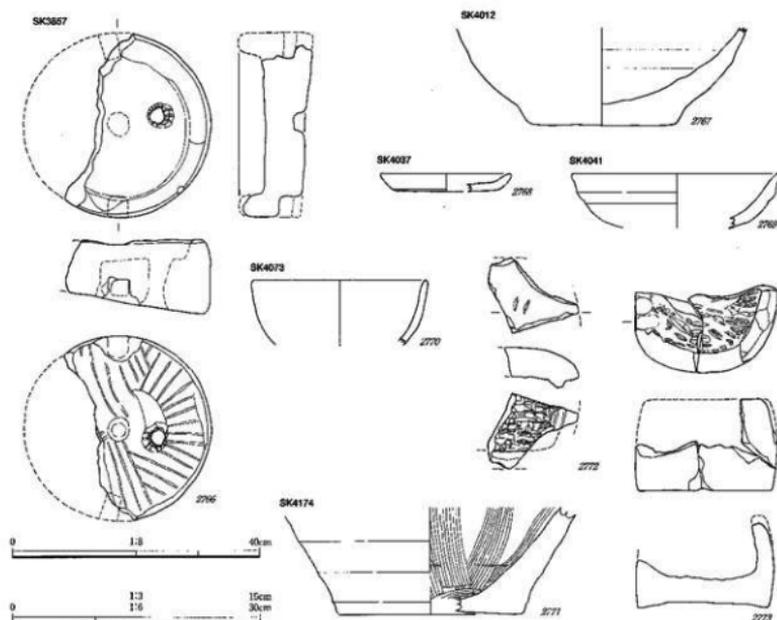
2769は口径12.8cmで、口縁部は端部を強くナデで段がつく。内底面は木口状のものでナデる。時期は2768と同時期の14世紀のものか。

## 4073号土坑 (SK4073, 第309図)

区画溝SD3691が東西方向に屈出した部分の南側は、区画の外側ではあるが、3基の井戸と多数の柱穴状の土坑が集中している。SK4073はこの中にあり、柱穴となる可能性があるが、建物としては確定することができなかった。SK4074に切り合いで切られ、長径50cm、深さ28cmの楕円形を呈し、遺物は唐津が出土している。

2770は唐津の灰軸の丸碗で、時期は17世紀代であろう。

(鳥田美佐子)



第309図 遺物実測図 (2767~2771 1/3, 2772~2773 1/6, 2766 1/8)

SK3857(2766) SK4012(2767) SK4037(2768) SK4041(2769) SK4073(2770) SK4174(2771~2773)

## H 包含層出土遺物

## A N地区包含層出土遺物 (第310図)

包含層からは中世土師器・瀬戸美濃・珠洲・輸入陶磁器・越中瀬戸・唐津・伊万里・越中丸山・石製品・金属製品が出土している。

2774～2778は中世土師器の皿で、すべて非ロクロ成形である。2774・2775は体部が直立状に立ち上がり、器壁の厚みは均等である。2775の口縁部内外面には煤が付着する。2776は深身で、外面が緩やかな丸みをもつ。2777・2778は体部が直線的に開き、体部中位までヨコナデが施される。

2779～2782は瀬戸美濃で、2779は口縁が水平に外折れし、端部が短く立ち上がる灰釉の折縁皿で、釉が被熱で白濁化し、口縁部内面に漆が付着する。2780は灰釉の平碗の底部で、内面に目跡が残る。高台は削り出し高台で、体部下方から高台は露胎である。2781・2782は鉄鉢の犬目茶碗で、やや丸味を帯びた体部に直立して外反する口縁部が付く。2781は外面下半は露胎で、内面及び口縁部に赤色顔料の痕跡が残り、顔料の容器と思われる。

2783～2787は珠洲で、2783は壺の口縁部で外反し端部はやや肥厚し丸くおさめる。2784～2787は鉢で、2784は口縁端部に水平な面をとる。小破片のため卸日の有無はわからないがⅡ期のものか。2784～2787は体部が直線的に開く2786は卸目が細いのでⅢ期に、2785・2787は卸目が太く深いためⅣ期と思われる。

輸入陶磁器は2788が中国製青磁の皿の底部で、内底面を内壳にし、壘付けと高台内側は無軸である。2789は青花で、口縁部が外反する端反り皿である。

2790～2792・2794は越中瀬戸で、2790は小杯。口縁部は外反し、底部は回転糸切りで、鉄釉を施し、外面下半は露胎である。2791は口縁部にのみ灰釉を施した皿で、底部は回転糸切りのままである。2792は鉄釉を施した皿の底部で、内底面は内壳で外面下半は露胎である。高台は削り出し高台である。2794は摺鉢の口縁部で、内外面に鉄釉を施し、内部には7本1束の卸目を施す。

2793は越中丸山の摺鉢で、口縁は外側に折り返され、内外面に鉄釉を施す。

2795は内野山の皿で、内面に銅緑釉を施し、内底面を蛇の目釉割ぎする。体部外面は下半まで灰釉を施す。2796は伊万里の皿で、口縁部内外面に界線、内面に花文と二重の界線が描かれる。断面には漆継ぎの痕跡がある。

2797は銅製の簪で、頭部に楕円状の耳掻きが付く。串は頭部より下方で二股に分かれている。2798は銅銭で明の「洪武通寶」である。(狩野 陸)

## A E地区包含層出土遺物 (第311図, 図版119・120)

2799～2805は中世土師器の皿。すべて非ロクロ成形である。2799・2800は器壁が厚く、口縁部に強い2段ナデを施し、境がやや明確な線を つくるもの。2801・2802・2804は口縁端部を尖らせるもの、2803は口縁部が外反し、端部は小さくつまみあげて丸くするもの、2805は口縁部が外反し、端部は尖らせるものである。2799・2800・2804・2805は口縁部内外面に煤が付着する。

2806・2807は中国製青磁の碗。2806は無文で、口縁が外反するものである。2807は見込みは花文の型押しと考えられるが不鮮明である。高台外面には斜め方向の刻みがほぼ均等に入る。高台内面途中まで施釉し、壘付の一部にトチン痕が残る。

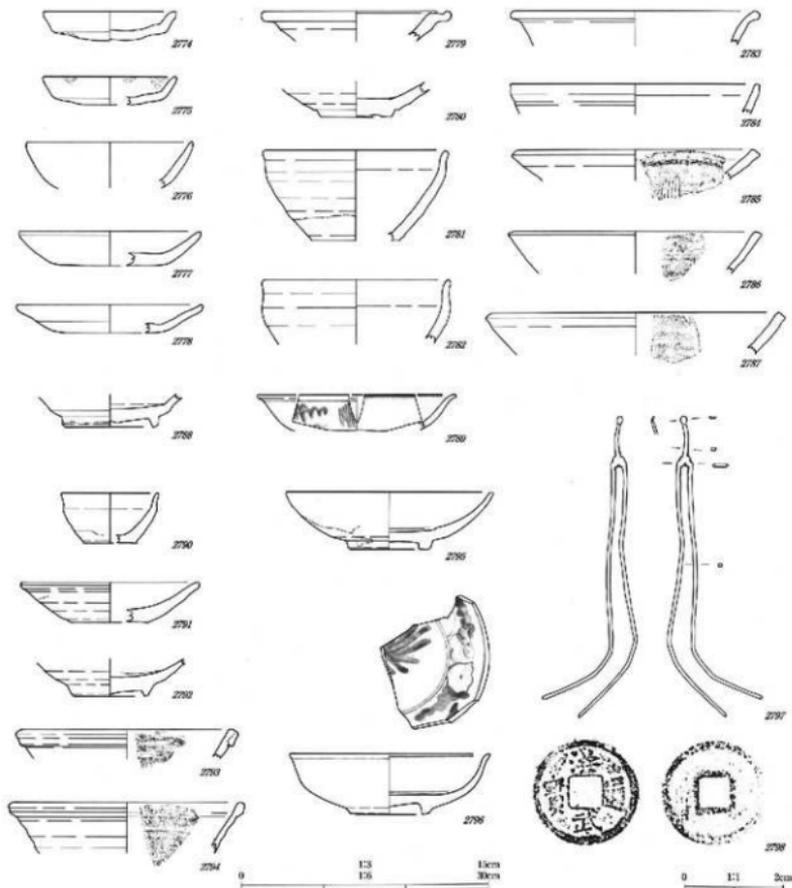
2808・2809は中国製白磁。2808は腰折れの杯で、端反りの口縁である。2809は小杯で、やや沓みを帯びた釉が高台壘付付近までかけられ、壘付には砂が付着する。体部外面は丸盤状施文具で蓮弁文が施され、口縁端部にも裝飾が施される。断面には漆継ぎの痕がみられる。

2810・2811は青花。2810は香炉かと考えられるもので、口縁部は外反し、内面へ1.2cmほど折り返しで内傾する面をつくり、そこに渦文を描く。体部外面にも文様がある。2811は端反りの皿で、体部外面に唐草文を描く。

2812・2813は瀬戸美濃の天目茶碗で、2812は口縁部が直立するもの、2813は口縁部が体部からそのまま開くものである。いずれも体部内面から外面に鉄軸、体部外面下半は鎊軸が施される。

2814~2816は越中瀬戸。2814・2815は皿で、2814は鉄軸、2815には灰釉が施される。いずれも見込みには重ね焼きの痕跡がある。2815は見込みに菊の印花文が押捺され、釉止め段をもつ。2816は乗燗で、胴部内外面、脚部の一部に鉄軸が施される。見込みには1.1cmの燈心立てがつく。底部は糸切りで、軸穴がある。

2817は伊万里で、菊花形の紅皿である。口縁部に厚みがあり、やや青みのある白磁軸が全面に施さ



第310図 遺物実測図 (2798 1/1, 2774~2782・2788~2792・2795~2797 1/3, 2783~2787・2793・2794 1/6)  
包含層

れ、体部外面に付着物が溶着している。

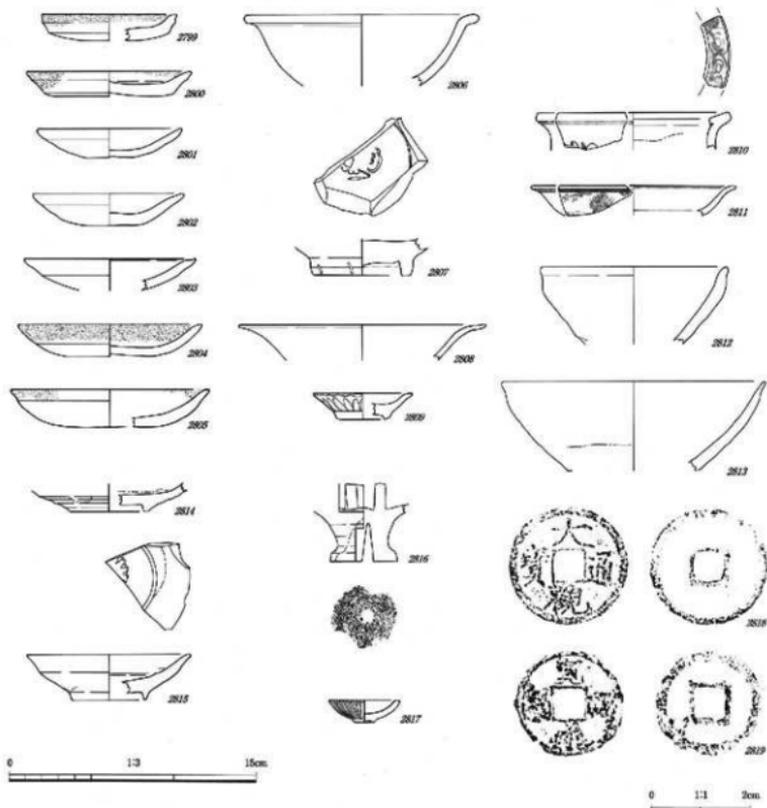
2818・2819は銭貨で、2818は「大観通寶」、2819は「寛永通寶」である。

A W地区包含層出土遺物 (第312・313図, 図版119・120・146)

2820～2826は中世土師器皿。すべて非口クロ成形である。2820・2821は口縁端部を尖らせるもの、2822は口縁部が外反し、端部は小さくつまみあげて丸くするもの、2823は器壁を厚くし、口縁部に強いナデを施して段を作るもの、2824・2825は口縁部が外反し、端部はわずかに肥大させて、やや尖らせるもの、2826は口縁部に二段ナデを施し、体部内面下半は部分的に刷毛状工具によるナデを施しているものである。2824・2825は体部内面に煤が付着する。

2827は越前の播鉢。体部内面と見込みには卸目を一単位9条で施している。体部外面から底部には煤が付着する。

2828～2830は中国製青磁。2828は香炉で、体部外面は先の丸い蓮弁文を描く。鉢を線描しているが、不鮮明で定かではない。軸は薄くかかり、灰色を帯びる。2829・2830は碗で、2829は口縁部が外反し、無文のもの、2830は口縁端部がやや尖り、鉢蓮弁文のものである。2830は軸が厚く、断面に漆漉ぎの



第311図 遺物実測図 (2818・2819 1/1, 2799～2817 1/3)  
包含層

痕跡がある。

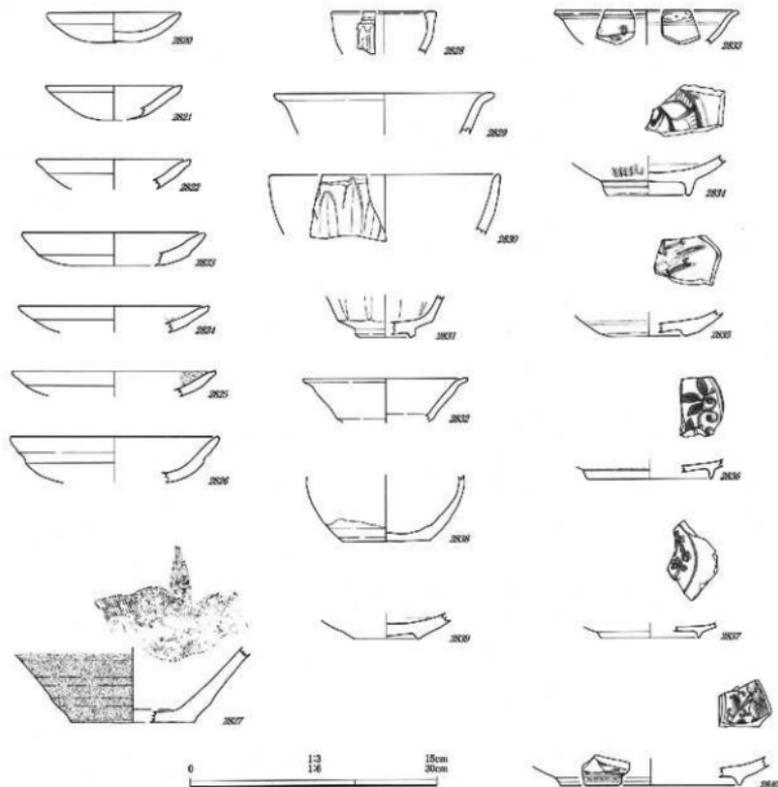
2831・2832は中国製白磁。2831は多角杯で、釉は内面と体部外面の稜までかかる。2832は碗で、口縁部は強く外反し、口縁端部は肥大させて、端部内面に溝をつくる。釉は薄くかかる。

2833～2837は青花。2833・2834は碗で、2833は端反りの碗の口縁部内側に四方禪文、体部外面には唐草文を描く。2834はいわゆる蓮子碗の底部で、体部外面にくずれた芭蕉葉文、見込みは界線と蓮花を描く。壘付の釉は削りとられ、高台内部は施釉される。断面に漆継ぎの痕跡がある。2835は蕃笥底となる皿で、体部外面に2条の界線、見込みは図案化された「寿」字を描く。壘付の釉はヘラで幅広く削られ、高台内部は施釉される。2836・2837は皿の底部で、高台は細く、壘付は斜めにヘラ削りされ、高台内側にも施釉される。2837の壘付には砂が付着している。見込みは界線と花樹である。

2838は瀬戸美濃の小壺で、体部内外面は鉄釉、体部外面下半から底部にかけては錆釉がかかる。底部には回転ヘラ削り痕が残る。

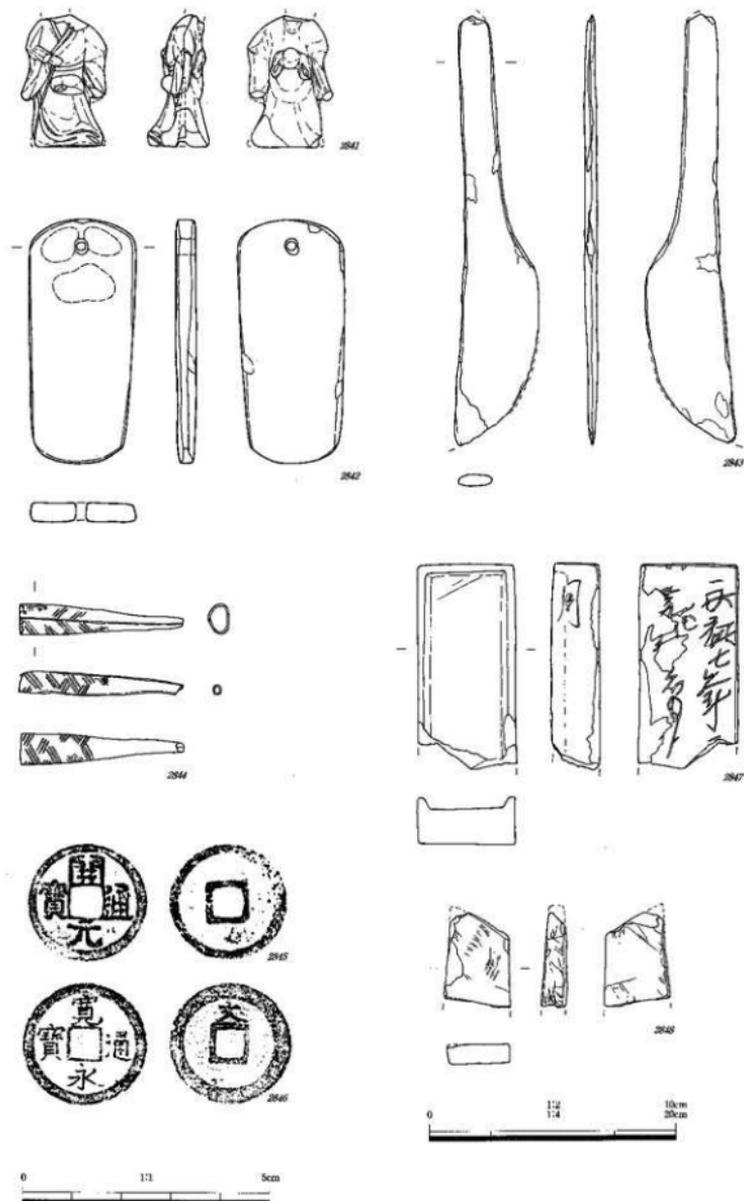
2839は越中瀬戸の皿で、体部内外面に灰釉がかかる。見込みには重ね焼きの痕跡がある。

2840は伊万里の皿で、体部内面は花文、体部外面は、高台外側は界線と○×の連続による文様帯、



第312図 遺物実測図 (2830～2826・2828～2840 1/3, 2827 1/6)  
包含層

1 中世 (A地区~C地区)



第313图 遺物実測図 (2845~2847 1/1, 2841・2843・2844・2848 1/2, 2842 1/4)  
包合型

高台内面にも界線を描く。

2841は土製品の人形である。着物を着た女人立像の体部で、頭部は損失している。底部には、製作時のものと考えられる直径4mmの穴が穿たれている。

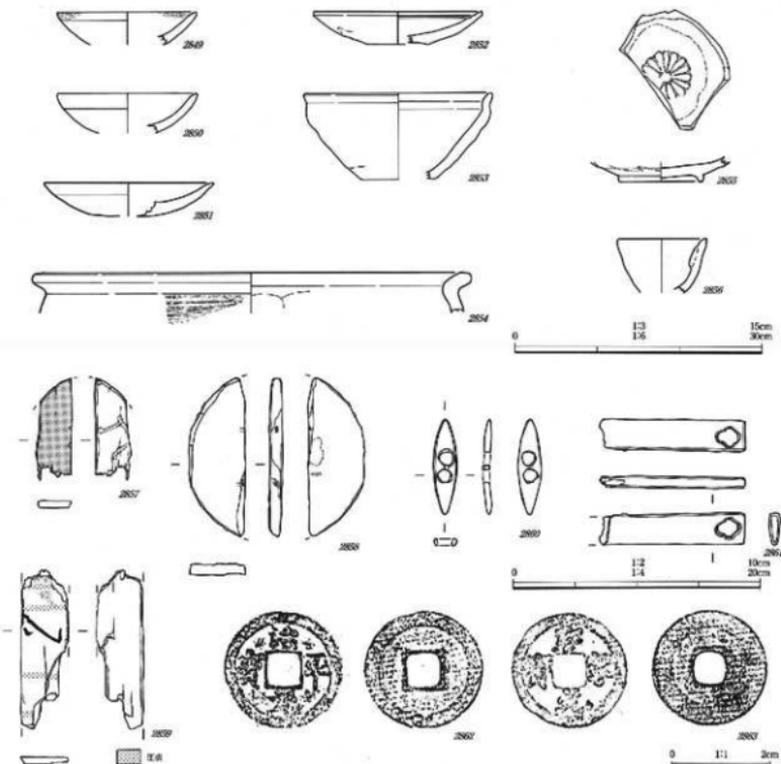
2842・2843は木製品である。2842は雪下駄で、歯と後壺がなく、草履と一体にして履くものである。平面形は隅丸の長方形で、後ろが前よりも幅が短い。前壺は幅に対して、ほぼ中央に穿たれる。使用による丘痕がみられる。2843は杓子形木製品で、身の半分が欠損している。身の先端はやや尖るように丸みを帯び、身の肩部から柄にかけてはなだらかになっている。

2844～2846は金属製品で、2844は煙管の吸口である。格子の線刻と魚々子で、装飾を施す。2845・2846は銭貨で、2845は開元通寶。2846は寛永通寶で、背文がある。

2847・2848は石製品である。2847は硯で、幅が2cmと小型で、長方形のもの。凝灰岩製である。表面には「永祿七年(1564年)□/□□□□」と2行にわたって、また側面には「月」と線刻されている。2848は砥石である。

#### B1地区包含層出土遺物(第314図、図版174)

2849～2851は中世土師器の皿で、口縁端部は小さくつまんで尖らせる。2849は口縁部内外に煤が付



第314図 遺物実測図 (2842・2843 1/1, 2849・2851 1/2, 2849～2853・2855・2856 1/3, 2857～2859 1/4, 2854 1/6)

包含層

着する。

2852・2853は瀬戸美濃で、2852の皿は内面と外面上半に薄く灰釉がかかり、外面下半はヘラ削りを施している。2853の天目茶碗は、口縁部が垂直に立ち上がって外反する。体部内外面は鉄釉がかかり、体部下半は露胎となる。

2854は珠洲の甕である。口縁形態は方頭、長頸でゆるく外反する。V期に比定される。

2855は越中瀬戸の皿で、鉄釉を施し、見込みと外面下半は無釉の内壳皿となる。見込みに菊の印花が押捺される。

2856は埴塙で、口径5.3cm、内側には紅物のようなものが付着している。

2857～2859は木製品である。2857・2858は蓋板で、2857は片面に黒漆を塗布する。2858は補修穴が2つあり、木釘が内部に残存する。2859は加工板で、上下ともに欠損しているが、4箇所に残存する。墨書のようなものがあるが、薄くなり明確ではない。

2860～2863は金属製品である。2860は銅製の鞆の笠幹で、2箇所の孔がやや中心からずれてあけられ、双方の孔をつないで溝がきられている。2861は銅製の小柄で、柄元は破損、柄頭側には装飾として、丸みのある十字形が切り抜かれている。2862・2863は銭貨で、2862は「治平元寶」、2863は「熙寧元寶」である。(深堀 茜)

B 2地区包含層出土遺物 (第315～361図、図版108・112・114・120～124・146～160・164・166～168・174～180)

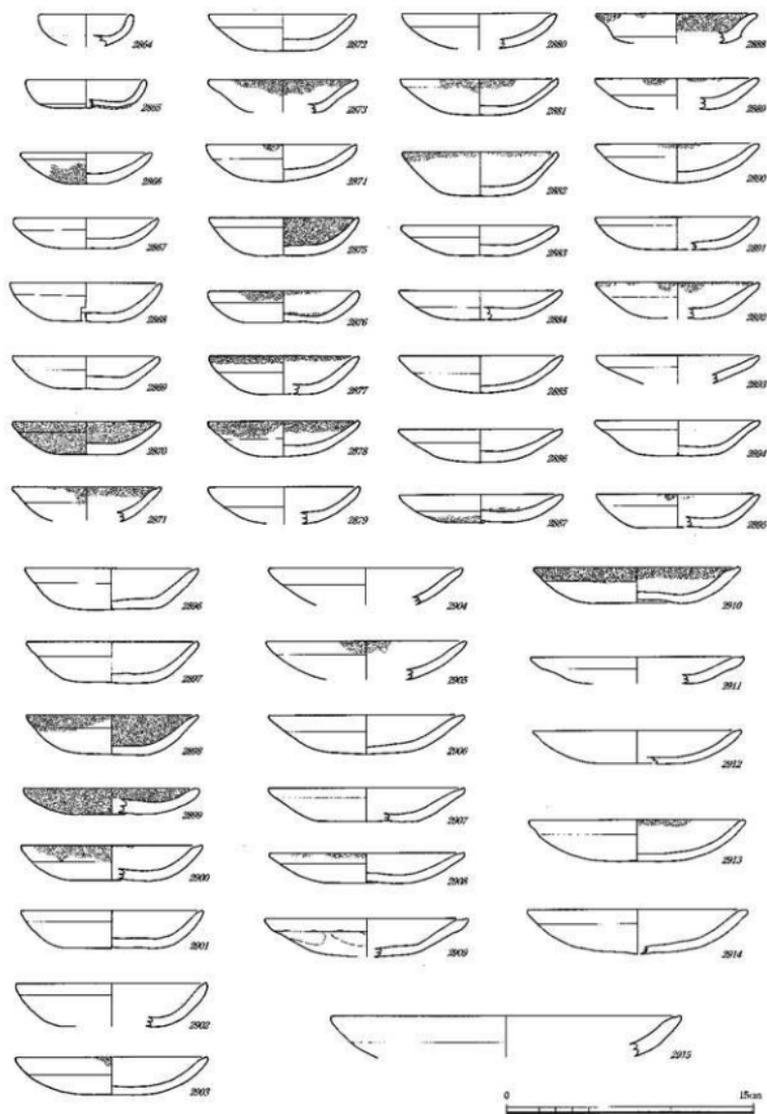
包含層の遺物はa～f層の6層に分けて取り上げてはいるが、各層の厚さが薄いためか遺物の接合関係を見ても層をまたいで混在している状態のようである。従って、各遺物は大きく3面に分けて記述してはいるが、包含層については一括して種類毎に記述する。包含層からは中世土師器・瀬戸美濃・珠洲・越前・瓦質土器・輸入陶磁器・越中瀬戸・埴塙・木製品・石製品・金属製品が出土している。

中世土師器(2864～2915)は口径が5.6cm～21.2cmのものがあり、9cm～10cm前後のもの個体数が一番多い。2864・2865のような小型で、体部が内湾気味に立ち上がるものは少なく、ほとんどが口縁端部をつまむようにナデなものほとんどである。多くの個体に油煙の付着がみられ、その付き方も多様である。内外面全体に付着するもの、口縁部周縁の内外面に付着するもの、口縁部の一部にのみ付着するもの、口縁部の一部が半月状に被熱により赤変するものなどがあり、それぞれの個体の使用状況が想定される。また、内面に布圧痕が残るもの(2891)・焼成後に底部中央に穿孔されるもの(2868)がある。口径が10.5cm～13.5cmの個体においても同様で、口径が大きくなると油煙の付着がみられなくなることもないようであるが、内外面全体に油煙が付くものは口径が大きくなるにつれてみられなくなる。

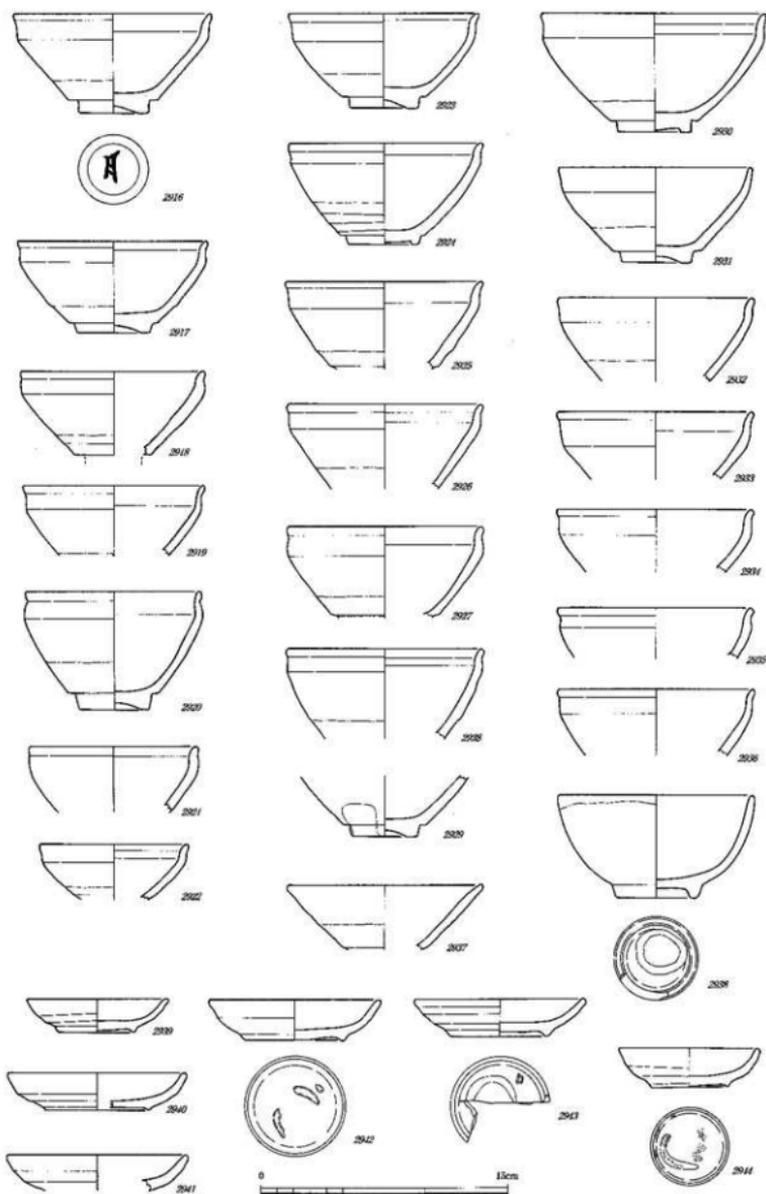
瀬戸美濃(2916～2962)には天目茶碗・小杯・平碗・丸碗・丸皿・ひだ皿・壺・香炉・水注・水滴がある。天目茶碗は体部が直線的で、口唇部が直立するもの、直立してやや外反するものがある。高台まで残存している個体は少ないが、内反り高台のものも多く、輪高台のものも2点ある。高台側面はほとんどが露胎で、2925・2927などは薄い錆釉を塗られているようである。2916には高台内側の凹部に「月」の墨書が残る。2931は直線的な体部に外反しない直立した口縁部をもち、体部内外面には茶褐色の鉄釉の上に黒釉が回し掛けられる。2922は天日形の小平である。2937は平碗で、体部には白濁した灰釉が施され、下半には錆釉が塗布される。2938は掛け分けの丸碗で、外面には灰釉、内面には鉄釉が施される。高台内側まで施され、輪トチンの跡が残る。灰釉の丸皿は全面施釉がほとんどで、高台は断面三角形の付高台、または低く小さい付高台である。底部内面は無文のものが多

く、2953・2954のように印花文が残るものもある。高台内側には輪トチンの跡が残る。2944の底部内側には炭化物の付着がみられる。2945～2947の軸は被熱によって白濁色に変質している。2952は灰釉のひだ皿で、輪高台の畳付けは露胎である。2949・2950は鉄釉の丸皿で、2949は茶褐色の鉄釉の上に黒釉が掛けられている。壺類は鉄釉の茶入れなどが出土しているが、全形を知り得るものはない。2958は灰釉の香炉である。2957はほぼ完形の水注で、外面には鉄釉が施される。高台周辺は露胎で、底部にはヘラキリ痕が残る。2960は水鳥形の水滴で、硯に水を入れるために使う容器である。足を貼り付けてうずくまるような様子で、嘴の下と背中に小孔が空けられており、嘴から水が出るようにみせる仕組みようである。2963・2964は越中瀬戸の水指である。共に水平な口縁端部は無釉で、内外面に鉄釉が掛けられる。

輸入陶磁器(2965～3060)は中国製白磁・中国製青磁・青花などが出土している。中国製白磁には皿・杯・合子・壺類がある。皿は端反り皿の個体数が一番多く、口径は大きく10cm～12cm台と15cm～16cm台に分かれる。軸の表面が部分的に灰色に変色しているものや、貫入の入る個体がある。また、断面に漆が付着しており、漆繕ぎをしていた個体もある。高台は断面三角形で、畳付けは無釉でそこに砂が付着しているものとそうでないものがある。2983の高台は他のものに比べ細く、内側には赤色漆の付着が認められる。2985は割高台の皿で、内底面には5箇所に目跡が、高台内側には漆で「十」の記号が書かれる。また、高台から体部にかけても一部薄く漆が付着している。2986は小型の皿で、やや淡緑色を帯びた軸は高台内側まで流れ込む。口縁端部は内端面を押圧して稜花状にしている。2987～2989は小型の杯である。2990・2991は菊皿である。2991の高台の畳付けは露胎で、内側には界線が巡るようである。2992～2995は壺類の口縁部と底部である。2994は平底で、高台周辺は無釉、浅黄色の釉が内底面にかかる。2996は合子の身である。中国製青磁は中国製白磁・青花に比べると出土量が明らかに少なく、全形を知り得る個体はない。器種は碗・杯などがある。2997はオリブ灰色を呈する釉調の碗で、体部上半にはヘラ書きの文様が施される。2999～3001の碗の底部は畳付けまで施釉され、内面見込みには「福」・「金□満□」(金玉満堂か)などの吉祥句がスタンプされる。3002は中国製青白磁で、畳付け高台内側は無釉である。青花は碗・皿・杯が出土している。碗は直線の口縁をもち、全形が判る個体はない。口縁部内面に界線・四方禪文が、外面口縁部には界線や雷文帯などが配され、体部には菊花や唐草・山水人物などが描かれる。皿は端反り皿、底部が萁筒底の皿、体部が内湾する皿と小型の内底面を内湾にする個体に大きく分けられる。端反り皿は口縁部外面には界線、体部には唐草文や渦巻き文、腰部には界線が配される。口縁部内面には四方禪文や界線、体部はほとんどが無文で、アラバスクと梵字を組み合わせた文様が配される個体もある。見込みには玉取獅子や梵字文が配される。3029の見込みには「長」・「回」の文字、高台内側には「天下太平」の銘が書かれる。高台畳付けは露胎で砂が付着する。萁筒底の皿は外面腰部に芭蕉文を配し、体部内面には界線、見込みには花卉文が描かれている。体部が内湾する皿は体部外面には界線、内面には界線と如意雲が描かれる。小型の内底面露胎の皿は口径で2種類に分けられ、口径10cm前後のものは体部外面に渦巻きのような文様を描いたりするが、口径8.8cmのものは規格的で、内外面に界線は2本ずつ施し、他の装飾は行われぬ。胎土は灰色を帯びる。3048～3053は杯である。口縁部が端反りのものと直線的に外反するものがある。3043は皿の底部で、内面には赤と青の色絵が、外面には「□明□年製」の文字が残る。3054～3059は南海産の陶磁器と推定されるものである。3054～3059は皿で、青色の釉がかけられている。3056・3057は型押し成形の皿で、コバルト色に釉が発色しているがこれら以外は二次的の被熱によって緑色に変色している。3060は緑釉陶器の壺の底部である。

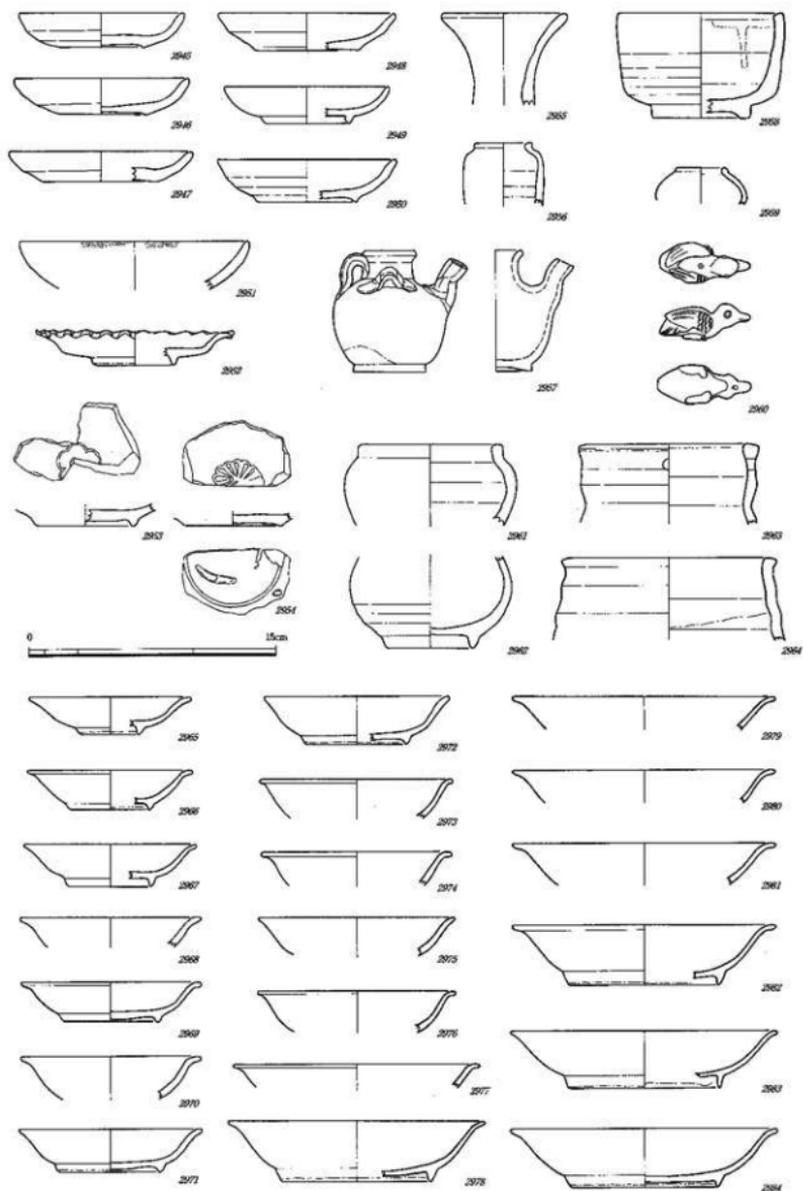


第315図 遺物実測図 (1/3)  
包含層

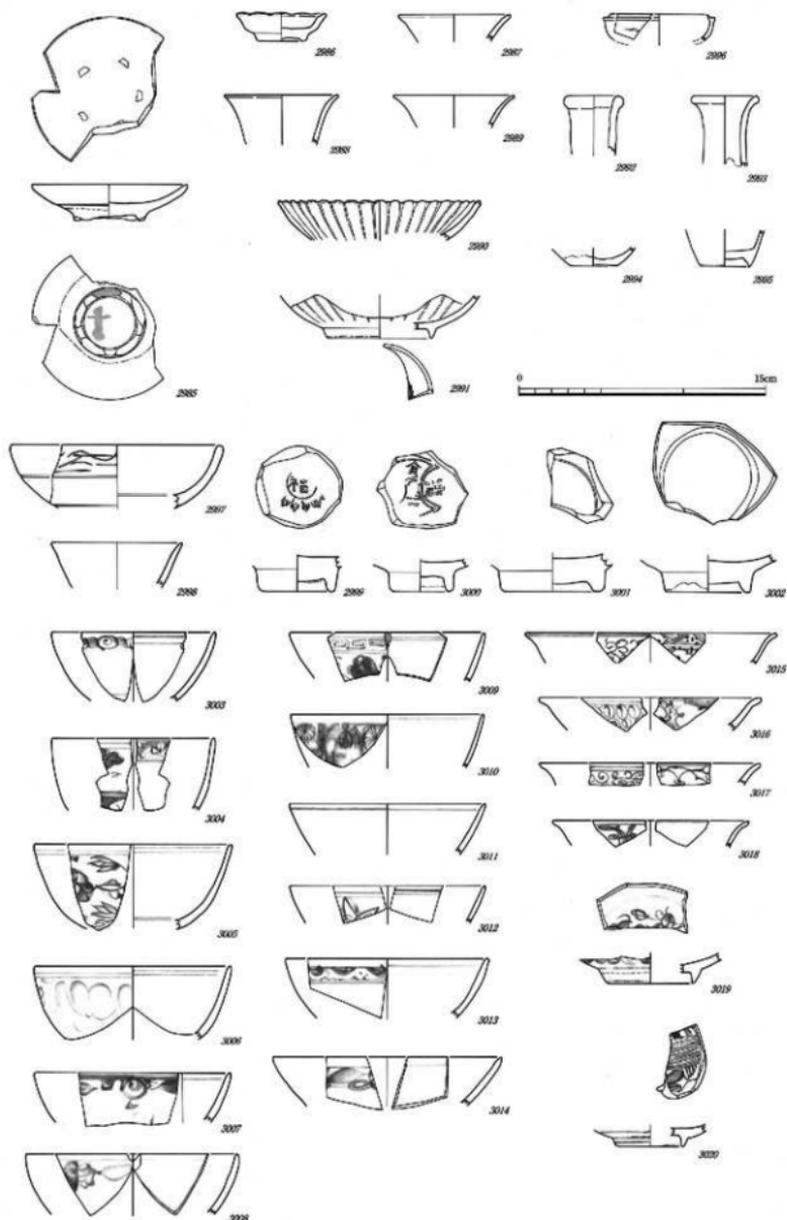


第316図 遺物実測図 (1/3)  
包含層

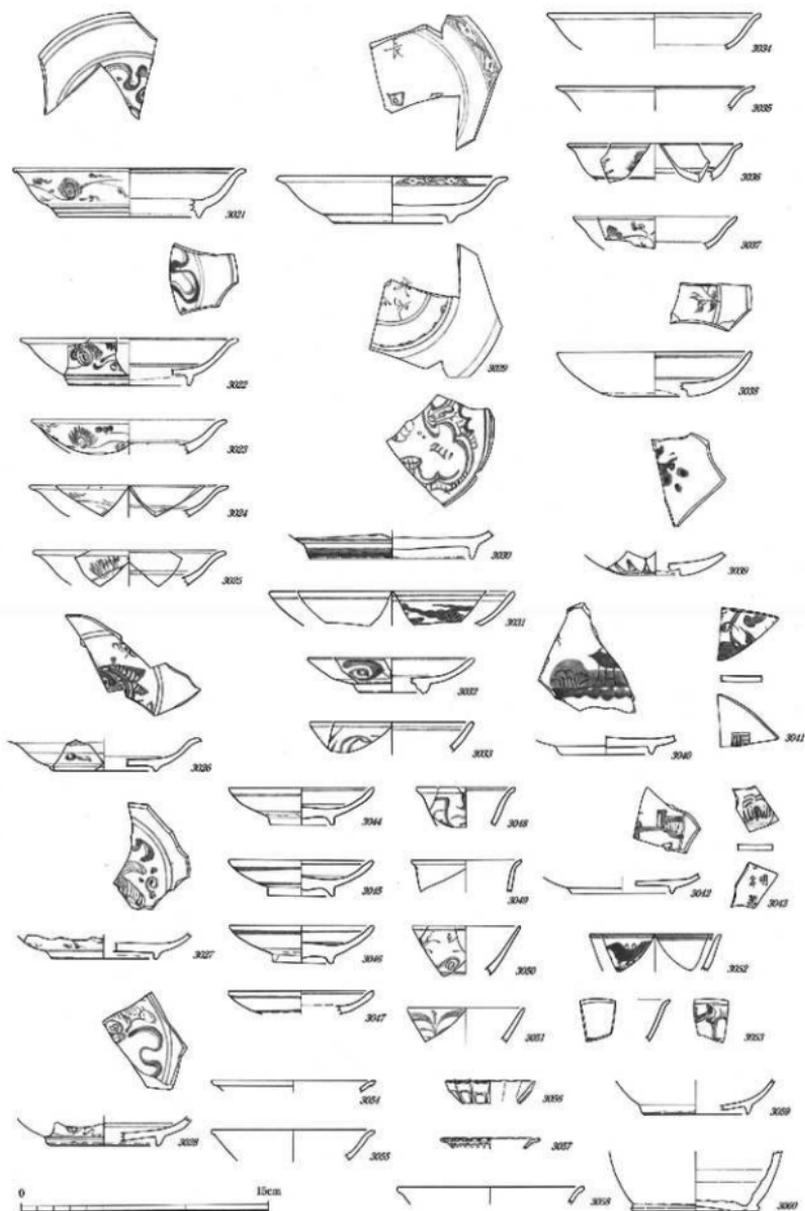
1 中世 (A地区~C地区)



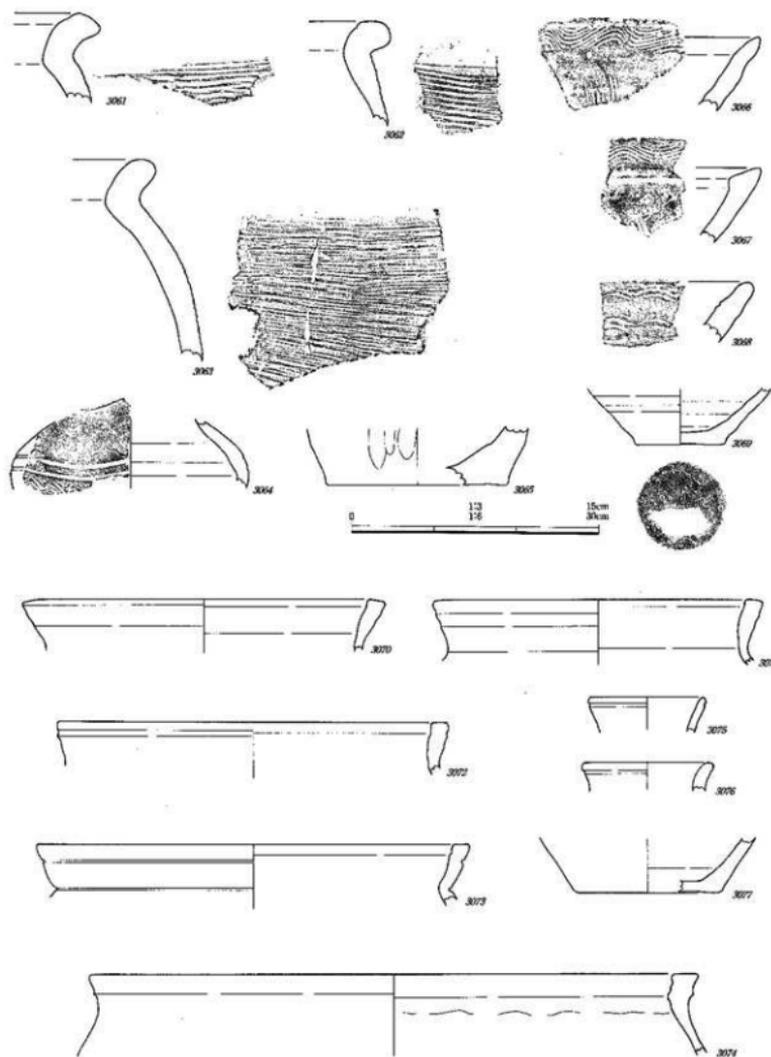
第317图 遺物実測図 (1/3)  
包含層



第318図 遺物実測図 (1/3)  
包含層



第319图 遗物実測图 (1/3)  
包含層



第320図 遺物実測図 (3061~3068 1/3, 3069~3077 1/6)  
包含層

珠洲 (3061～3069) はV期以降の甕の口縁部、壺は肩部に波状文帯を有するR種・K種・T種のものがある。鉢はVI期以降の口縁内部に波状文帯を有するものが出土している。越前に比べると個体数は格段に少ない。

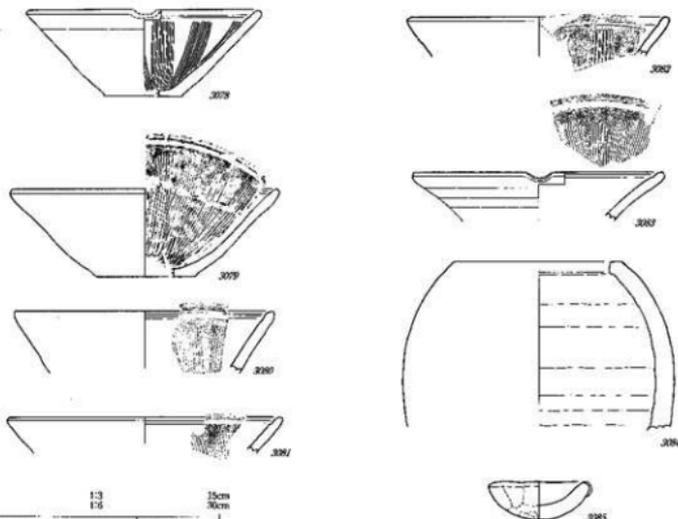
越前 (3070～3077) は甕と壺が出土している。甕は口縁部が四角く外面に浅い突帯、内側に浅い凹線が巡るものである。肩部で最大となり台形状を呈するものと、突帯も凹線も緩やかなものに分けられる。

瓦質土器 (3078～3084) は播鉢と火鉢がある。播鉢は口縁端部が四角く、内面には端部直下に凹線が1条巡る。外面は口縁部のみヨコナデが施される。口縁端部は外傾するものと内傾するものがあり、片口をもつものがある。卸目は7本～8本1束の単位で、下から上に掻き上げられる。火鉢は小型で樽形を呈するもので、外面には布圧痕が、内面には強いヨコナデの跡が残る。

埴埴 (3085) は口径約6cmで、内面には黒色の藍澤が残る。

木製品は農工具・服飾具・武具・容器・食事具・木簡・雑具・加工材が出土している。

農工具には鋏・刷毛・篋・糸巻がある。3086は鋏の身で、断面形が半円形で、台形の柄穴には柄の一部が残る。柄穴の幅は裏側の方が広く、柄は裏側から挿入したようである。柄の着柄角度は74度である。3087は刷毛で、扁平な撥形で、柄元には半月形の孔が穿たれる。下端には2段の小孔列、その上に離れて1段の小孔列があり、下の2段は毛を板に固定するために縫いつける孔で、上の1段は毛の端を押さえるための板を縫いつけていた跡と推定される。3095は篋で、端部を薄く削っている。3096は柄で、刷毛などの工具の柄と推定される。表面には漆が塗布される。3088～3094は組み合わせ式糸巻きの枠木と横木部材である。4本の枠木と4枚の横木とから成り、枠木の両端の腹面に2箇所柄孔をあけて、ここに十字形に相欠きで組み合わせた横木を結合する型式である。横木は3点出土しているが、すべて長さが違い別個体のものであると思われる。枠木も長さは同じであるが柄穴の位置が違うことから別個体と考える。ただ、3093と3094については、枠木と横木の組み合わせを確認することがで



第321図 遺物実測図 (3084・3085 1/3, 3078～3083 1/6)  
包合層

きた。3094の横木は他の横木と異なり、杵木に結合する棒状の両端がU字形に影らむ。

服飾具は櫛・下駄がある。櫛はすべて横櫛で、齒の細かい解櫛と荒い梳櫛に分かれる。断面は楔形を呈し、頭部が丸いものと尖るものと水平なものがある。3102は白木で、その他は炭化または表面が黒色に変化している。下駄は連齒下駄・露卯下駄・庭下駄・草履下駄・雪下駄が出土している。連齒下駄は長円形を呈するものと隅丸長方形に近いものに分けられる。長円形のは断面形が長方形で、齒も長方形で、3103の齒の高さは7cmを測る。3105は前歯と後歯との間に工具痕が残る。隅丸長方形に近いものは長円形のものに比べ幅が狭く、緒穴もやや小さい。齒は磨滅して低くなっているものが多い。3104は前歯の前面に4穴、後歯の前面に各1の小穴が穿たれる。露卯下駄は長円形を呈し、断面形は台形、前後に2穴ずつ齒を装着するための納穴が穿たれる。最大幅が前歯付近にあるものと中央にあるものに分けられる。3109には裾広がり台形の齒が装着される。3112は連齒下駄の一種で、後歯が後木口面に付くものである。長方形の材の前木口を長方形にカットし、中央後寄り斜めにカットして前歯・後歯を作り出すものである。3113は雪下駄で、齒がなく緒穴は前空のみである。長方形の板材の四隅を面取りしただけの簡単な作りである。3114は庭下駄の一種と考えられるもので、周縁を丸く仕上げた材の台表中央を整状のもので挟るものである。緒穴は前後から穿孔され、後歯は中央の挟りの入る位置にあり、前寄りである。3115は草履下駄と推定されるもので、扁平な長円形を呈し、ひだり側縁に一箇所小孔が穿たれる。表面は一部炭化している。3116・3117は懸札の可能性もあるが、雪下駄の一種と考えここで取り上げている。台表の上端中央に裏表から穿たれた緒穴と推定する孔があり、ここが最大幅となっている。

武器は兜と鍔の小札が出土している。兜は半球状の鉢の一部が出土している。表面に錆が浮いていなかったことから、革製であったと考えられる。革製の兜は牛や馬の革を膠水に浸して打ち固めた、いわゆる挽革(練革)を2枚以上はぎ合わせ、型を用いて作る。3120は補強・装飾のためか表面に筋金を伏せその間に星を打つ広義の星兜鉢である。筋金と星も錆が浮いておらず金属以外の材質だったようである。表面には黒色漆を塗布してはいるが、傷みが著しく、何枚の革をはぎ合わせたものかまでは確認できなかった。3118は耳札で、本小札を縫い重ねて一段の札板を形成する際のその両端に当たる小札である。革製で、小札板の外観を整え、端部の補強をするものである。3119は幾枚かの小札を重ねて黒色漆を塗った板札の残欠である。

容器には曲物・桶・折敷類の底板、または蓋がある。3121～3123は曲物の柄杓である。底板を側板の内側にはめ込んで木釘で結合する釘結合曲物である。3122にははずれてはいるがタガが残り、側板には柄を差し込むための四角い孔が穿たれる。3124・3125は小型の曲物の底板、または蓋で、周縁を細かく面取りし甲羅形を呈する。側面には木釘穴は残っていない。3126～3153は円形の底板、または蓋である。直径は6cm前後～60cm近いものまでがある。3136・3137・3139・3140は蓋と考える。3136は面取りをして直径8cmの円形板に整え、2箇所を取っ手状に作り出す。加えて側面の上端を面取りをし、取っ手には小孔を穿つ。裏面の周縁は一部炭化している。3137は周縁に沿って3箇所の穿孔がみられる。3139・3140には中央に1箇所穿孔される。3134・3138は曲物の底板で、3134には1箇所に橡皮が残る。3138は釘結合曲物の底板で、側面に6箇所の木釘穴が残る。また、3128の表表面に黒色漆が塗布され、3135の裏面にも黒色漆が全面にみられ、表面には黒色漆に加え、赤色漆の飛沫痕もみられる。材の厚みが1.5cm以上のものなかには、組み合わせて円形板を作るものが多くあり、断面には2～6箇所に木釘穴が残るものがある。また、表面には刃物痕が残るものもみられ、帛板などに転用されたことが窺える。3154～3160は折敷の底板、または蓋と考える四角い板材の隅を落としたもの

である。周縁に小孔が穿たれるもの、直線上の切れ込みが入るものがある。3159は表面に4箇所、断向に数箇所の木釘穴が残り、他のものに比べて厚く、組み合わせて使用されていたものである。3160は外周縁に2孔1対の小孔が8箇所に、その内側の四隅にも2孔1対の小孔が穿たれ、そのうちの1箇所に漆皮が残る。

食事具には漆器・鉢・箸がある。漆器は総黒色の椀・皿・蓋と総赤色の椀・皿・盤・合子がある。総黒色の椀には総高台と輪高台のものがある。内面・体部外面に鶴文・蓬菜文・扇文などが描かれる。3161は外面に簡略化した鶴文、内面には鶴と紅葉があしらわれる。3181は総黒色の蓋である。総赤色の椀は輪高台で高さが低いものが多い。高台内側は黒色で、中央に赤色漆で「吉」・三九文が描かれる。総赤色の皿には口縁部が端反りのものと内湾気味に立ち上がるものがある。高台内側は黒色で、「吉」・「井」・菊文が中央に赤色漆で描かれる。3182は高い踏ん張った高台が付き、高台径も大きい。内面には段を有し、17世紀に下ると考えられる。3183は外面黒色漆、内面赤色漆で口縁端部は水平で、内面には段を有する。盤のような器形になると推定される。3184はロクロ挽きの白木の鉢。体部には3箇所に沈線を通らして装飾を施している。底部には2箇所に穿孔が認められ、容器から他のものへと転用している。3185は合子の蓋で、表面には放射状の文様が彫り込まれる。3186～3192は総赤色の漆器の口縁部で、全形を知り得るものはない。その他の漆製品もここで取り上げると、3193・3194は表面に赤色漆を塗布した部材の一部である。3195は表裏面に黒色漆を塗布した円形の板で、表面には赤色漆で笹と扇のような文様が描かれる。周縁の裏側に面を取ることから円筒形のもの蓋の表面を飾っていたものと推定される。3196も表裏面に黒色漆を塗布された円形板で、内面の周縁に装着痕を残すことから、円筒形のもの底版であったものであろう。3197は雲形の飾り板で、断面に2箇所木釘穴が残る。3198は灯明台の部材。中央を浅い半月状に挟らせた細い角材で端部は丸く仕上げられる。もう1本同じものを十字形に組み合わせて灯明皿受けとして使用したものである。下端に当たる面には4箇所に木釘穴が下方から穿たれており、この灯明台を台上のものに固定するためのものと推定される。3199・3200は黒色漆と赤色漆が塗り分けられた板状の部材である。3199の断面には木釘穴が残り、裏面には刃物痕が残り転用されている。3201は漆が付着した紙である。箸は完形のものから欠損するものまで多数出土している。完形のものには長さが21cm～28cmのものがある。形態は一辺1cm～2cmの角材を面を取るように断面多角形に削り、両端を削って先細りにするものである。

雑具としては、3267～3269は自然木の枝の又部分を利用した自在鉤である。3267・3268は直径約1cmほどの枝の表面を削ったもので、実際に囲炉裏の上に向けて鍋などをかける自在鉤にしては脆弱で、自在鉤のような役目をしたものといったほうがふさわしい。3268は頭部を丸く仕上げ、上端に挟り込みを入れた丁寧な作りである。3270は幅3cmの長方形の箱物。内面を長方形に挟って周縁を作り出し、その内面には墨が付着している。このことから、墨を入れていた箱、または細長い筆箱のようなものであったことが予想される。

木筒には形態で分類すると上端は長方形のままのもの、隅丸のもの、山形のものに分かれ、加えてそれに両端に切れ込みが入るものがある。下端は長方形のままのもの、先細りにするものがある。多くの個体には墨痕が残り、人名などが記してある付札とわかるものもあるが、判読できないものや意味不明のものもある。3271には「九郎兼もん」、3272には「新左衛門尉」と人名が、3273の左には「五大力弁」、右には「伊藤小四郎(郎カ)」の文字が残る。表面に「五大力菩薩」、裏面に人名が書かれた札である。五大力菩薩とは、三宝を護持する国王を守護する人力のある五菩薩のことで、金剛吼・竜王吼・無畏十力吼・雷電吼・無量力吼を指し、家の四隅に「五大力菩薩」と書いた札をはり盗

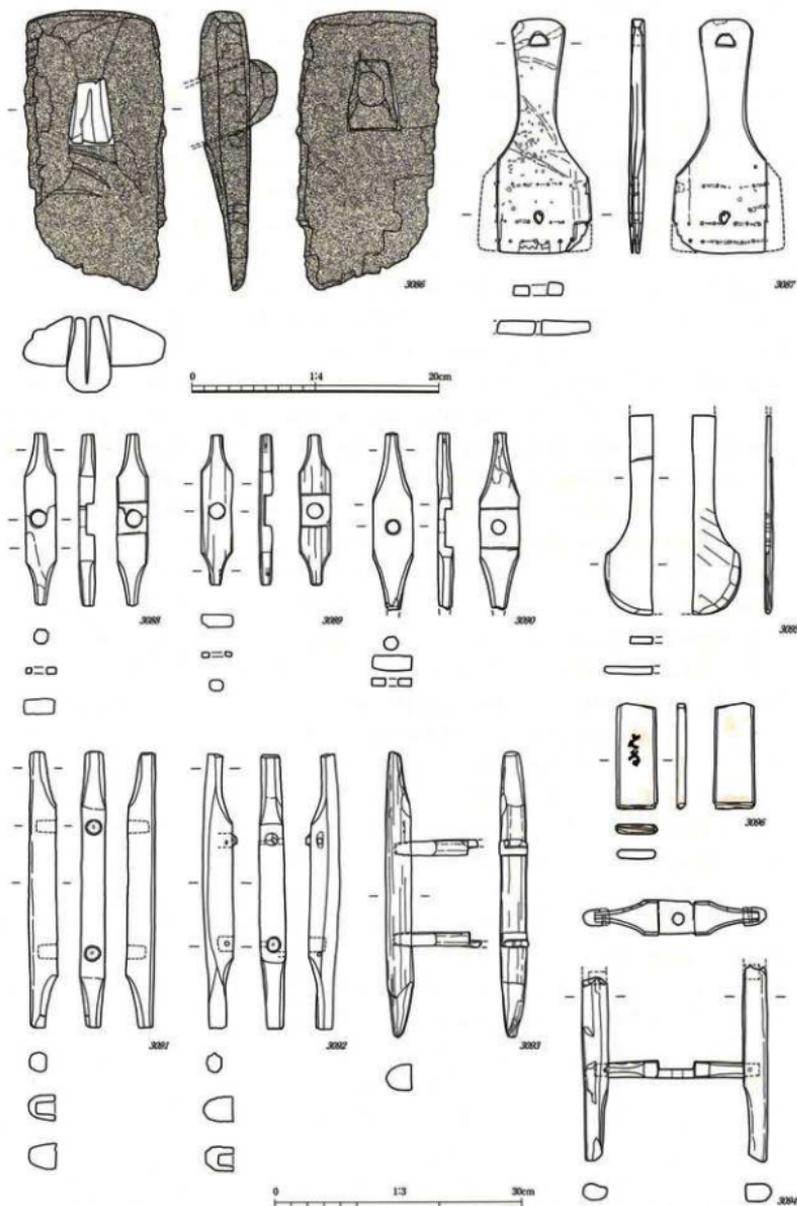
難除けにするという風習があるという。3275の左には「□（とカ）三郎」、右に「こたう」の文字。3274は2行にわたり右側に「九斗九升津せん」「□し」、左側に「九斗九升はつおん」「水八し」とある。「水八し」は現在の富山市水橋の地名か。3278・3281の頭には井桁に「火」、または○に「大」などの屋号のような記号が付く。3280には表と裏に50行と70行の数字が右から順に書いてあり、数字の下には「筵」とあり、筵の数量を示したのか。

3283は扁平な薄い板状で、表面には「王」の字が残る開香札。3284は将棋の駒の「銀将」で、断面は三角形で、下に向かい厚くなる。表面にも黒痕が残っており、判読できないが「金」か。

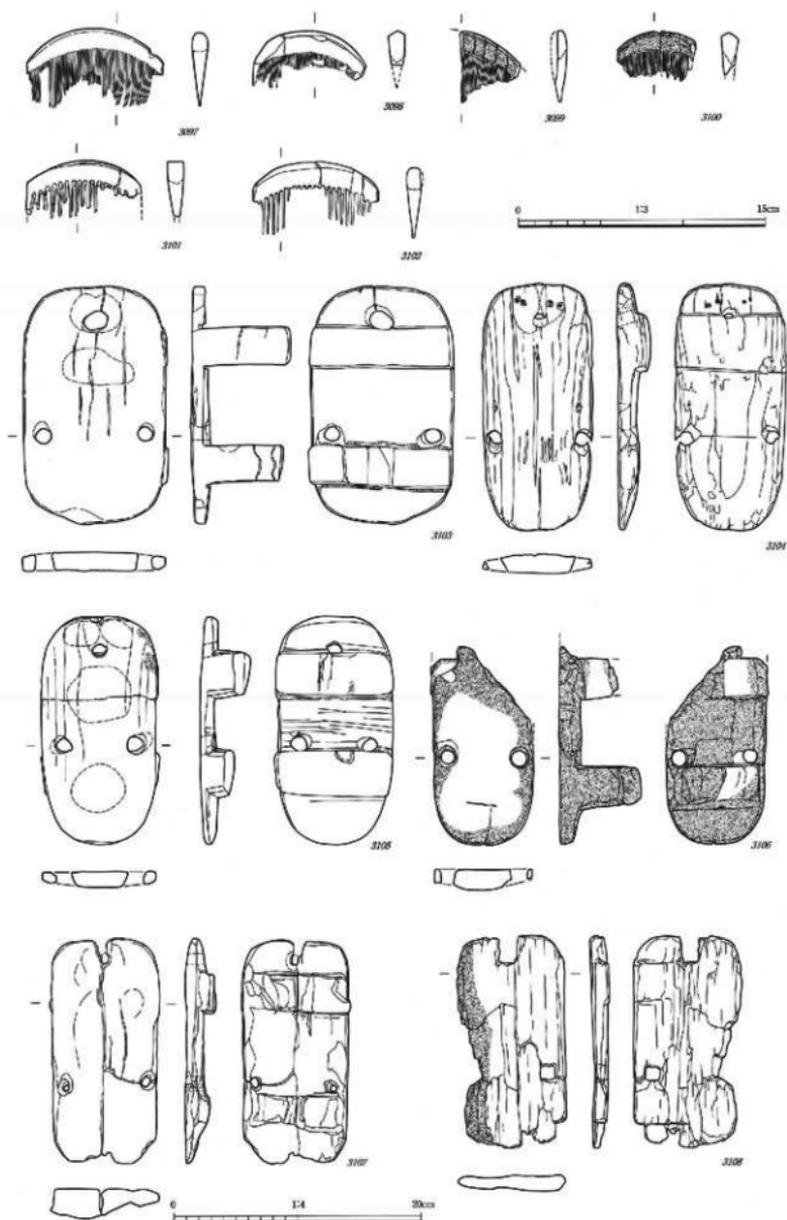
3285～3287は算盤の玉。孔の直径は3mm～4mmで、上・下端に向かって細かく削り、中央が最大径となる。3288～3295は数珠玉。包含層からは8点出土しており、木製で磨いて楕円形に整形しており、最大径が7mm～9mmのものがある。断面形も楕円形で、孔径は1mm～2mmである。

3296～3333は部材、または用途不明品である。3296は長さ10cm、幅3.5cmの角材の中央に両端から四角い挟りが入るもの。3297は長方形の板材の内側を浅く四角く挟ったもので、上端には小孔が穿たれ、下端の両側には切れ込みが入る。表表面には赤色漆の痕跡が残る。3298は上端が楕円形を呈する板材で、中央上寄りに小孔が穿たれる。表面・側面には赤色漆が残存し、裏面には不整形な小型の板材が接着されている。3299は上端を尖らせて四角い挟りが両側から入るもので、建築部材の継手の一種と考えられる。3301は上端が柄となっている扁平な部材で、片面に等間隔に小孔が穿たれる。3307は板材の一方を取っ手状に削り込み、もう一方を丸く切り取ったもので、表面に煤が付着して黒色となっている。3302は長さ10.5cm、幅7mmの細い角材の2面を削り、上下端に挟りを入れる。3308は柄で、半裁されているが、端の膨らんだ部分の下には紐状のものを巻き付けたものか、圧痕が残る。3306は断面楕円形を呈する材の中央に長方形の穴が穿たれ、両端が摩耗している。長方形の穴に柄を差し込んで、木植のように使用されたものであろうか。3312は扁平な板材で、ややすぼまった両端には圧痕が残る。表面には僅かに漆が残る。3315は三角形の板材で、中央に直径3cmの孔が開けられ、左右両端に2孔1対の小孔が穿たれる。裏面には弧を描く線状痕が残る。3317は内面の周縁に段を有する円形板の残欠。小孔が2孔穿たれており、生物類の底板とも考えられよう。3316・3318・3319は雪下駄とも考えられる加工板で、四角い板材をそのまま、または隅を丸く仕上げた上端に直径約1cmほどの孔が穿たれるものである。3318の表面には平行する5条の線状痕が残る。3320～3325は柄または柄穴を有する組み合わせ式の部材である。3322・3323は中央に相欠きの仕口を有する部材。長方形の角材で、3324・3325の柄穴には柄の部分が残っている。3326は長方形の角材で、側面には4箇所に鉄釘が打たれた跡が残る、そのうち2箇所には釘が現存する。3327は長方形の末広がり材で、上端の両側に挟りを有する。裏面には上下端に1箇所ずつ幅約5mmの凹線が残る。3329は丸太材を半裁し、下端を残して蒲鉾形に切り取られたものである。3330は丸太材の中央に長方形に挟りを入れたもので、継手の一種を示すものか。3332・3333は長さ約70cm、幅約9cmの板材で、上端に四角い柄穴、下端の中央は長方形に挟り取られ、「コ」字状を呈する。

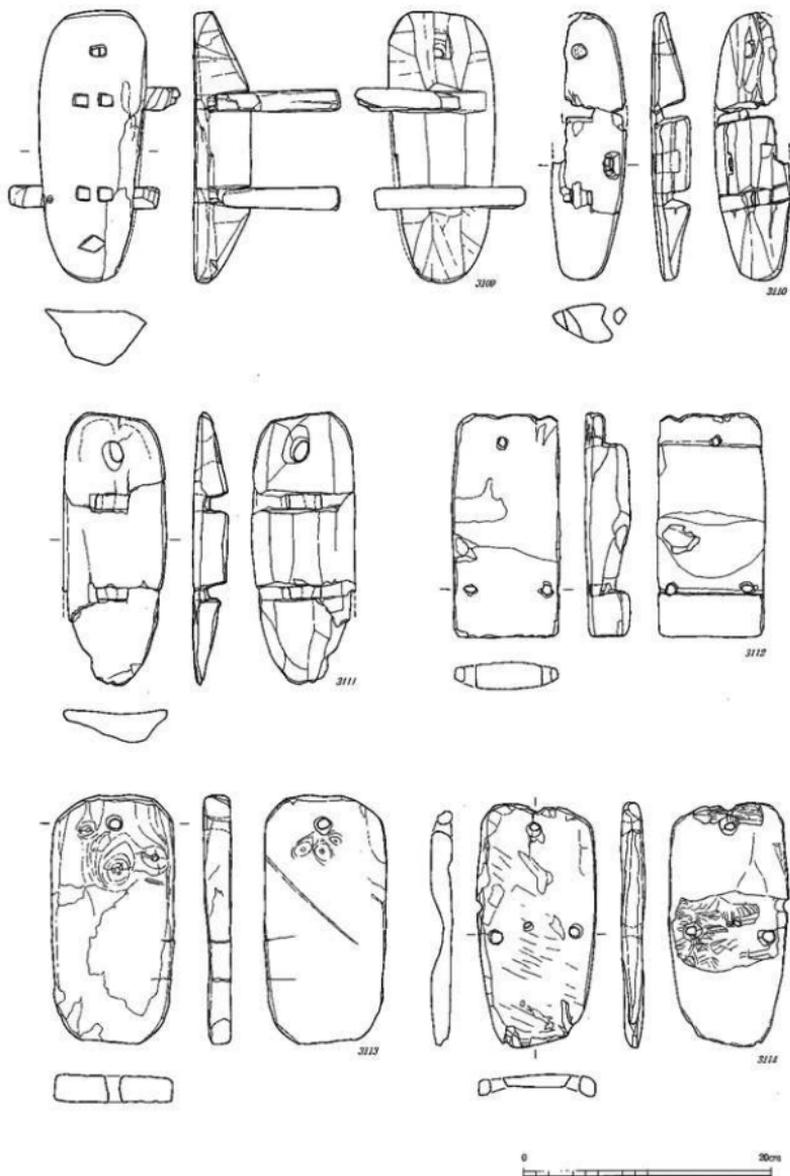
石製品には碁石・数珠・砥石・茶臼・石臼・石鉢・五輪塔が出土している。石製品ではないが貝製の駒や、黒も出土しており、あわせてここで記述する。碁石は長径約1.5cm～3cmの扁平な黒い石で、3337は特に大きく色調もあまり黒くはない自然石である。同じように盤上遊戯に使用されたと考えられる貝製の円形の駒（3338）も出土している。約3分の1の残存で、表表面中央に浅い円形の挟りが残る。3339は直径4mm、高さ3mmの水晶製の数珠玉である。中太の円筒形で、直径約1.5mmの孔が貫通する。3340は端部が雲形の長方形の巖である。表面は周縁部が高く、中央には唐草状の文様が陽刻される。



第322图 遺物実測図 (3087~3095 1/3, 3086 1/4)  
包含層



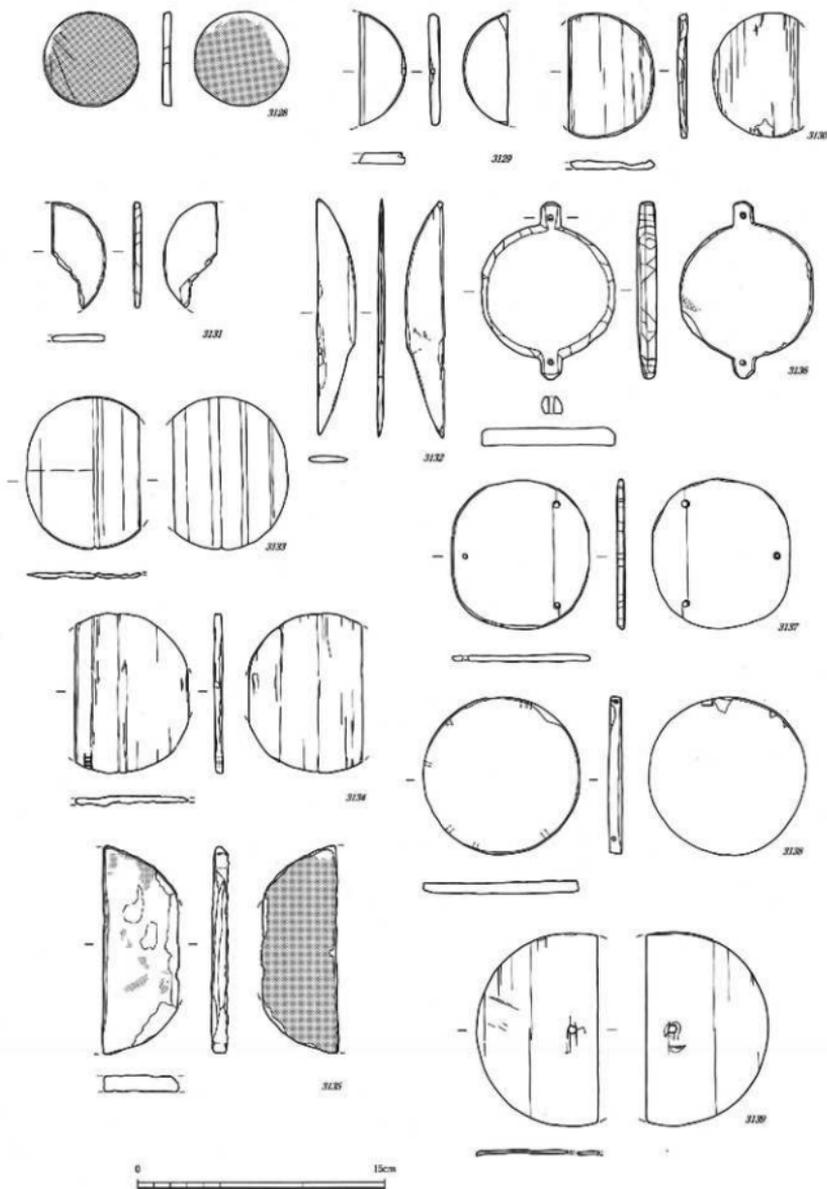
第323図 遺物実測図 (3097~3102 1/3, 3103~3108 1/4)  
包含層



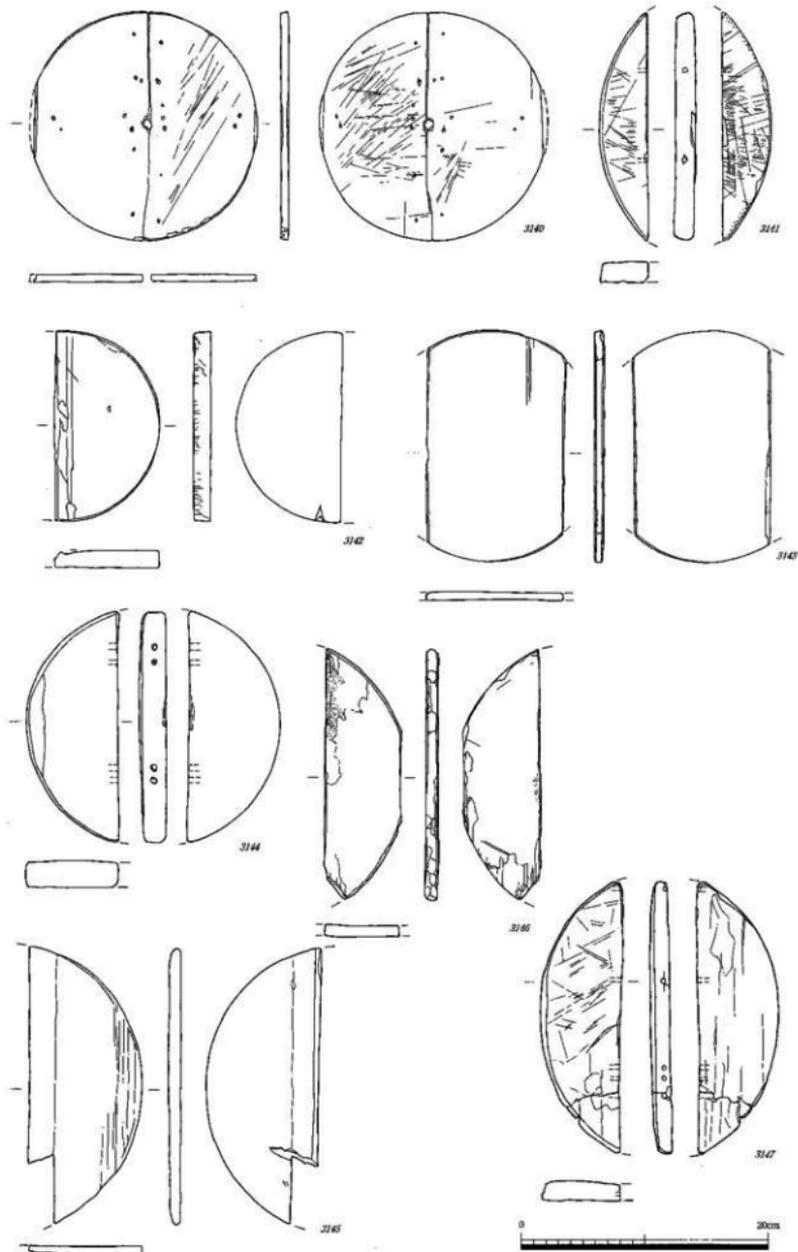
第324图 遗物実測図 (1/4)  
包舎解



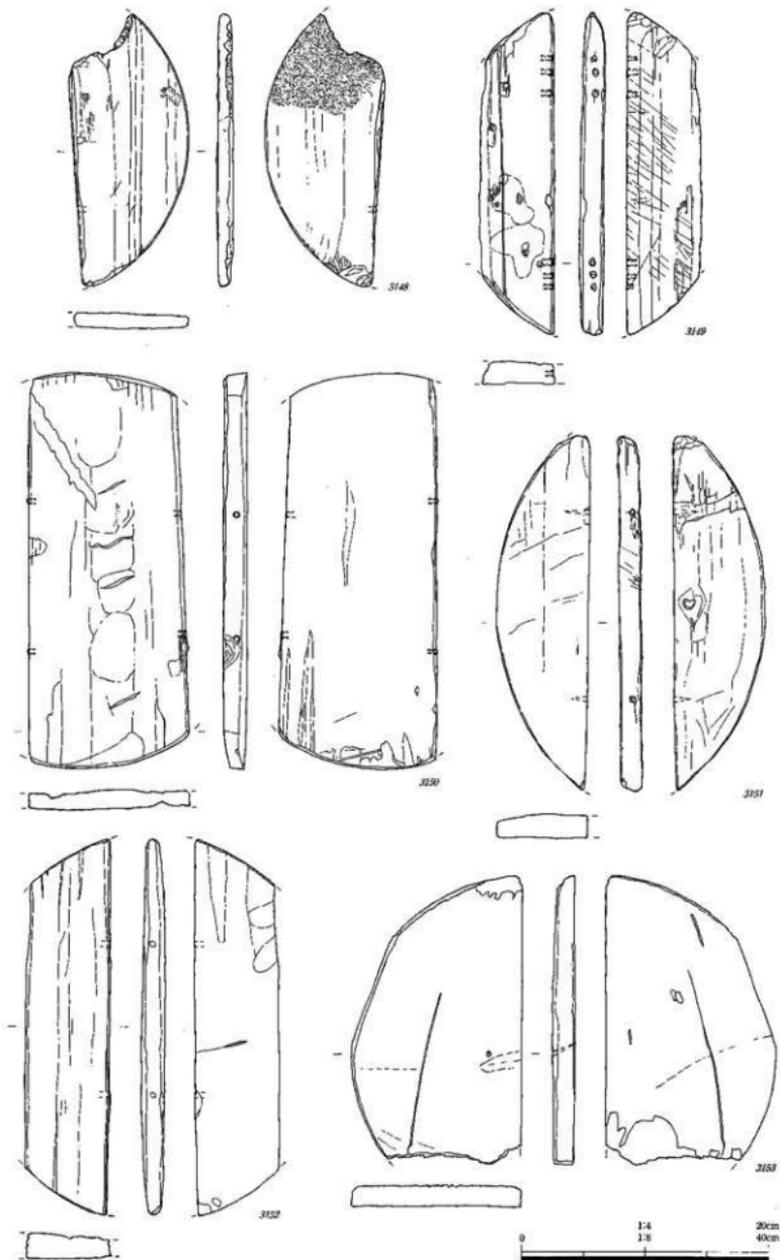
第325図 遺物実測図 (3118~3127 1/3, 3115~3117 1/4)  
包舎層



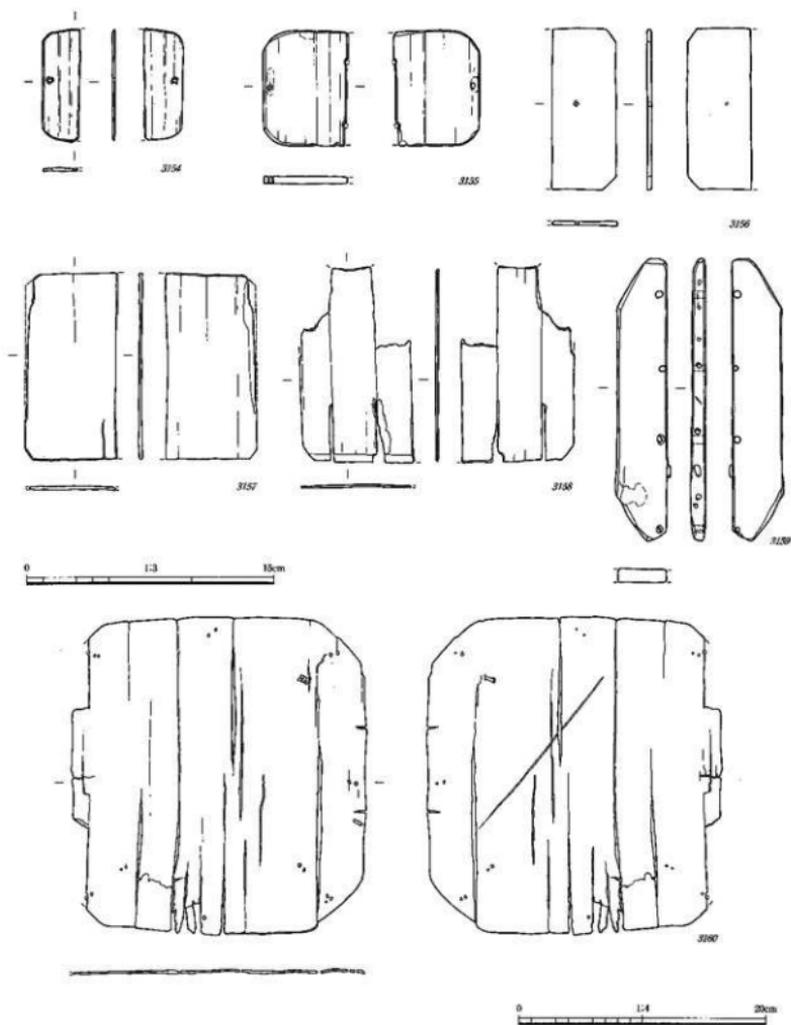
第326图 遗物实测图 (1/3)  
包含罎



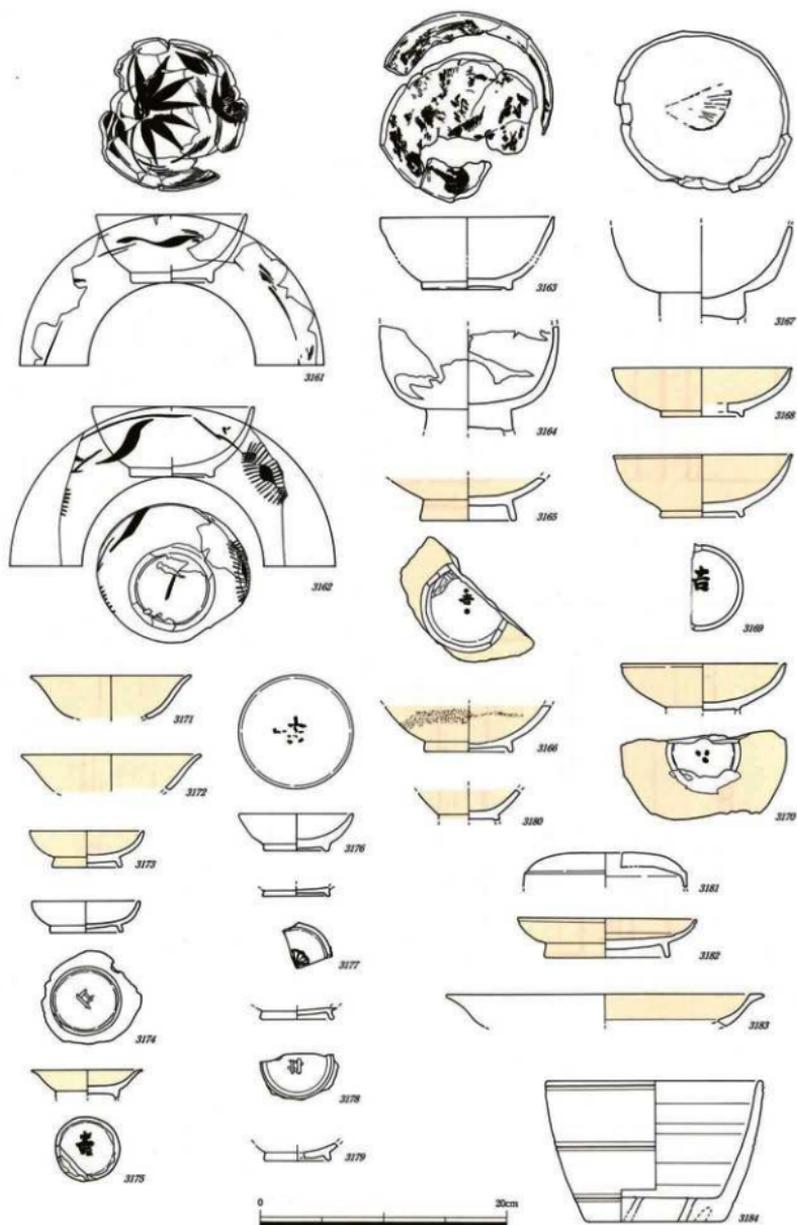
第327図 遺物実測図 (1/4)  
包舎層



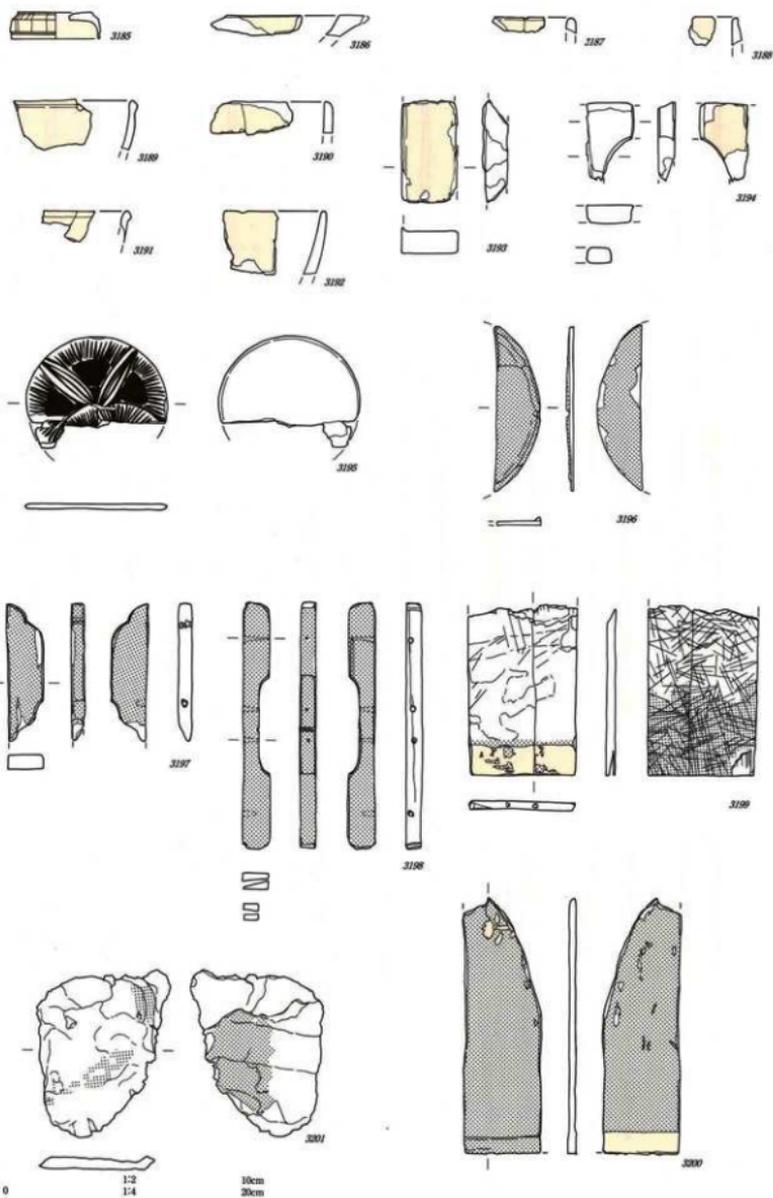
第328图 遗物实测图 (3148~3152 1/4, 3153 1/8)  
包合箱



第329図 遺物実測図 (3154~3159 1/3, 3160 1/4)  
包含層

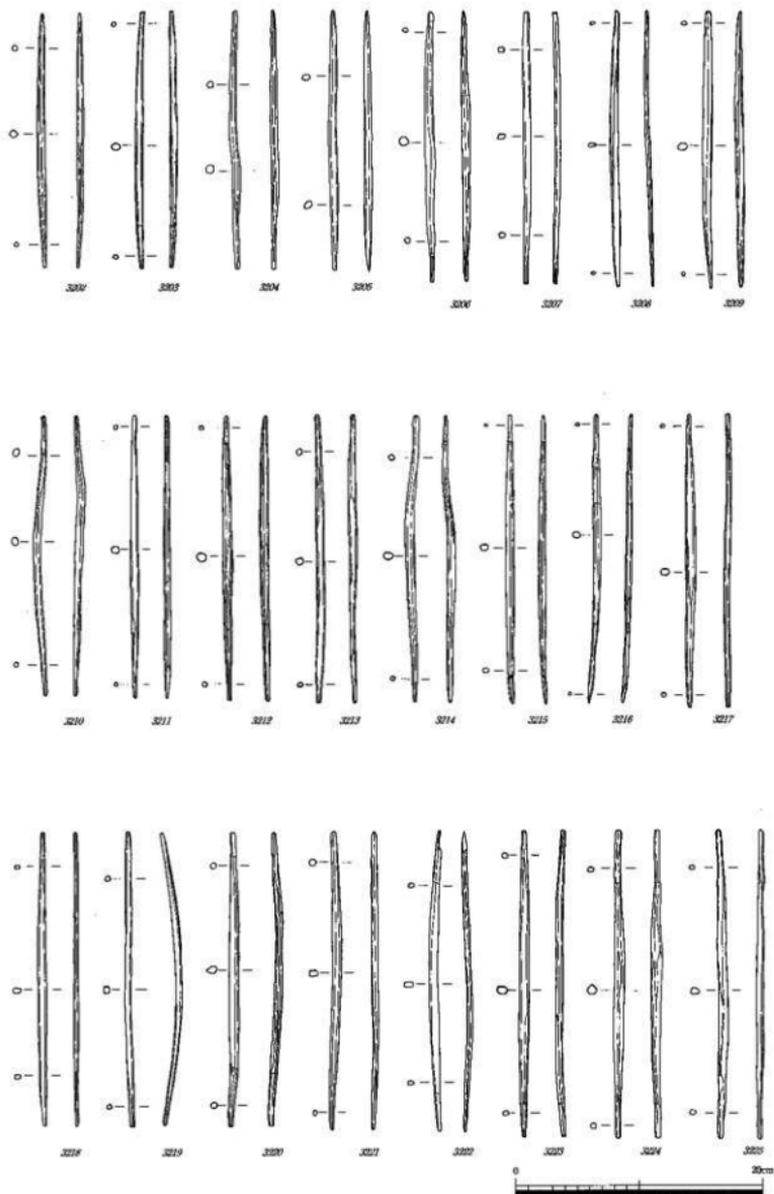


第330图 遺物実測図 (1/4)  
包含層

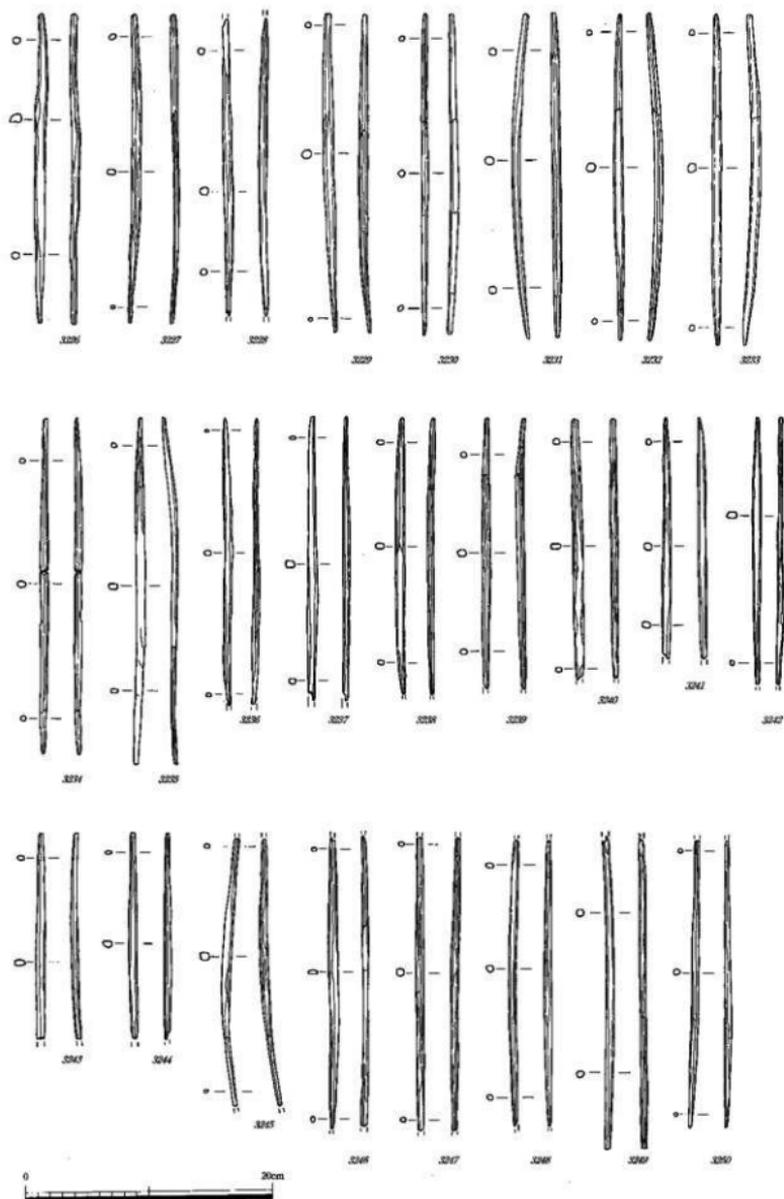


第331図 遺物実測図 (3185~3196 1/2, 3197~3201 1/4)  
包含層

1 中世 (A地区~C地区)

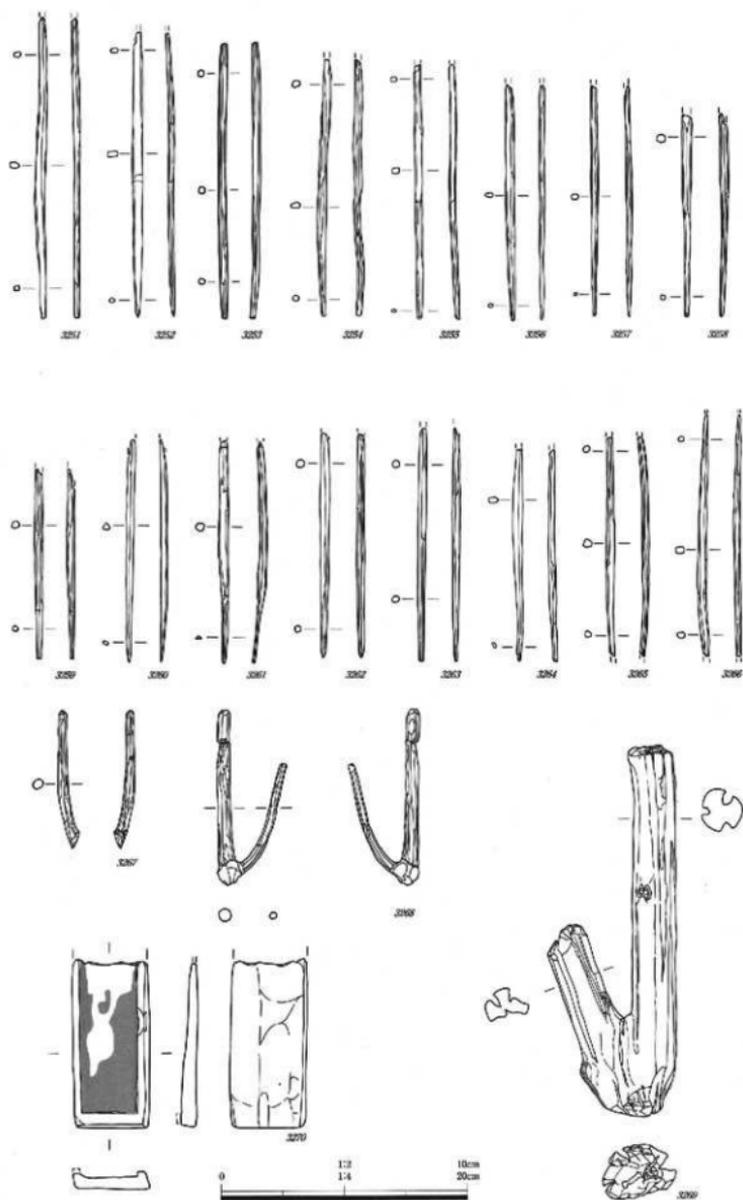


第332图 遺物実測図 (1/4)  
包含層

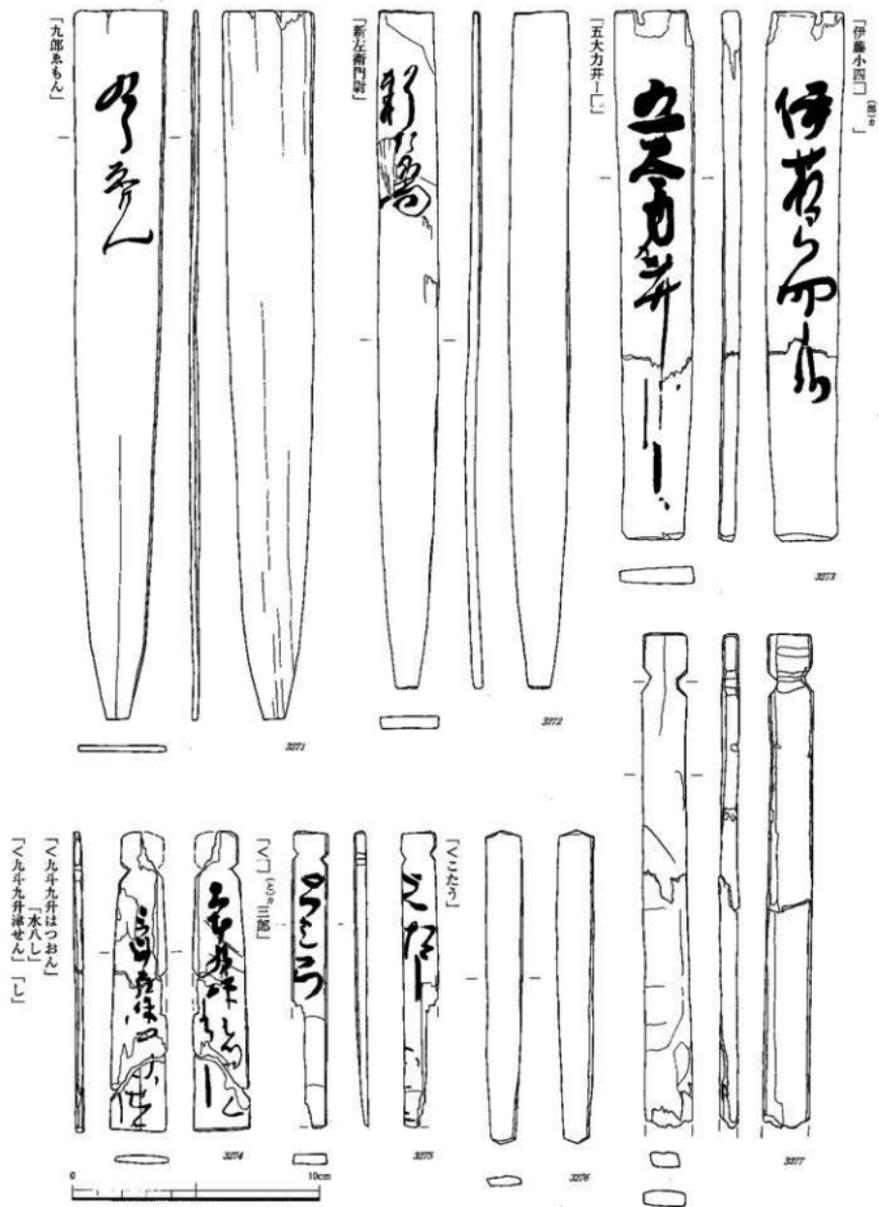


第333図 遺物実測図 (1/4)  
包含層

1 中世 (A地区~C地区)

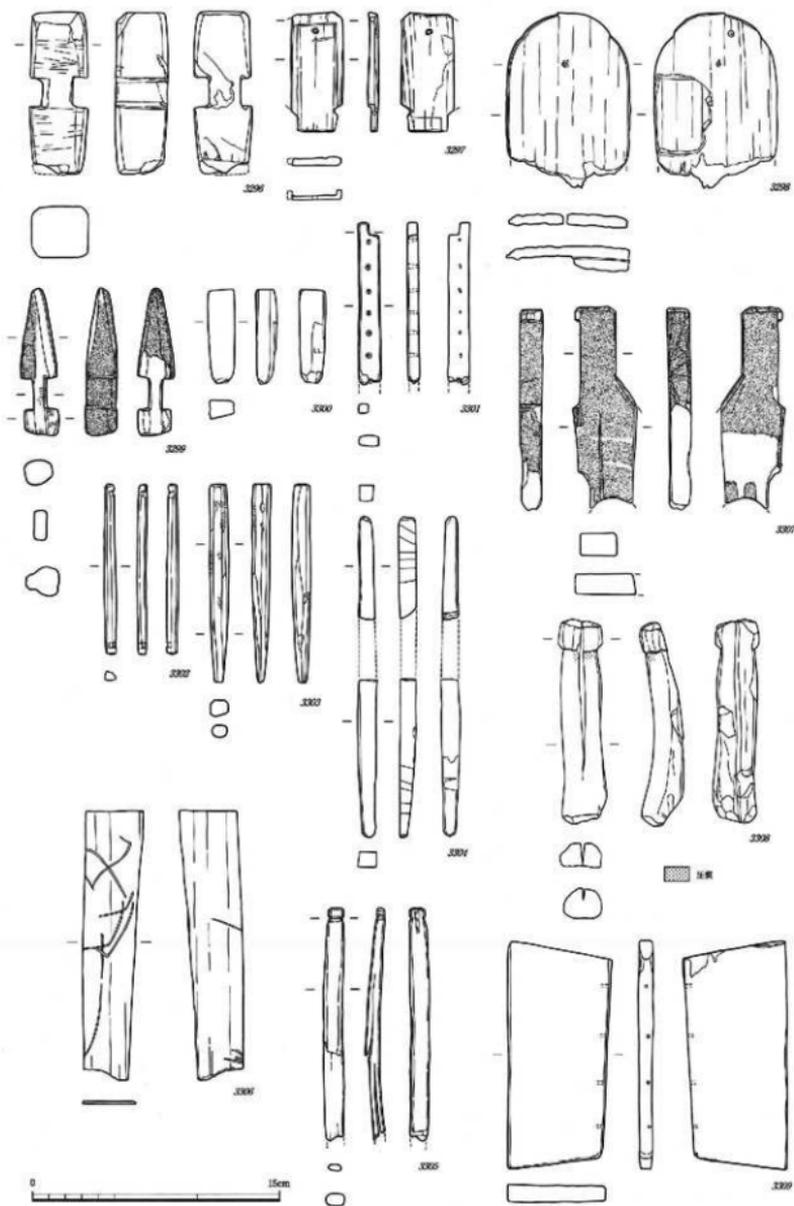


第334图 遗物実測図 (3270 1/2, 3251~3269 1/4)  
包含層

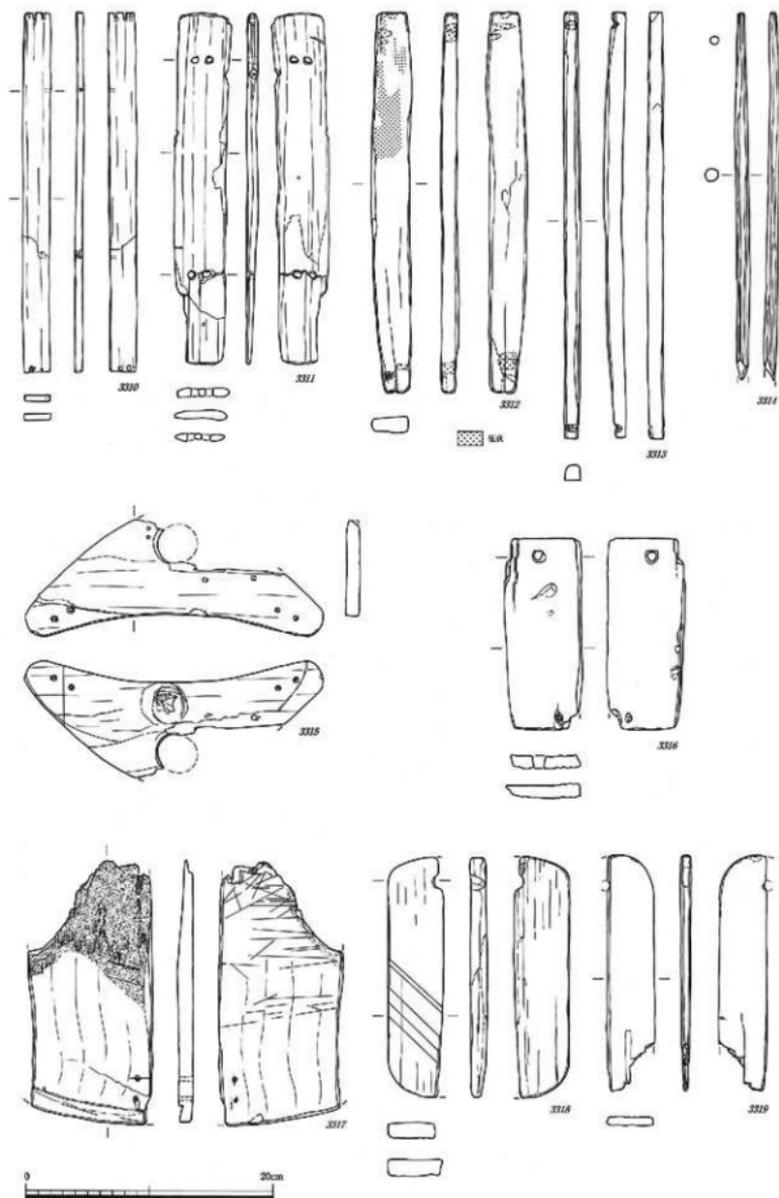


第335図 遺物実測図 (1/2)  
包含物



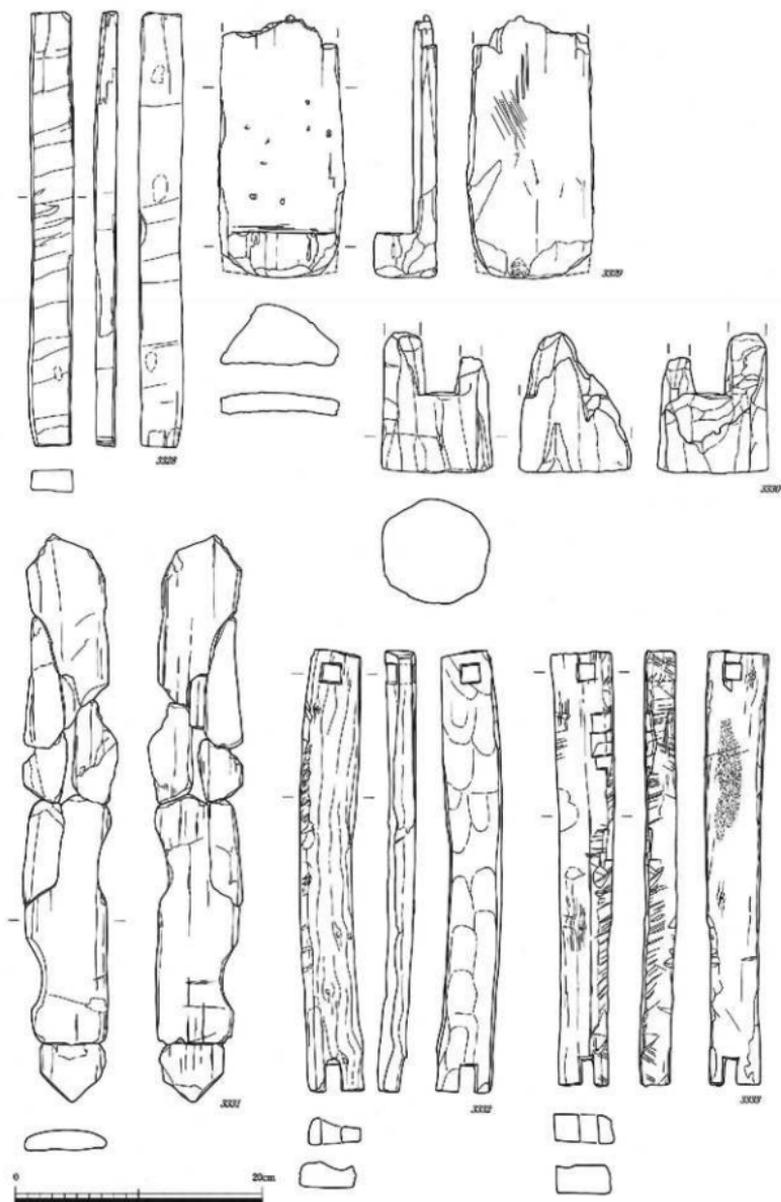


第337図 遺物実測図 (1/3)  
包含編

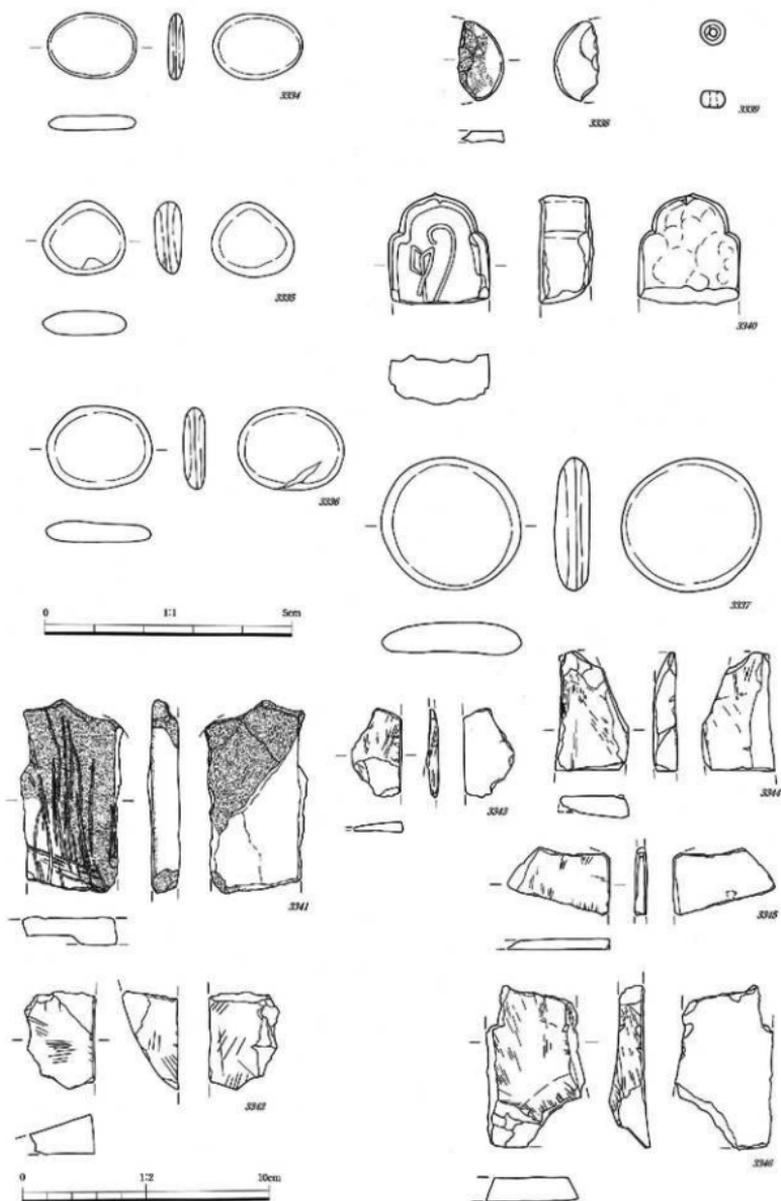


第338图 遗物実測図 (1/4)  
包含層





第340图 遺物実測図 (1/4)  
包含層



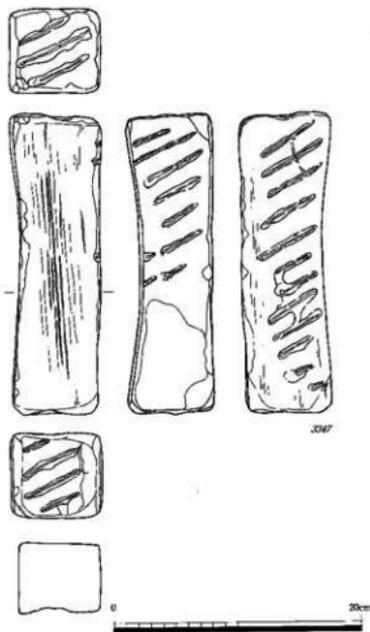
第341図 遺物実測図 (3334~3340 1/1, 3341~3346 1/2)  
包含層

上部部が摩耗しており、使用した痕跡が残る。

砥石は扁平な板状の砥石の細片と長方形の大型の砥石が出土している。3341は表面に筋状の使用痕が残る、二次的被熱により表面及び断面に煤が付着している。3344・3345は石質から丹波・山城産と推定される。3347は長さ24.4cm、最大幅が7.4cmの直方体の砥石で、上下端、三側面には整形時の斜方向の整跡が残る。表面には直線状の使用痕が残る、石材は砂岩質で、荒砥に用いられたものであろう。茶臼は上臼が4点、下臼は1点出土している。完形のものはなく、端部または側縁が欠損しており、特に上臼は意識的に打ち欠いたような細かい剥離面を示している。石材は凝灰岩質で、目のパターンはすべて8分画である。3348は摺り面の中央に四角い芯棒を装着する孔が穿たれ、芯棒と思われる棒状の木製品が共存して出土している。上臼の直径は20cm前後を示し、側面に穿たれる挽木の打ち込み孔には「子持ち菱」の装飾が施されるものが2点(3351・3352)ある。3349は石臼の上臼で、片減りが著しい。目のパターンは8分画で、挽木の装飾は横打ち込み式である。石鉢は2点出土しており、石材が凝灰岩質である。3355は中央が円形に削り込まれた浅いもので、他の用途も考えられる。3356は五輪塔の火輪で、石材は砂岩質。風化によって表面は摩耗している。

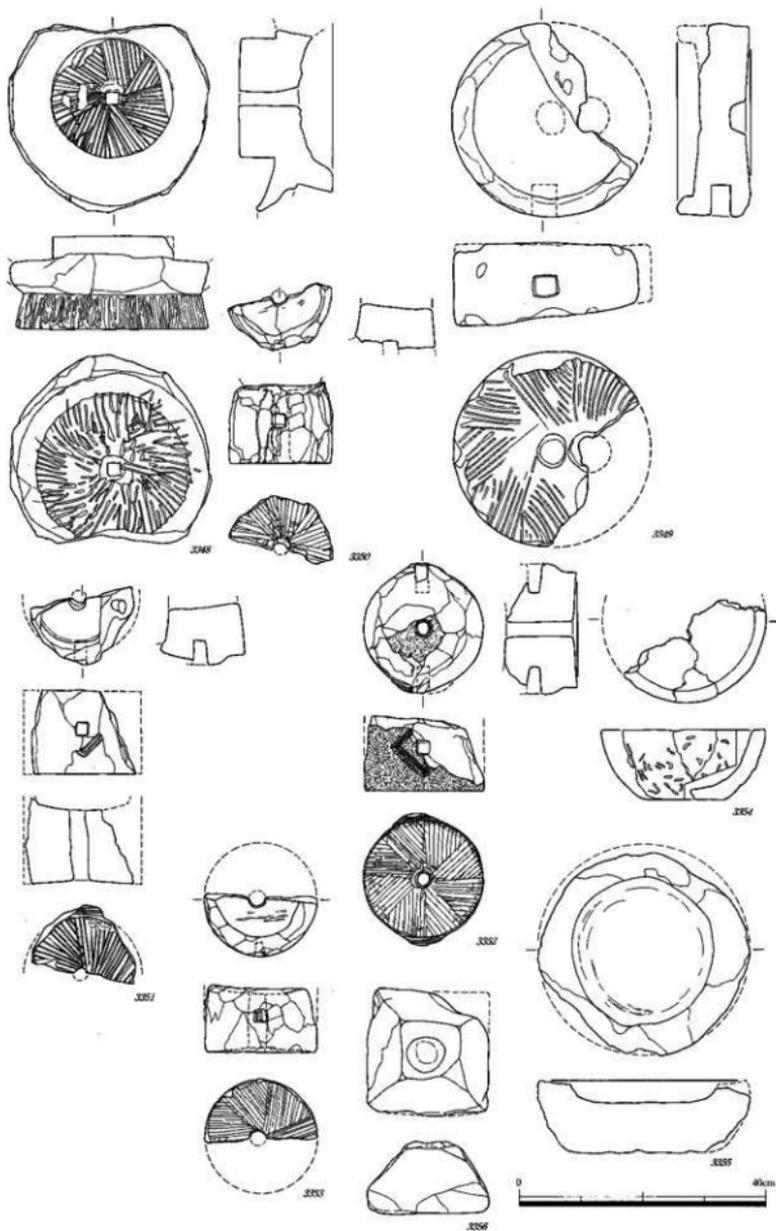
金属製品は大きく分けて、生活用具・生産用具・武具・銅銭などに分けられるが、装飾金具など何に装着されていたものか不明なものも多い。しかし、この地区の金属製品の量は他の地区、ましてや県内の他の当該期の遺跡と比しても種類・量ともに傑出している。

生活用具には簪・鉄漿皿・煙管・鉄・包丁・火箸・鉄鍋がある。3357・3358は銅製の簪。3357の頭部には小さな槽出形のスプーン形の耳かきが付属している。3358は逆「Y」字状の頭部のつけね部分周辺には線刻の文様が施される。3359は銅製の菊花状の皿で、内面に黒色の付着物が残留することから鉄漿皿と推定される化粧道具であろう。内面中央には先割れの笠形の鋸が打たれ、底部に溶接された高台を固定する。3362~3364は煙管の吸口である。すべて銅製で、形態は羅字への接続部分と直接口にあてる吸口部分の間に段を有するものと直線的に吸口に向かってすままるものがあり、後者が新しい。3362は羅字接続部分周辺が雷文帯と花文帯によって装飾される。3364は折れ曲がって変形しており、表面には擦痕が残る。羅字側の太い部分と吸口側の狭い部分の溶接部分が異なることから、個々に溶接したものを最後につなぎ合わせたことがわかる。3360・3361は鉄製の摺り鉢。3361は摺り部分の破片である。当時の鉢は現在のような裁縫道具としてではなく、髪を切り揃えたりする際に使用する化粧道具の一つであった。3365は鉄製の包丁。刃部のほとんどが欠損し、茎部分が残る。断面形は刃部も基部も逆三角形である。3366~3374は鉄製の火箸。断面形が円形で、上部部を折り曲げて



第342図 遺物実測図 (1/4)

包含物



第343図 遺物実測図 (1/8)  
包舎層

環状にするものと、断面形が四角で、下端部を控ってあるものとそうでないものがある。3375～3379は鉄製の鍋の破片である。3375は足の部分、3377は突起部が外に向かって広がっていく様子から、底部外面中央に位置する湯口かと思われる。3278は銅製の提子のような容器と推定される。弦をかける部分は厚く、側縁を浅く刻み装飾を加えている。3380～3382は鍋の弦である。変形したものが多いが、3382は半円形を描き、両端が外側に向けて曲がっている。3383は銅製の円盤状の底板で、表面の周縁が一段厚くなっておりその内側には擦痕と2箇所に「X」のような記号が残る。3384はつぶれて薄い円盤状になってしまっているが、当初は皿状を呈していたものである。3386は舌状の薄い銅製の板状品。

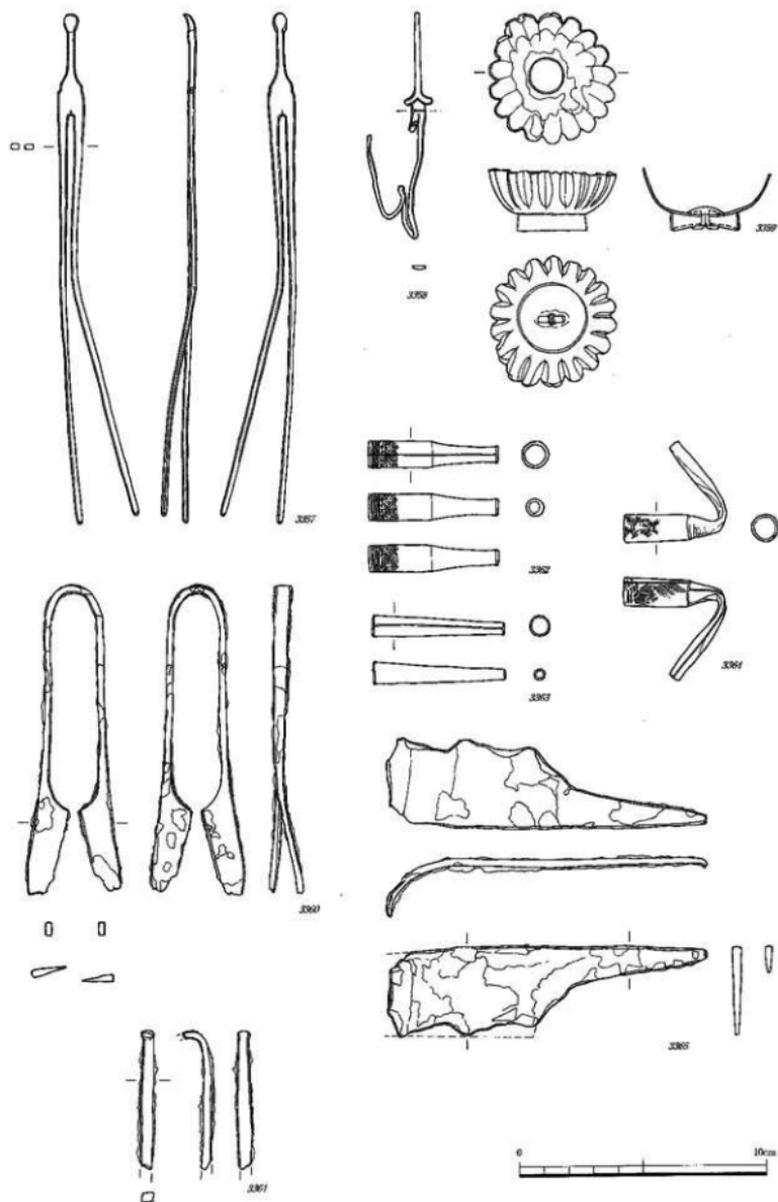
生産用具には紡錘車・鎌・窩口・手斧・鎌・取瓶・釘・鏝・楔があり、ほとんどが鉄製品である。また、鉄滓・銅滓がわずかであるが出土している。3387は鉄製の紡錘車である。受け皿状の紡輪の直径は約4.5cm、軸棒は直径は約4mmで、上・下端が欠損する。3388は口金が残る鎌である。3389は柄の木質部が残る窩口である。3390は手斧で、刃部は柄に対し鋭角に装着され、柄を通す孔は長方形である。刃部の断面形は長方形で、平刃である。この道具を使用し臼の目立てを行っていた民俗例がある。3391は柄の木質部も完全に残る鎌である。金属部分の断面形は正方形で、先端部分はやや扁平になっている。このことから鎌の種類の中でも四ツ目鎌と考えられる。柄は握り部分に向かって細くなる断面楕円形の棒材である。3392は取瓶で、浅い柄杓形を呈し、断面半円形の取っ手が付いている。3393～3395は鎌などの農・工具の柄と金属部分を固定するための補強具として柄の先端にはめ込まれた口金具である。3394・3395は銅製品である。釘は断面四角形の角釘で、頭部はつぶれたような形態と折り曲がり巻き込むような形態のものがあり、変形、欠損しているものが多い。大きさは幅が4mm～8mmのものがあり、長さは約3.5cm～17cmのものがある。3430～3432は鏝で、長さが6cmと小型のものや大きい9.3cmのものがある。小型のものは背の部分が扁平な長方形を呈し、大きいものは断面が円形である。3434・3435は幅約1.8cm、厚さ5mm～7mmで断面形が長方形を呈する馬鎌の歯と推定される。3436は鉄滓、3437・3438は銅滓の小塊で、取瓶・増埴なども出土していることから、周辺で小鍛冶を行っていたことが推定される。

武器は刀子・小柄・鉄鎌・小札・刀装具・銃装具がある。刀子(3439～3441)は欠損または変形しており、刀身は断面三角形の平造りで、区は片区と凹区のものがある。葉の断面形も三角形である。3441は小柄の刀身部、3445～3448は小柄の柄である。柄尻が直のものや丸いものがあるが、表面は無文の筒素な造りのものばかりである。3449は鉄製の直径6.5cmの円形の鏝。3450は銅製の楕円形の切羽である。3451は幅1cmの銅製の黄金具である。上端が内側に折れ曲がっている。3442は小札で、2枚が重なった状態である。札幅は1.9cm、2列10項まで数えられるが、小札頭を欠損するので種類は不明である。表裏には漆が残存している。3443・3444は鉄鎌。先端部分は3443が角錐状、3444が円錐形を呈し、茎部分も3443が断面四角形、3444が円形を呈する。3452・3453は火繩銃の火銃、3454は金銅製のバネである。3452は丁寧な造りで、表面に装飾が施されている。3455・3456は鉛製の鉄砲の弾である。直径1.1cm、3458はその弾の材料であった鉛の延べ板である。3457は一对の長さ8cm、幅1cmの長方形の鉄製の板の上下端を穿孔し、その間に「J」字状のフックのような形状のものを挟み込み、上下の穴に短い鉄釘を挿入し固定したものである。フックのような部分は上端でのみ固定されるので、回転が可能であることからそれを利用した吊り手状の金具ではないかと推定される。

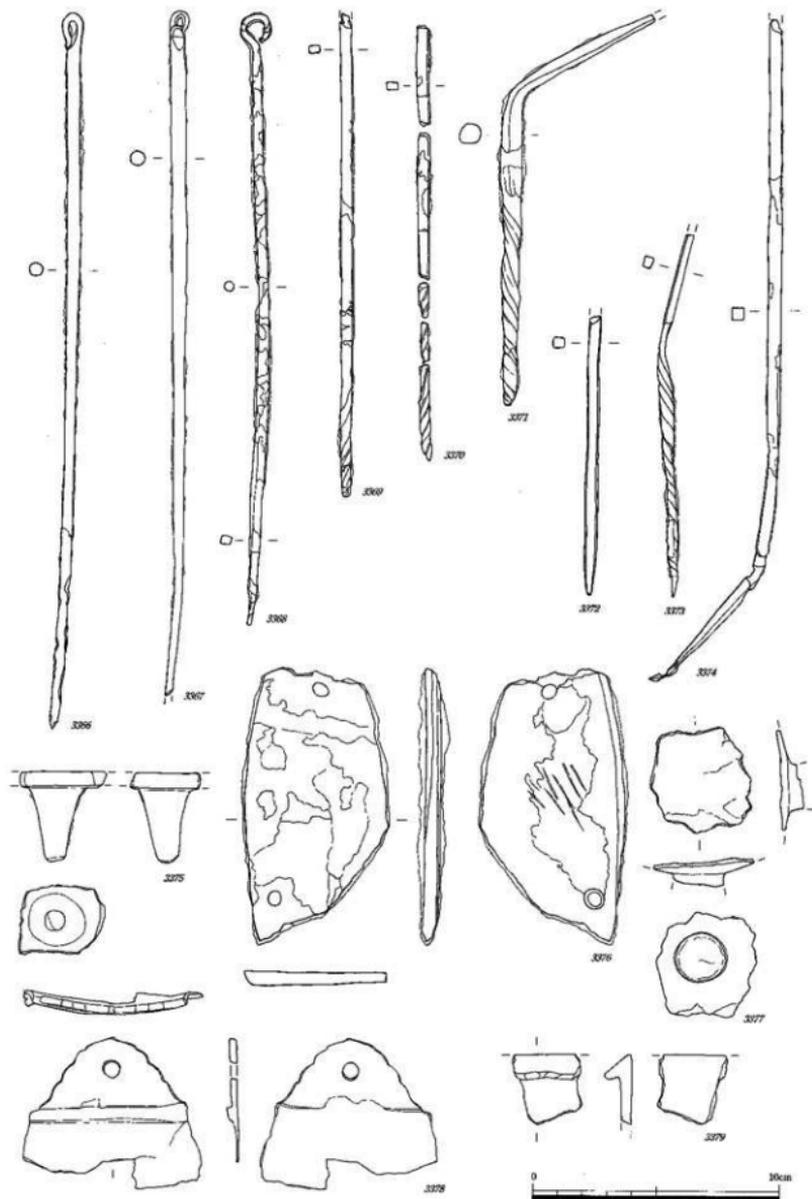
3459～3479は何に装着されていたものかは不明であるが、縁金具や飾り金具の一種と考えられるものを集めてみた。この中には甲冑の金物も含んでいる。3459・3460は縁金具で、断面は「U」字形で、

固定するための日釘穴が数箇所設けられる。3459には1箇所日釘が残る。3461は幅が1.3cmの断面レンズ形の銅製品で、上端には直径6mmの穴が穿孔される。3462～3464は引き手状の金具。3462は直径3mmの銅製の金属棒をひねって環状にし、先端を平たく延ばして重ねたもので、3463・3464は「C」字状の棒状の金具である。3467は直径4mmの銅製の棒状品であるが、一端が楕円形状に小さく叩き延ばされている。3468は甲冑の袖の金物の一種で、水吞緒<sup>すゐのくみ</sup>を結ぶ水吞環<sup>すゐのくみ</sup>の座金物である筭金物。銅製で幅2.2cmの長方形で表は彫り込みをもち、端部は後に直角に折り返す。表面には透彫りで立体的な枝菊文が施される。茎や葉・花の表面は線彫りで細かく表現され、非常に丁寧な作りとなっている。3469は金銅製で、長さ16.2cm、幅2.65cm、厚さ1mmの飾り金具である。両端を三角形にし、左右に2箇所刻みが入る。両端には固定するための日釘穴が残る、1箇所には目釘が遺存していた。表面には唐草文様の文様が線彫りされ、隙間には浅い円文の地文で埋められる。3470は金銅製の鶴の頭部で、頸の下が欠損している。嘴は土庄の影響でか歪んでいるが、鼻孔まで表現されており、頭部には低い楕円形の円柱状の冠様のものが載せられ、その上面には格子状の刻みが施されている。これはタンチョウの赤い頭部を表現したものでしょうか。3471は龍の意匠の金銅製の飾り金具である。前足と後足の右足が欠損しているが、この足の裏の部分で何かに溶接されていたことが残存する足から観察される。大きく開かれた口をもつ頭部は龍にしては短く、髯も表現されておらず、ややもすれば犬かワニにも見えないもないが、角のような頭部の小突起と頭から尾まで伸びる小突起を鬣の表現と見て取れば龍と推定されよう。3472は笠形の飾り銀で、3473は八重菊の意匠の八双銀の頭部である。3474は飾り金具を留める銀で、頭部が丸く断面形は四角形である。3475は幅2.6cmの銅製の飾り板である。裏面から直径約3mmと1mmの先端が球形の棒状のもので打ち出している。表面は半球形の円文が6列に並び、周囲に5個の小さな半球形円文が配される。一端の中央には直径5mmの穴が縦に並び、表から穿孔されている。3476・3477は銅製の幅6mmの飾り板である。3478は長さ1.6cm、幅7mmの筒状の銅製の金具。3479は鉄製で、頭部が環状となった金具で、断面形は四角形で、環状の頭部には同径の環状の輪がつながっている。

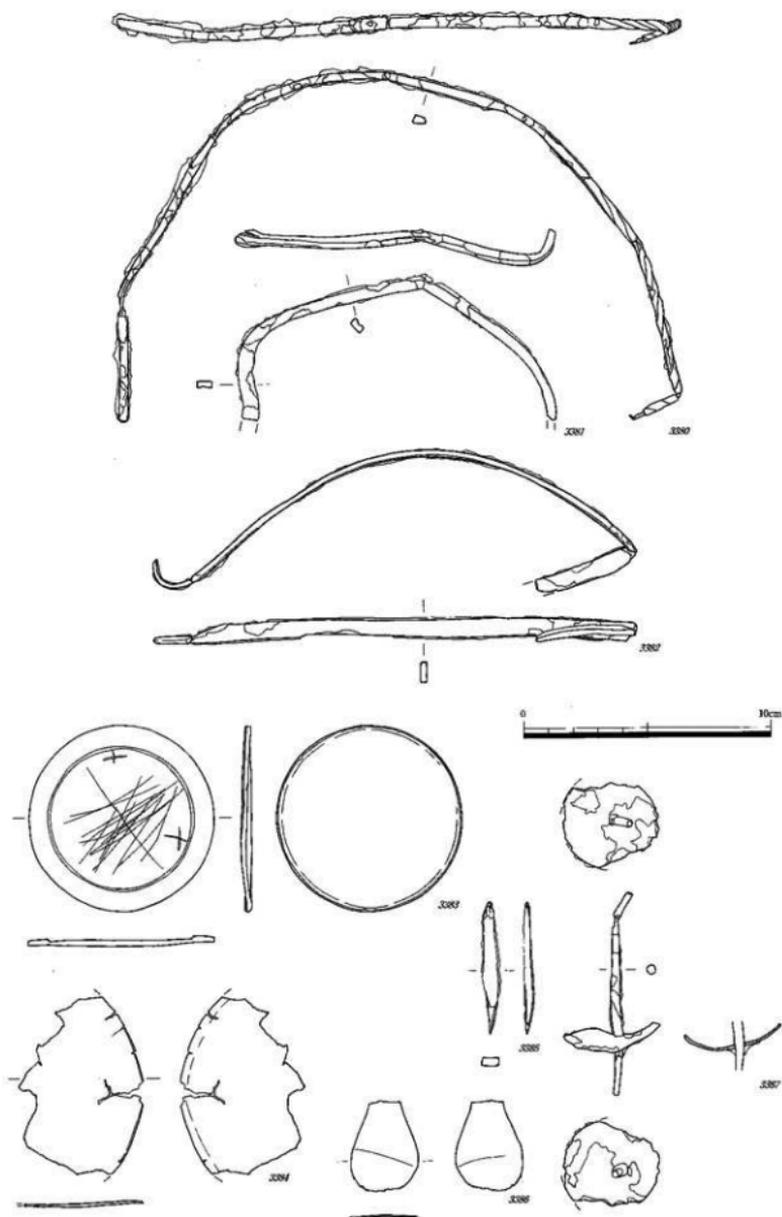
銅銭は包含層から288枚出土している。この内下層の炭化物層から95枚が一束になって出土している。その拓影図を重ねた順番で第353図～第356図に掲載している。その内訳は初鋳年が唐である「開元通寶」10枚・「乾元重寶」1枚、北宋の「太平通寶」1枚・「淳化元寶」2枚・「至道元寶」3枚・「咸平元寶」1枚・「景德元寶」1枚・「祥符元寶」3枚・「天禧通寶」1枚・「天聖元寶」4枚・「明道元寶」1枚・「皇宋通寶」15枚・「至和通寶」1枚・「嘉祐通寶」5枚・「治平元寶」4枚・「熙寧元寶」9枚・「元祐通寶」6枚・「元祐通寶」8枚・「紹聖元寶」4枚・「聖宋元寶」1枚・「大觀通寶」1枚・「政和通寶」1枚・「宣和通寶」1枚、南宋の「淳熙元寶」1枚・「慶元通寶」1枚・「皇宋元寶」1枚、明の「洪武通寶」1枚・不明3枚である。北宋銭が8割を越え、一番多い銭貨は「皇宋通寶」であった。包含層からはこの他に北宋の「宋通元寶」・「祥符通寶」・「景德通寶」・「至和元寶」・「嘉祐通寶」、南宋の「嘉定通寶」、金の「正隆元寶」、明の「永樂通寶」・「宣德通寶」が出土している。「開元通寶」には3524・3530・3531・3573・3575のように背面に月文があるものがある。「淳化元寶」・「至道元寶」には真書・行書・草書の3種の書体のものが出土している。「天聖元寶」には真書と篆書がある。南宋銭には背面に元号の数字をもつ俗称南宋番銭と呼ぶものがあるが、3490の「皇宋元寶」には「三」の背文字が、3518の「慶元通寶」には「六」の背文字がある。洪武通寶には「一銭」の背文字があるものがある(3683)。



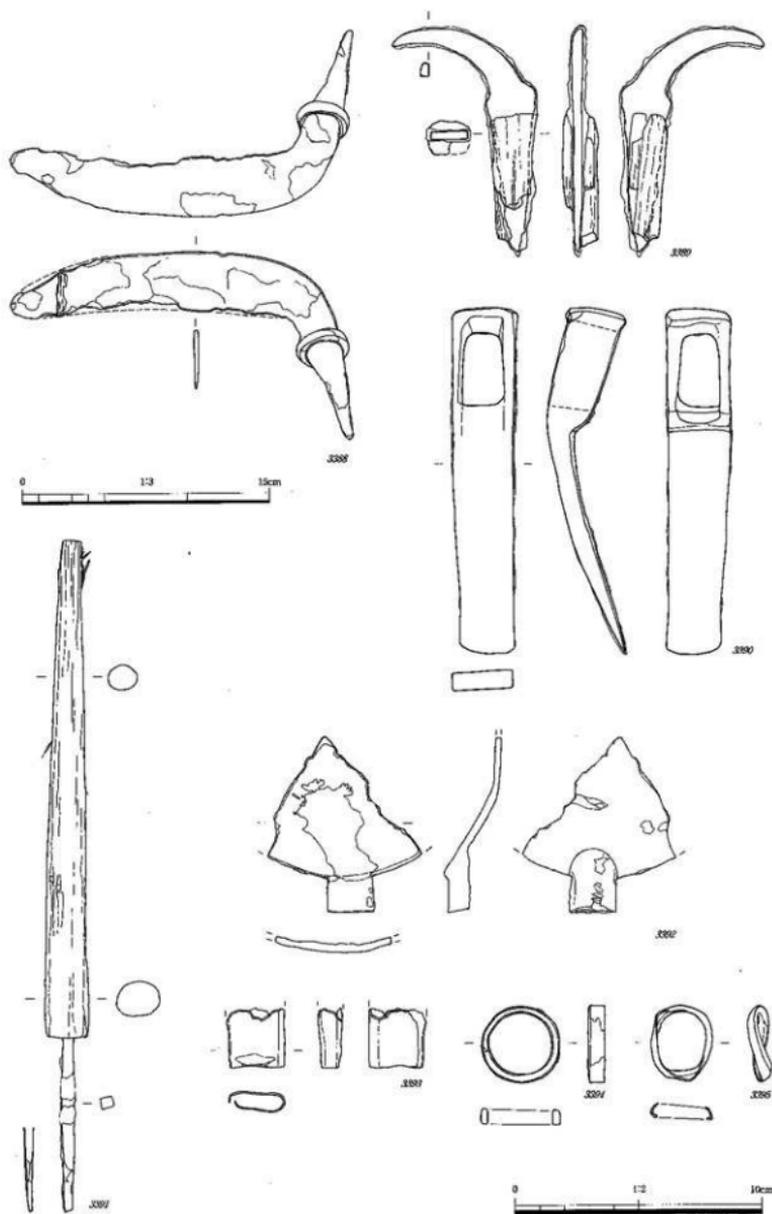
第344图 遺物実測図 (1/2)  
包含層



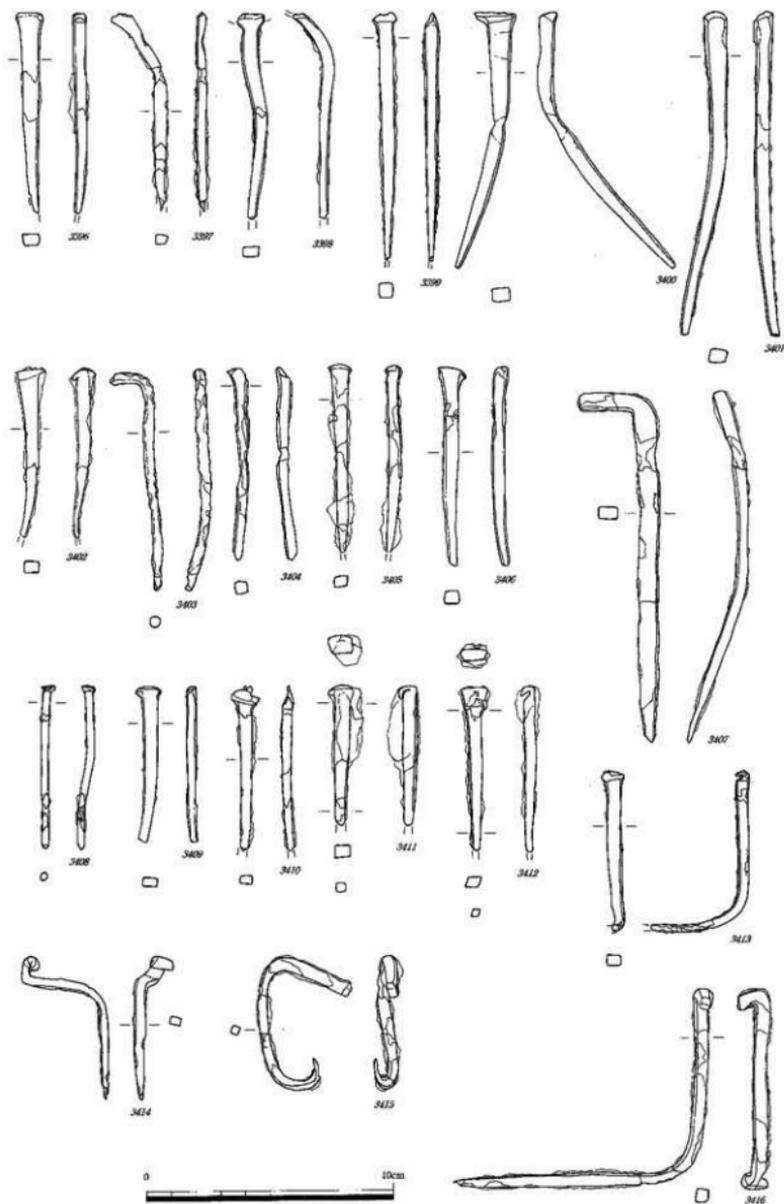
第345図 遺物実測図 (1/2)  
包含層



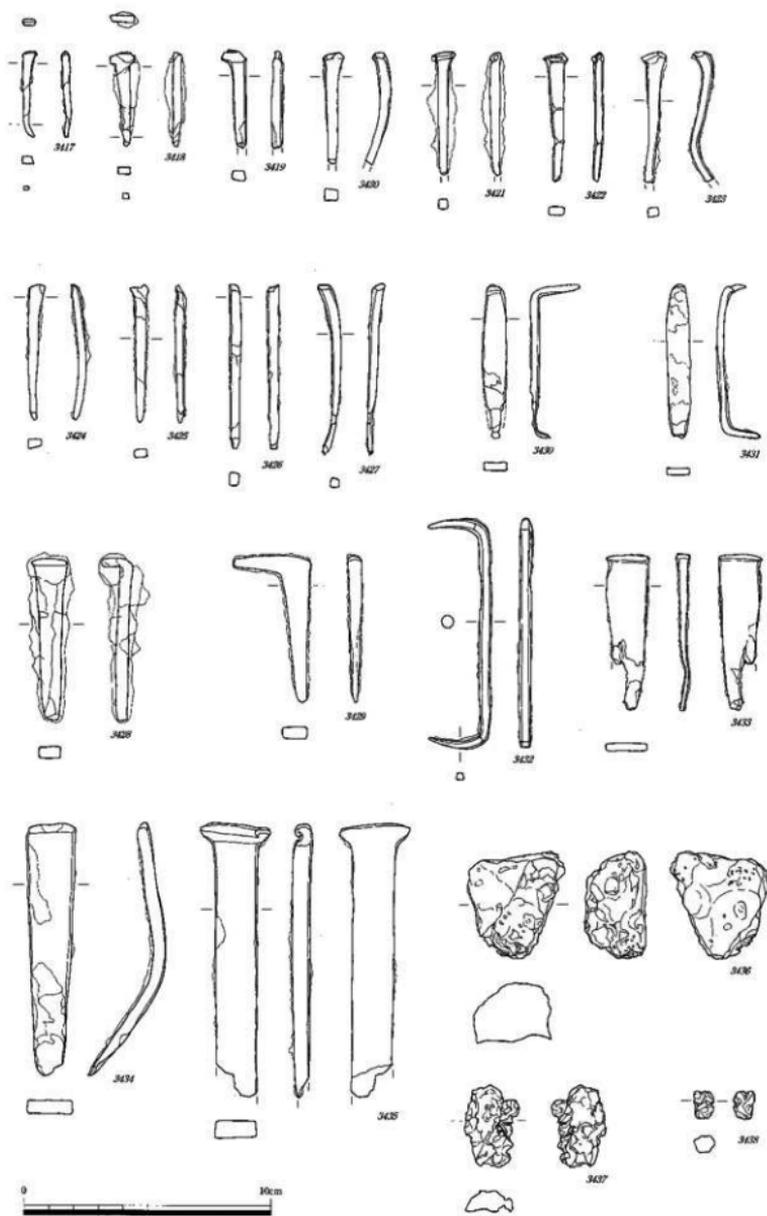
第346图 遺物実測図 (1/2)  
包含期



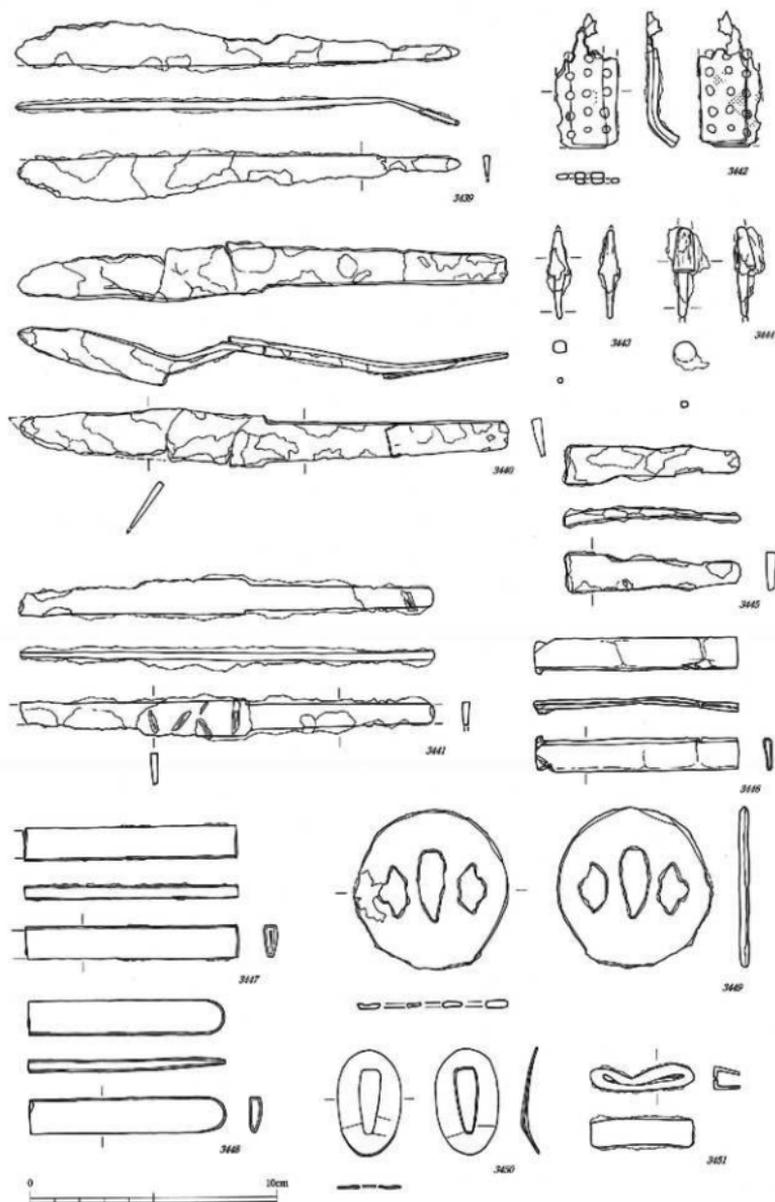
第347図 遺物実測図 (3391~3395 1/2, 3388~3390 1/3)  
包含層



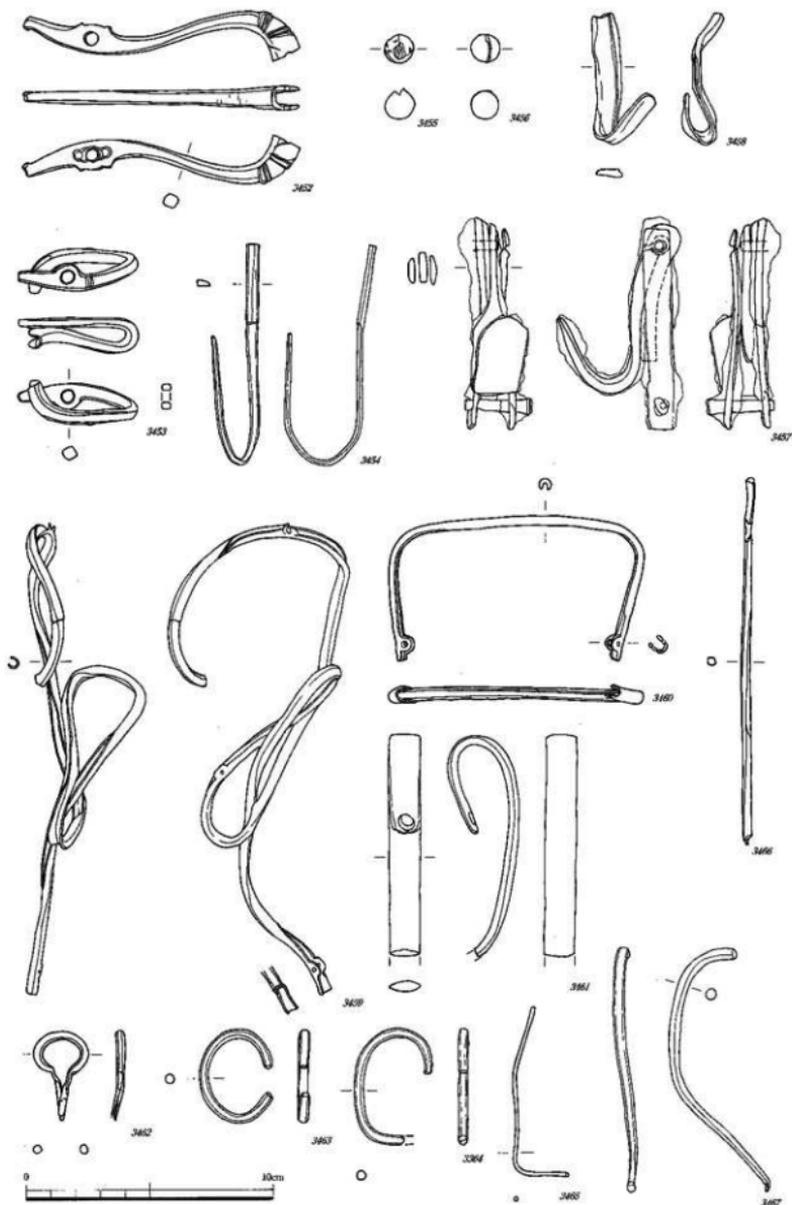
第348图 遗物実測图 (1/2)  
包含器



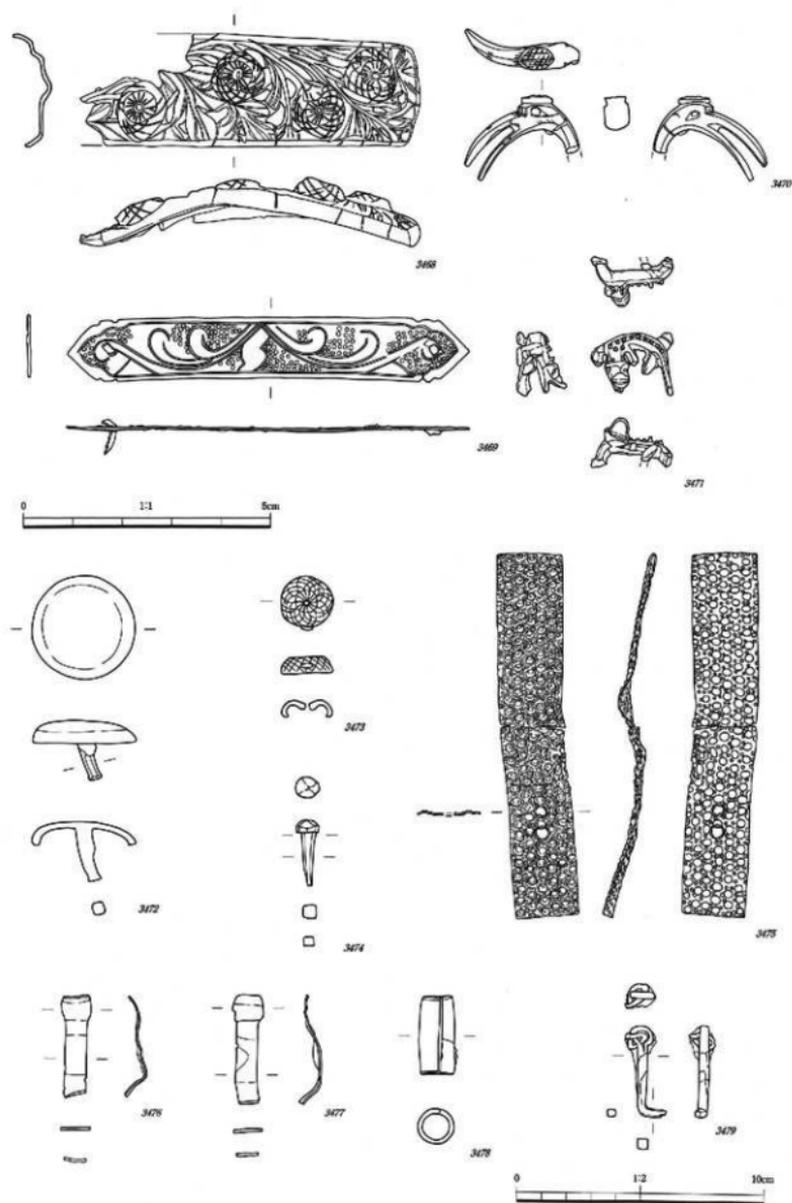
第349図 遺物実測図 (1/2)  
包含層



第350图 遗物实测图 (1/2)  
包含册

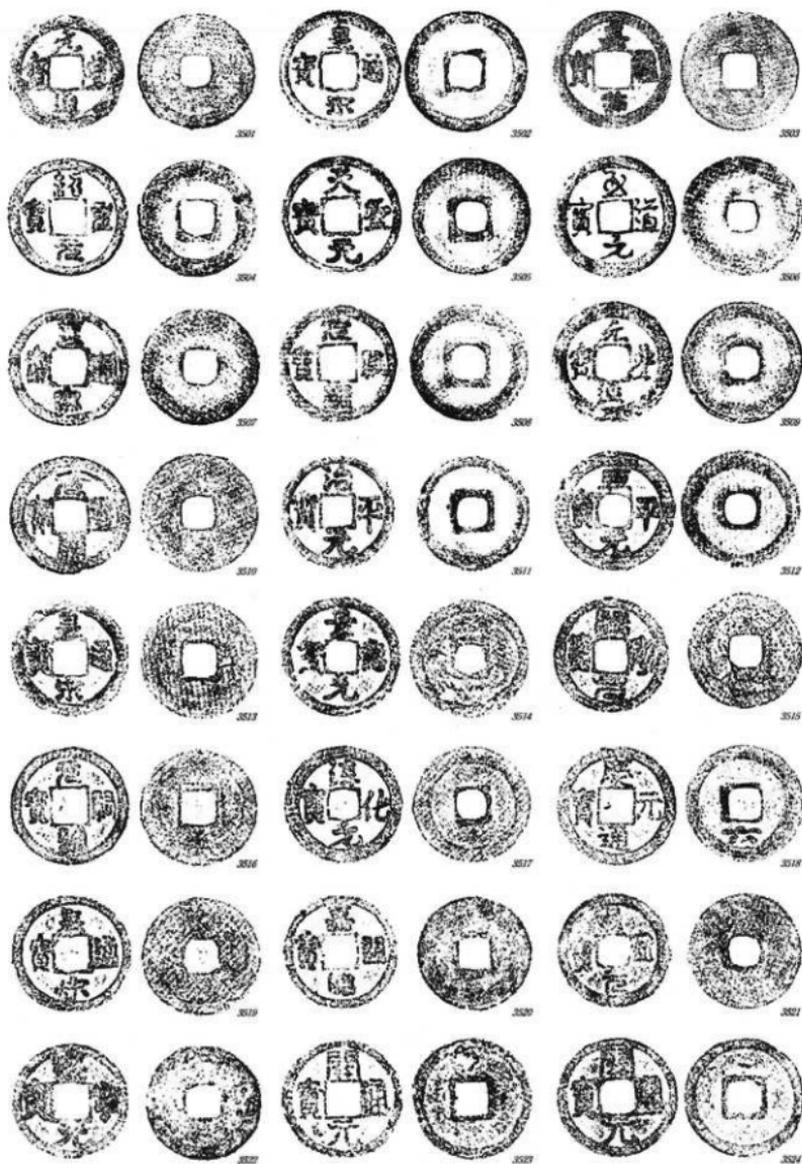


第351图 遺物実測図 (1/2)  
包含層



第352图 遺物実測図 (3468・3469・3472~3474・3476~3478 1/1, 3470・3471・3475・3479 1/2)  
包含層

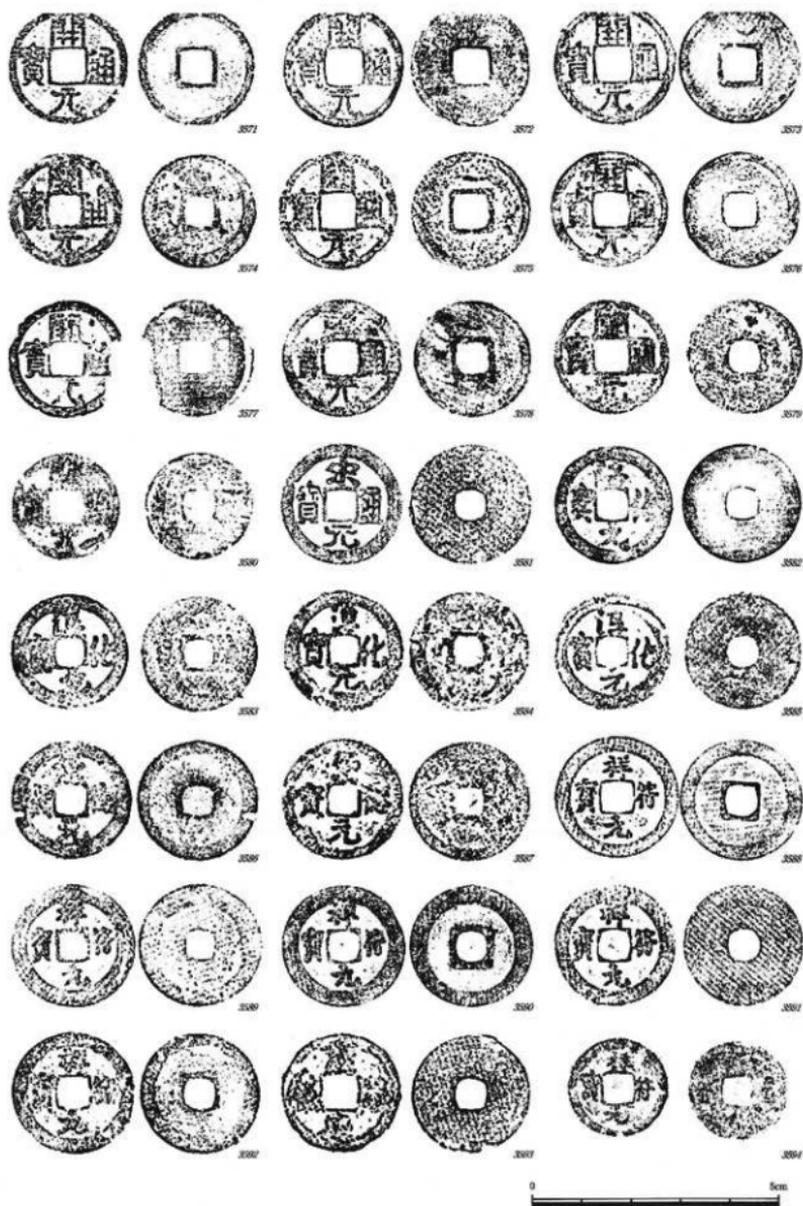




第354図 遺物実測図 (1/1)  
包含智



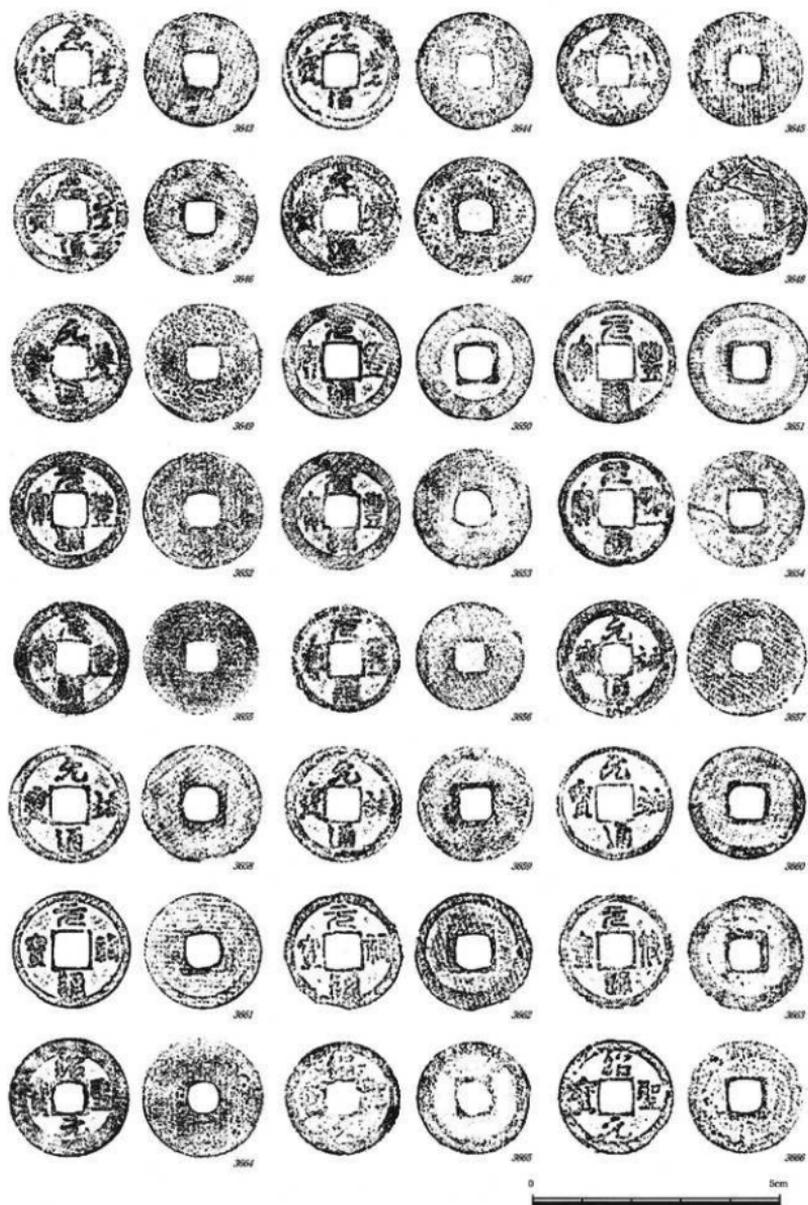




第357図 遺物実測図 (1/1)  
包含層







第360图 遺物実測図 (1/1)  
包含層



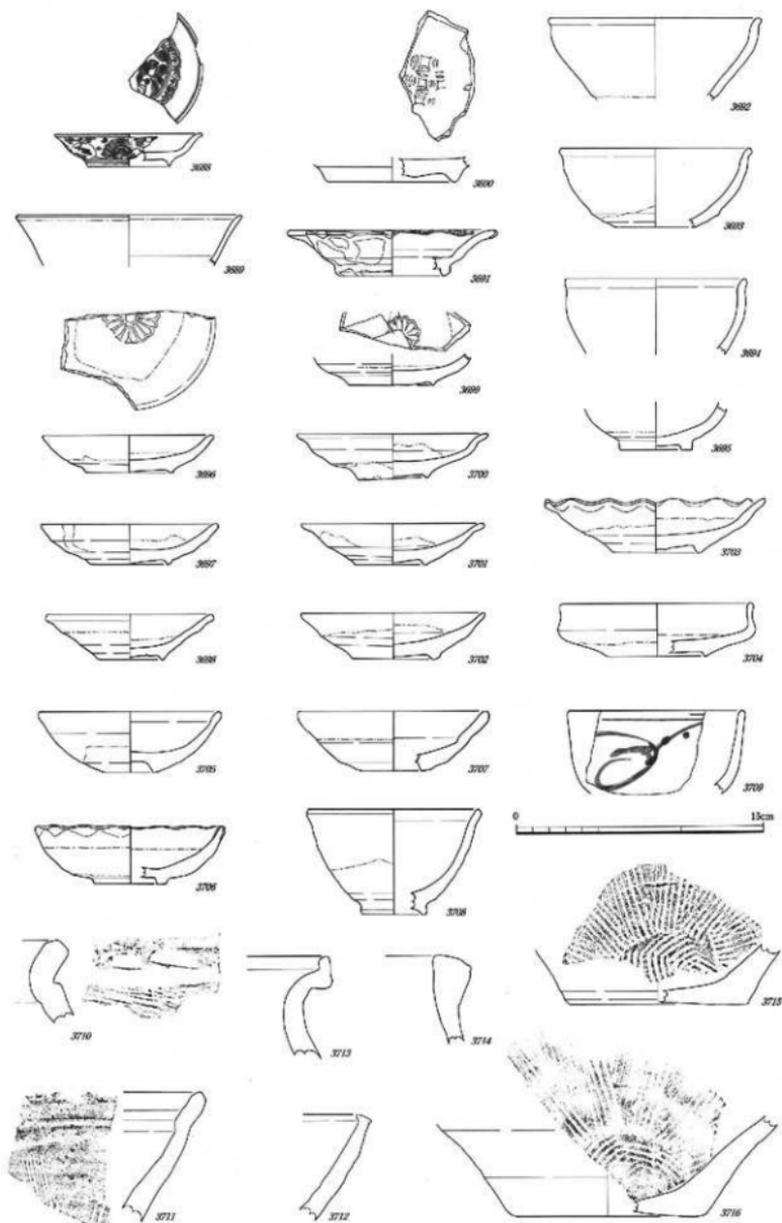
## C地区包含層出土遺物 (第362～364図, 図版123・164)

包含層から出土した遺物はほとんどが、谷の西側から出土している。遺物の種類は中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・瓦質土器・中国製白磁・中国製青磁・青花・越中瀬戸・唐津・埴埴・木製品・石製品・金属製品がある。

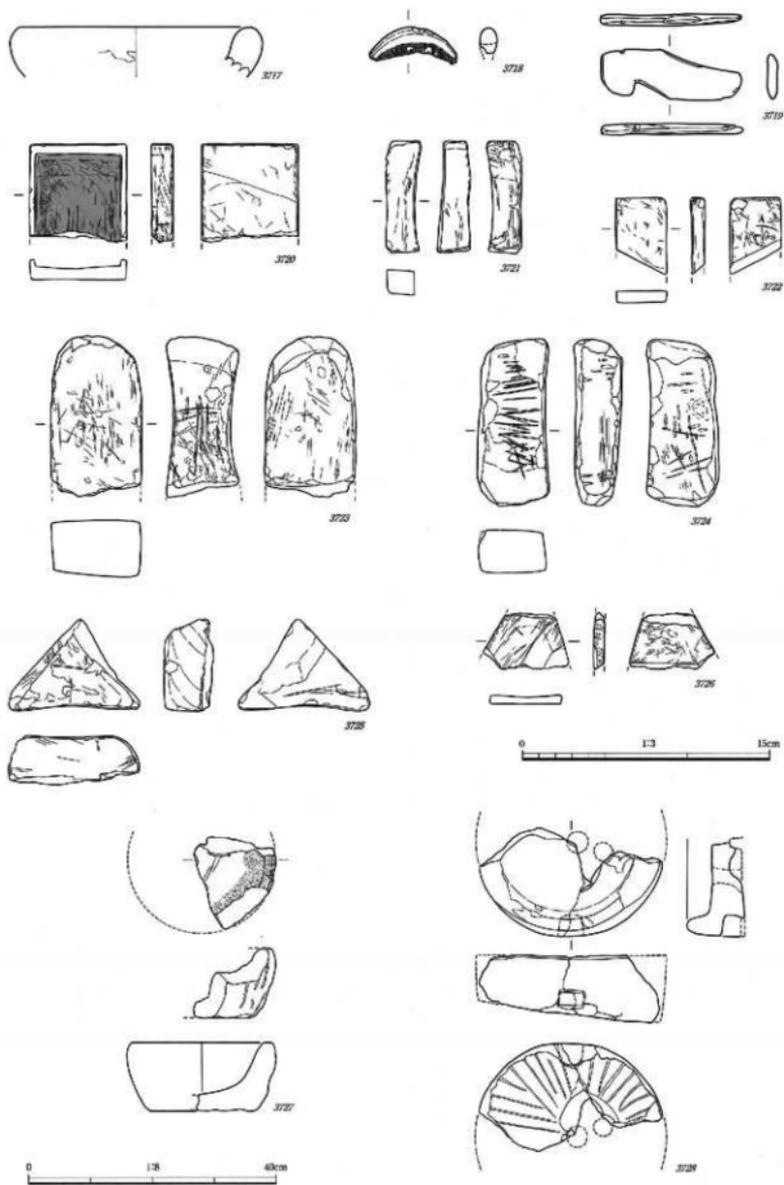
3688は青花の皿。口径9cmの端反りの皿で、畳付けは露胎。文様は口縁部内外面・腰部外面には界線、体部外向には唐草文、見込みには花樹文が描かれる。15世紀後半～16世紀前半頃のものである。3689は口禿の中国製白磁の杯。13世紀中頃～14世紀前半のもの。3690・3691は中国製青磁。3690は中国製青磁の盤かと思われる底部。畳付け・高台内側まで厚く軸がかかり、高台内側中央は軸の鉄分で茶褐色に変色する。見込みには花文が型押しされる。3691は口縁部が体部下位で大きく屈曲し、外反する中国製青磁の皿で、口縁端部を浅く折り波状にする稜花皿である。軸は二次的被熱により青味を帯びたクリーム色に変色しており、畳付け・高台内側まで施軸されるが、外底面は露胎である。また、見込みも輪状に剥ぎ取られており。口縁部内側には櫛状具によって波状文が描かれる。3692・3693は瀬戸美濃の天日茶碗である。3692は直線的な体部をもち、3693は丸味を帯びた体部で、器高は低く、口唇部の屈曲は大きい。体部下半は共に露胎で、時期は16世紀後半のものである。3694～3704は越中瀬戸。3696・3697は灰釉の丸皿で、高台は付け高台、内底面は内禿で、3696の見込みには16弁菊の印花文が押捺される。3697と類似個体がS E 3497から出土している。3698は灰釉の削り出し高台の皿で、内底面には浅い軸止めの段が残る。3699～3702は鉄釉の皿。3699は付け高台で、見込みに16弁菊の印花文が残る。3700・3701は折縁皿で、内底面は内禿で、高台は削り出し高台である。3702の内側には軸止めの段が残る。3692は天日茶碗。褐色の鉄軸がかかり、胎上は灰白色である。3695は鉄釉の丸碗の底部、胎上は灰白色である。3703は鉄釉のひだ皿。体部中位まで厚く軸がかかり、内底面は内禿で、高台は削り出し高台である。3704は向付、内底面は内禿で、浅い軸止めの段が残る。胎上は灰白色である。3705～3708は唐津。3705～3707は皿。3705・3707は体部下半を削って碁笥底を作り出している。3705は暗緑色の灰釉が口縁部外面と内面に施軸される。3707は灰色を呈する灰釉が同じく口縁部外面と内面に施軸され、内湾気味の体部中位に段をもち口縁部が外反する器形である。3706は口縁端部を外側からヘラ状のもので浅く押しして緩い波状とする皿で、口縁部内外面には緑釉が体部内外面には白濁した灰釉が掛け分けられている。3708は透明度の高い灰釉の碗で、高台は内側を浅く削り出す。3709は陶胎染付の碗で、灰色の胎上で、外面には簡略化された草花文が描かれる。3710～3712は珠洲。3710は小型の甕で、円頭形の口縁部の外面にはヘラ状具または打圧原体の押圧痕が2箇所残る。3711は口縁内端面が伸びたⅦ期の鉢で、3712はⅡ期の鉢の口縁部である。3713・3714は越前の甕の口縁部。3713は口縁端部が直立し、口縁帯を形成するもの。14世紀前半頃か。3714は口縁端部が肥厚して大型化する16世紀後半以降のもの。3715・3716は摺鉢の底部。3715は越中瀬戸で、鉄軸が全面に施軸される。3716は瀬戸美濃で、錆軸が全面に施軸される。卸目は半時計回りに3715は8本1束、3716は9本1束の単位で施される。3717は大型の埴埴。端部の厚みは1.8cm近くあり端部内外面には赤色の溶着物が付着する。

3718は横櫛で、目が細かい解櫛である。炭化して全面黒色となっている。3719は鳥形と推定される木製品である。平面鳥形で、板の側面に小さい切り込みと抉りを入れて頭部と胴部を作り出している。

3720は石硯。向縁が6mm、側縁が3mmの長方硯で、裏面は平坦である。石材は丹波産の可能性が高い。3721～3726は砥石。3721・3725は表面に酸化鉄が付着した自然石を使用したもの。3722は石硯からの転用か。3723・3724は谷部から出土している。3723の石材は伊予産の可能性があり、3724と共に



第362図 遺物実測図 (1/3)  
包含層



第363图 遗物実測図 (3717~3726 1/3, 3727·3728 1/8)  
包含層

軟質な石材である。3726は丹波・山城産である。3727は石鉢。石材は凝灰岩系の石で、内面は一部熱によって黒色に変色している。3728は凝灰角礫岩製の石臼の上臼である。目のパターンは8分画で、かた減りが著しい。

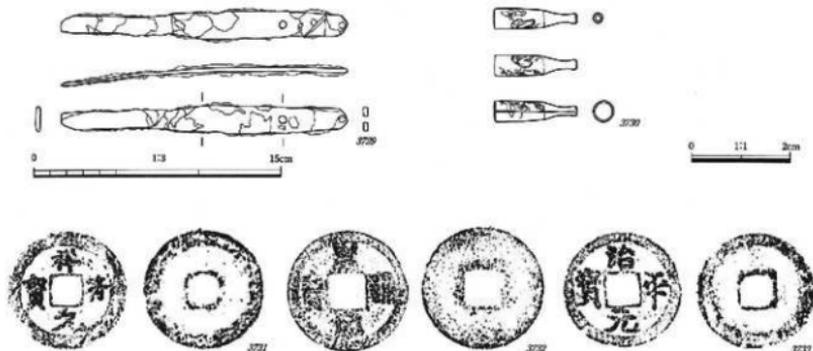
3729は刀子の刃部で、先端部分は欠損する。茎部分は断面長方形で、目釘穴が2箇所に残る。3730は煙管の吸口。長さが短く、表面には線刻で朝顔の絵が彫り込まれる。銅銭は「祥符元寶」・「皇宋通寶」・「治平元寶」の北宋銭が出土している。

(高田美佐子)

本文中の分類および年代については、以下の文献を参考にした。

- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館  
 岩田 隆 1997 「第2節 越前」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』  
 瀬戸市史編纂委員会 1993 『瀬戸市史 陶磁史編四』  
 菅原正明 1989 「西日本における瓦器生産の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告第19集』  
 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と年代」『貿易陶磁研究 No. 2』 日本貿易陶磁研究会  
 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究 No. 2』 日本貿易陶磁研究会  
 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究 No. 2』 日本貿易陶磁研究会  
 越中瀬戸焼発祥四百年記念顕彰会実行委員会 1988 『越中瀬戸 一発祥四百年記念誌—』  
 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代篇』 奈良国立文化財研究所史料第27冊  
 西柳嘉章 1997 「第3節 北陸の中世漆器」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』  
 北陸中世土器研究会 1995 『中世北陸の木製容器』  
 北陸中世土器研究会 1996 『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』  
 北陸中世土器研究会 1997 『北陸の漆器考古学 —中世とその前後—』  
 北陸中世考古学研究会 1999 『中世北陸の石文化1』  
 北陸中世考古学研究会 2000 『中世北陸の石塔・石仏』  
 北陸中世考古学研究会 1998 『北陸中世の金属器 —生産と流通—』  
 山岸素夫・宮崎真澄 1990 『日本平賀の基礎知識』 逢山閣  
 永井久美男編 1994 『中世の出土銭 —出土銭の調査と分類—』 兵庫風成館調査会

銅と黒石の産地・石材については田中孝氏よりご教示を得た。



第364図 遺物実測図 (3731~3733 1/1, 3729・3730 1/3)  
包含層



第12表 建物一覽(2)

計画番号	地区	用途区分	敷地面積(㎡)	容積率(%)	延床面積(㎡)	階高(㎡)	方向	方位	基礎	構造	用途	用途区分	用途区分番号	高さ	備考
134	14	C	4.8	(28.8)	146.1	199	90	中程	中程	146.1	199	90	10	中台建物	SD1231(土庫部),SD1237(須知部),中程+土庫部+加工庫,SD1217(土庫部+中程+土庫部),中程+土庫部+須知部,中程+土庫部+加工庫+中程+土庫部+須知部+加工庫+土庫部,SD1237(土庫部),SD1237(土庫部)
135	12	C	5	(4)	197.2	202	90	中程	中程	197.2	202	90	10	上台建物	SD1287
136	12	C	7	(5)	197.2	202	90	中程	中程	197.2	202	90	10	上台建物	SD1945(須知部),SD2020(須知部),SD2126(土庫+土庫)
137	12	C	6	(3)	168.2	202	90	中程	中程	168.2	202	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
138	12	C	6	(4)	168.2	202	90	中程	中程	168.2	202	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
139	C	(1)×3	7	(1)×3	168.2	202	90	中程	中程	168.2	202	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
140	C	4×2	9.1	3.8	34.58	168.2	90	中程	中程	34.58	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
141	C	(1)×2	4.3	49.45	168.2	168.2	90	中程	中程	168.2	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
142	C	2×2	4.1	3.3	13.33	168.2	90	中程	中程	13.33	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
143	C	4×4	8.3	8.1	67.23	168.2	90	中程	中程	67.23	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
144	C	2×2	2.1	2.0	4.2	168.2	90	中程	中程	4.2	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
145	C	4×4	8.9	8.6	76.54	168.2	90	中程	中程	76.54	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
146	C	2×2	2.7	9.45	168.2	168.2	90	中程	中程	168.2	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
147	C	3×3	6.4	5.7	26.48	168.2	90	中程	中程	26.48	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
148	C	4×2	9.2	6.6	60.72	168.2	90	中程	中程	60.72	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
149	C	2×2	2.9	2.8	8.12	168.2	90	中程	中程	8.12	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
150	C	2×(1)	4.2	(2.1)	8.62	168.2	90	中程	中程	8.62	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
151	C	3×1	18.8	5.2	71.76	168.2	90	中程	中程	71.76	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
152	C	2×2	3.3	2.8	9.24	168.2	90	中程	中程	9.24	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)
153	C	2×1	6.3	4.5	28.35	168.2	90	中程	中程	28.35	168.2	90	10	上台建物	SD2026(土庫+土庫),SD2027(土庫+土庫)

第13表 溝一覽(1)

遺構番号	規模 (幅・深さm)	出土遺物	時期	特記事項	建物番号	採掘番号	図版番号
SD1	19.6-0.37	加工材					92
SD62	1.50-0.22	土師器・珠洲・伊万里・加工板・加工板	近世			268	
SD101	9.55-1.00	中近世陶磁器	近世				92
SD102	1.19-0.30					206	
SD258	1.16-0.18	須恵器・中世土師器・加工板・小柄				206	
SD292	2.81-0.18	須恵器・中世土師器・越中磁石・伊万里・石鉢	近世			206	
SD293	1.28-0.36	須恵器・近世陶器	近世				
SD294	1.85-0.22	曲物				206	
SD296	0.83-0.23	緒前・加工材				206	
SD297	0.72-0.28	柱・楊・礎板・加工棒				206	
SD306	0.75-0.14	中世上師器				206	
SD307	0.80-0.12					206	
SD532	2.85-0.22	土師器・中世土師器・珠洲・瀬戸・金箔				205	
SD601	2.98-0.46	土師器・須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・越中磁石・唐津・伊万里・近世磁器・塔塙・釜・加工板・加工棒・銭・漆管・樽子	近世			207	
SD641	0.54-0.08	唐津	近世			207	
SD642	0.63-0.12	須恵器・中世土師器・瀬戸美濃				207	
SD643	1.78-0.18	須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・柱・加工板				207	
SD1021	0.75-0.09	中世土師器・瀬戸美濃・越前・杭・加工板・漆製品	中世上層				
SD1098	0.63-0.10	中世土師器・糸巻・加工板・縄	中世上層				
SD1128	0.34-0.04	中世上師器・銅製品	中世上層				
SD1132	0.50-0.17	中世土師器・中国製青磁・加工板	中世上層				
SD1135	0.48-0.04	須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・青花・近世磁器・箸・漆製品	近世				
SD1165	0.61-0.10	中世土師器・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・青花・底板・箸・加工棒・加工板・石製品・銭	近世				
SD1168	1.35-0.60	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・瓦器・唐津・中国製白磁・中国製青磁・青花・下駄・竹筒子・箸・底板・曲物・漆筒・漆製品・杭・楊・札・加工板・加工材・加工棒・石臼・砥石・石鉢・鋤り金具・鍍金具・埋管・金環・門金・銅釘・釘・鑿・銅・銭	中世上層・中世中層			208	93
SD1169	1.52-0.28	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・越前・中世陶器・中国製白磁・中国製青磁・青花・箸・漆板・加工棒・加工板・漆製品・砥石・銭・漆管	近世				93
SD1231	0.77-0.06	土師器	中世上層		SB134	208-196	
SD1278	2.21-0.42	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・瓦器・中国製白磁・中国製青磁・青花・近世磁器・箸・杭・加工板・加工材・漆製品・砥石・銅・鉄鍍皿	中世上層			208	94
SD1280	0.38-0.10	中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・中国製白磁・箸・加工板・加工材・銭	中世上層				
SD1397	0.98-0.09	須恵器・中世土師器・加工板	中世上層		SB134	208-196	
SD1408	1.28-0.22	中世土師器・越前・瀬戸美濃・瓦器・青花・箸・折敷・漆板・下駄・杭・加工板・加工棒・砥石・銭	中世上層			208	93
SD1471	0.28-0.08	加工板・金環	中世上層				
SD1565	0.71-0.39	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・中国製白磁・青花・漆板・加工材・漆製品	中世上層		SF 3	239	
SD1582	0.64-0.15	土師器・須恵器・珠洲・瀬戸美濃・中国製白磁	中世上層			208	
SD1701	1.45-0.27	中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・箸・漆板・木筒・散珠・杭・漆製品・加工板・加工材・加工棒・竹製品・分銅・天秤針・鉛下・銭	中世中層			278	93

第13表 溝一覽(2)

遺構番号	規模 (幅・深さm)	出土遺物	時期	特記 事項	建物 番号	押込 番号	図版 番号
SD1917	1.15-0.24	土師器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・瓦器・中国製白磁・青花・著・漆板・桶・加工板・加工材・漆製品・石鉢・砥石・鏡	中世上層・ 中世中層		SB134	196-208	
SD1919	0.74-0.07	漆板	中世上層				
SD1945	0.41-0.12	須恵器	中世上層		SB137	198	
SD1953	1.67-0.22	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・瓦器・中国製白磁・青花・曲物・下駄・著・漆板・漆板・自在駒・杭・漆製品・加工材・加工板・加工板・鏡・釘	中世上層・ 中世中層			208	
SD1959	0.59-0.16	漆板・人形・加工板	中世中層				
SD1967	0.61-0.06	瀬戸美濃・曲物・木筒・杭・下駄・漆板・加工材・加工板	中世中層			208	
SD1972	(1.12)-0.17	土師器・須恵器・加工板・鈔	中世中層				
SD1974	0.79-0.03	加工材・金箔漆器	中世上層				
SD1985	0.97-0.26	須恵器・中世土師器・珠洲・曲物・灰板・切敷・著・糸巻・枕・柱・漆製品・加工材・加工板・加工漆・鏡・銅製品・鉄製品	中世上層・ 中世中層	SF 2	236	95	
SD2005	0.41-0.05	著・漆製品・加工板・加工材	中世上層				
SD2007	0.49-0.16	曲物・加工材	中世上層		SB131	201	
SD2020	1.08-0.58	土師器・須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・下駄・桶・曲物・灰板・著・漆板・枕・漆製品・加工板・加工材・加工漆・竹製品・石鉢・砥石・釘・飾り金具・飾り釘	中世上層・ 中世中層			209	
SD2041	0.27-0.03	著・曲物・漆板	中世上層				
SD2053	0.62-0.15	中世土師器・青花・管・桶・加工板・加工材	中世上層・ 中世中層			209	
SD2073	0.35-0.28	加工板	中世上層・ 中世中層	SF 2	236		
SD2083	0.32-0.08	曲物	中世上層		SB137		
SD2100	0.20-0.05	加工材	中世上層		SB137		
SD2102	0.47-0.08	杭	中世上層・ 中世中層			209	
SD2242	1.23-0.32	土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃	中世上層				
SD2309	1.47-0.18	漆板・曲物・漆板・杭・加工板・加工漆・鑿	中世中層				
SD2485	0.88-0.24	著・加工材・加工板・砥石	中世下層			208	
SD2486	1.03-0.10	越前	中世下層			208	
SD2515	15.00-0.93	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・中国製青磁・青花・近江磁器・羽山・著・木漆・曲物・灰板・漆板・下駄・木筒・孔・漆製品・加工板・加工材・加工漆・石臼・砥石・小穴・小孔	中世下層			234	
SD2831	1.11-0.13	加工板	中世下層	SF 1		137	
SD2839	0.42-0.06	加工材	中世中層				
SD2840	0.42-0.05	木桶	中世中層				
SD2857	* * -0.05		中世上層		SB135		
SD3534	1.75-0.21	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・中国製白磁				232	
SD3535	2.25-0.15	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製青磁・青花・著				232	94
SD3536	0.68-0.16	須恵器・越前・越中瀬戸・伊万里・唐漆				232	
SD3572	0.56-0.15	土師器・須恵器・越前				232	
SD3690	1.24-0.13	土師器・須恵器・中国製青磁・伊万里				232	
SD3691	1.52-0.37	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・越前・交趾・越中瀬戸・唐漆・漆板・曲物・石臼・石鉢・砥石・堀口・鏡・骨				232-307	94
SD3692	1.38-0.12	土師器				232	

第14表 井戸一覽

遺構番号	平面形	規模 (長さ×幅×深さm)	出土遺物	時期	特記事項	押岡番号	図版番号
SE66	不整形	0.70-(0.66)-0.51	伊万里・桶・蓋板・加工棒	近世		258	96
SE192	不整形	0.62-(0.54)-0.46	桶・曲物・枕			241	96
SE210	楕円	0.89-0.78-0.64	曲物・底板・加工棒・加工材・加工板			241	97
SE223	円	1.18-0.88-0.34	柱・桶			241	104
SE333	円	0.68-0.65-0.48				241	104
SE504	円	1.24-1.05-0.59	桶・漆桶・砥石			240	96
SE683	楕円	2.02-1.58-0.48	桶			243	97
SE1022	円	0.46-0.44-0.38	桶・加工板・加工材・加工棒	中世上層		247	
SE1024	円	0.48-0.47-0.49	中世土師器・曲物・底板・刀子	中世上層		247	
SE1083	円	0.42-0.37-0.37	越前・桶	中世上層		247	98
SE1196	円	0.94-0.89-0.60	須恵器・桶・箸・加工板	中世上層		247	
SE1230	円	0.56-0.52-0.36	桶	中世上層		247	
SE1304	円	1.69-1.44-0.49	須恵器・中世土師器・越前・青化・漆桶・箸・漆器・加工板・加工材・切石・金属製の線草	中世上層		249	
SE1309	円	1.44-1.30-1.30	須恵器・越前・枕・底板・箸・糸巻・筒・漆桶・漆器・土器・加工棒・加工材・金輪・こて	中世上層		249	
SE1343	楕円	1.65-1.39-0.62	瀬戸美濃・桶・曲物・下駄・漆桶・箸・漆器・加工板	中世上層		251	98
SE1345	隅丸	1.44-1.20-0.36	土師器・須恵器・枕・木桶・加工板・石鉢・石臼・切石・石製品・鏡	中世上層		253	98
SE1449	円	1.23-1.20-0.90	須恵器・杵・加工板	中世上層		253	98
SE1450	楕円	1.87-1.56-0.68	土師器・須恵器・中世土師器	中世上層			
SE1462	方	1.26-1.24-0.93	土師器・須恵器・中世土師器・中国製白磁・石臼・鏡	中世上層			
SE1465	円	1.83-1.65-0.78	土師器・加工材	中世上層		253	98
SE1837	隅丸	1.86-1.15-0.23	須恵器・中国製白磁・枕・曲物・箸・加工板・加工材・鏡	中世上層			
SE1842	楕円	0.82-0.66-0.40	枕・加工板・鍋・剣・口金	中世中層		244	97
SE1938	楕円	1.02-0.91-0.61	中世土師器・中国製白磁・中国製青磁・青花・桶・枕・加工板・加工材・鏡	中世中層		244	97
SE2068	不整形	0.94-0.76-0.58	桶	中世中層		244	
SE2097	不整形	1.16-(0.85)-0.67		中世上層		254	99
SE3497	円	1.45-1.35-1.11	土師器・須恵器・越前・越中瀬戸・唐津・伊万里・曲物・漆桶・加工板・石臼			255	99
SE3525	円	1.23-1.11-0.71	土師器・中世土師器・瓦器・石臼			255	100
SE3685	円	1.67-1.21-0.94	土師器・須恵器・珠洲・越前			256	100
SE3686	円	1.85-1.69-1.28				257	100
SE3687	円	1.24-1.24-0.60	土師器・須恵器			266	100
SE3688	円	1.21-1.01-0.63	石臼			258	100
SE3693	円	1.23-1.20-0.42	瀬戸美濃			266	
SE3694	円	1.10-1.10-0.76	枕			266	101
SE3695	円	1.61-1.54-0.82	越前・曲物・くりぬき材			260	99-101
SE3696	円	1.35-1.22-0.59	須恵器・越前			260	99-101
SE3697	円	1.68-1.48-1.22	土師器・須恵器			266	99-101
SE3698	円	1.34-1.11-0.81				258	99
SE3700	不整形	1.45-(1.04)-1.19	土師器・須恵器・瀬戸美濃・越中瀬戸			261	99-101
SE3702	方	1.87-1.14-1.34	土師器・須恵器・珠洲・曲物・底板・加工棒			262	99-102
SE3704	方	1.65-1.29-0.42	土師器・須恵器			266	
SE3744	円	1.15-1.12-0.70	曲物			262	102
SE3872	円	1.36-1.27-0.29				266	
SE3912	円	1.75-1.67-1.31	土師器・須恵器・珠洲			263	102
SE3952	不整形	1.47-1.46-1.33	須恵器・珠洲・曲物			264	102
SE3953	不整形	1.46-1.42-0.83	土師器・須恵器・珠洲・唐津・曲物・加工板・石臼・切石			264	102

第15表 土坑一覽(1)

遺構番号	平面形	規模 (長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	特記事項	建物番号	挿入番号	図版番号
SK 4	円	0.47-0.22-0.16	箸					
SK22	円	1.12-0.85-0.28				268	103	
SK29	楕円	1.20-0.86-0.16	加工棒・歯物			268	103	
SK60	不整形	(8.46)-0.80-0.16	鏝					
SK65	方	0.54-0.54-0.10	柄			268	103	
SK75	円	0.98-0.97-0.16	蓋・底板・加工板・刀子			268	103	
SK80	円	0.28-0.20-0.36	柱					
SK515	楕円	0.61-0.34-0.16	柱			267		
SK528	円	0.32-0.30-0.11	柄			267		
SK540	方	0.91-0.84-0.37	加工材・銃			267		
SK541	不整形	1.05-1.02-0.24	加工材			267		
SK145	円	0.85-0.79-0.28	歯物			270		
SK150	楕円	1.68-1.11-0.25	中世土師器・歯物・加工板			270		
SK151	円	1.08-0.99-0.32	中世土師器・加工板			270		
SK152	不整形	1.14-0.76-0.10	加工棒			270		
SK181	楕円	0.65-0.58-0.22				270		
SK401	楕円	0.33-0.24-0.13	柱					
SK226	楕円	3.73-0.83-0.16	土師器・珠洲・伊万里			270		
SK299	楕円	1.47-1.29-0.38				270		
SK360	円	0.38-0.37-0.36	柱					
SK611	円	1.02-0.92-0.32	中世土師器			272		
SK613	不整形	(3.29)-1.12-0.25	中世土師器・瓦器			273		
SK614	方	1.73-1.55-0.16	越中瀬戸			275		
SK622	円	0.88-0.71-0.20	須恵器・中世土師器					
SK625	楕円	0.44-0.40-0.28	銃					
SK640	楕円	0.36-0.34-0.19	中国製白磁					
SK647	楕円	0.40-0.27-0.14	中世土師器					
SK661	楕円	1.80-1.78-0.33	鉛塗器・中世土師器・珠洲・瀬戸美濃・漆製品・加工板・銃			273		
SK662	不整形	(2.02)-1.44-0.36	下駄			272		
SK663	不整形	1.35-1.08-0.39	青花			275		
SK671	不整形	0.38-(0.32)-0.54	中世土師器・種子			274		
SK674	楕円	0.50-0.27-0.34	柱			273		
SK677	不整形	0.56-(0.48)-0.46	柱			273		
SK689	不整形	(4.80)-(0.51)-0.28	須恵器・越中瀬戸・銃・種子					
SK693	楕円	0.48-0.40-0.24	加工板・焼石			274		
SK697	楕円	0.99-0.73-0.36	刀子			272		
SK726	楕円	0.67-0.59-0.19	鼠籠			274	104	
SK758	楕円	0.50-0.38-0.10	伊万里・小柄					
SK770	楕円	0.48-0.26-0.22	柱			274		
SK775	不整形	0.34-0.22-0.10	中世土師器					
SK803	楕円	0.67-0.31-0.46	中国製青磁・青花・伊万里・漆製品・加工棒・刀子・銃			275		
SK806	楕円	0.65-0.37-0.23	中世土師器					
SK813	楕円	0.43-0.26-0.32	柱			274		
SK833	円	0.54-0.51-0.32	青花					
SK835	楕円	0.72-0.50-0.11	越中瀬戸			275		
SK845	楕円	0.40-0.32-0.67	柱			274		
SK850	不整形	0.59-0.43-0.12	中世土師器・越中瀬戸			275		
SK875	不整形	(1.85)-1.72-0.56				273		
SK920	方	0.50-0.44-0.09	桶・折敷			274	104	
SK1001	円	0.81-0.78-0.06	銅		中世上層	287		
SK1015	楕円	0.32-0.22-0.10	鉛瓦		中世上層			
SK1018	楕円	1.18-1.05-0.05	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・加工材・焼石		中世上層	287		
SK1030	不整形	1.13-0.62-0.06	鉛瓦		中世上層			
SK1035	円	0.33-0.32-0.04	土師器・越前・瓦器・銃		中世上層			
SK1038	楕円	0.35-0.24-0.31	虎斑・銅皿		中世上層			
SK1073	不整形	0.47-(0.41)-0.39	中世土師器・越前・青花・瓦器・加工板		中世上層	287		
SK1080	楕円	0.24-0.20-0.06			中世上層			
SK1082	円	0.30-0.29-0.31	瀬戸美濃・漆喰		中世上層			
SK1099	楕円	0.95-0.90-0.20	須恵器・中世土師器・越前・加工板・銃		中世上層	287	104	
SK1125	不整形	1.86-1.36-0.39	中世土師器・越前・青花・加工板・箸・漆製品・刀子		中世上層	287		
SK1131	楕円	(1.44)-(1.12)-0.58	中世土師器・青花・木栓・加工材・加工板		中世上層			
SK1138	不整形	2.00-0.70-0.05	土師器・中世土師器		中世上層			
SK1141	楕円	1.89-1.58-0.43	中世土師器・越前・加工板・銃		中世上層			
SK1161	楕円	0.93-0.48-0.18	磁石・漆製品		中世上層	288		
SK1164	円	0.40-0.38-0.04	中世土師器・加工板・漆製品・銃		中世上層			

第15表 土坑一覽(2)

遺構番号	平面形	規模 (長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	特記事項	建物番号	持回番号	図版番号
SK1172	楕円	1.23-0.83-0.44	中世土師器	中世上層				
SK1173	円	0.54-0.47-0.13	須恵器・漆製品・銅製品	中世上層				
SK1192	円	0.30-0.26-0.12	中国製白磁・下駄	中世上層				
SK1194	不整形	0.95-0.55-0.12	加工板	中世上層				
SK1198	楕円	1.29-0.98-0.08	土師器・越前・加工板・磁石	中世下層				
SK1213	円	0.49-0.45-0.16	珠洲	中世上層				
SK1222	円	0.71-0.70-0.30	加工板・箸・持柄鉋・加工材・小孔	中世上層		288	105	
SK1233	不整形	(1.48)-1.06-0.36	土師器・須恵器・中世土師器・越前・加工板・漆製品・漆碗・磁石・刀子	中世上層		288		
SK1246	楕円	0.80-0.71-0.47	中世土師器・加工板・箸	中世上層		288		
SK1248	楕円	1.45-1.15-0.43	中世土師器・珠洲・越前・青花・箸・底板・加工板・加工棒	中世上層		288		
SK1251	不整形	1.94-1.06-0.10	土師器・須恵器・中世土師器・越前・下駄・加工板	中世上層				
SK1253	不整形	2.75-2.52-0.21	加工材・加工板	中世上層		208		
SK1272	不整形	0.45-0.43-0.09	底板・杖	中世上層				
SK1274	方	2.19-1.59-0.41	珠洲・越前・鏡	中世上層		287		
SK1287	円	0.76-0.71-0.14	瓦葺・加工棒	中世上層		289		
SK1305	楕円	1.13-0.90-0.46	中世土師器・越前・瀬戸美濃・青花・加工板・加工棒	中世上層		289	105	
SK1310	不整形	0.81-0.75-0.18	土師器・須恵器・近江陶器器・箸・加工板・竹製品	中世上層				
SK1323	不整形	0.88-(0.42)-0.27	瀬戸美濃・加工板・加工材	中世上層				
SK1331	円	0.68-0.65-0.06	越前・青花・加工板・刀子・鏡	中世上層				
SK1334	小整形	0.31-(0.28)-0.08	加工材	中世上層				
SK1340	不整形	0.69-0.54-0.18	越前・瓦葺・加工板・石臼	中世上層				
SK1342	小整形	(0.84)-0.74-0.35	越前・鏡	中世上層				
SK1349	不整形	1.07-0.95-0.10	須恵器・土師器・中世土師器	中世上層		289	105	
SK1351	小整形	0.56-(0.37)-0.43		中世上層		289		
SK1353	不整形	2.36-2.05-0.27	須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・漆製品・底板・加工板・加工材	中世上層		290	105	
SK1362	不整形	1.61-1.23-0.12	須恵器・越前	中世上層				
SK1363	円	0.78-0.72-0.21	箸・加工棒・加工材・加工板	中世上層				
SK1371	円	0.58-0.55-0.15	磁石	中世上層				
SK1381	円	0.63-0.58-0.06	須恵器	中世上層				
SK1383	楕円	0.77-0.55-0.37	土師器	中世上層		290		
SK1384	楕円	0.96-0.78-0.40	越前・瀬戸美濃・加工棒・加工板	中世上層			105	
SK1394	隅丸	0.94-0.94-0.31	須恵器・瀬戸美濃・鏡	中世上層		290		
SK1399	不整形	2.68-2.22-0.20	越前・青花・加工材・石鉢	中世上層				
SK1400	不整形	4.83-1.44-0.29	須恵器・中世土師器・越前・加工板・漆製品・陶石・小柄・釘	中世上層		290		
SK1406	楕円	2.11-1.66-0.39	青花・漆碗・磁珠	中世上層		288		
SK1417	円	0.80-0.78-0.30	越前・箸・加工板・漆製品・底板・下駄・加工材・棒状鉄製品	中世上層		290	105	
SK1423	楕円	0.81-0.56-0.59	須恵器・漆製品	中世上層				
SK1428	円	0.56-0.52-0.33		中世上層				
SK1430	楕円	1.45-0.94-0.63	須恵器・中世土師器・珠洲	中世上層		291		
SK1434	隅丸	1.21-1.19-0.40	土師器・須恵器・瀬戸美濃	中世上層		291		
SK1436	方	2.37-1.54-0.12	土師器・越前・中国製白磁・鏡	中世上層		291	105	
SK1437	楕円	1.54-1.04-0.24	須恵器	中世上層		291		
SK1441	不整形	2.08-2.02-0.08	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・中国製白磁・中国製青磁・越前	中世上層		297	105	
SK1446	不整形	2.43-1.76-0.44	土師器・須恵器・中世土師器	中世上層		297		
SK1457	楕円	1.06-0.85-0.34	土師器・青花	中世上層				
SK1469	円	0.30-0.29-0.14	土師器・越前・加工板	中世上層				
SK1477	方	4.00-3.29-0.86	土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・中国製青磁・青花・漆製品・付札・加工棒・石臼・磁石・鏡	中世上層		297	105	
SK1511	小整形	2.93-2.73-0.13	土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃	中世上層		298	106	
SK1521	円	0.97-0.94-0.69	土師器・須恵器・珠洲・石鉢	中世上層		298		
SK1535	方	2.14-2.11-0.11	土師器・須恵器	中世上層		298	106	
SK1553	楕円	0.86-0.62-0.38	須恵器・越前	中世上層		299	106	
SK1568	隅丸	1.17-1.13-0.49	土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃・中世陶器・漆製品	中世上層		299		
SK1581	不整形	1.92-1.25-0.13	土師器・須恵器	中世上層				
SK1583	不整形	1.48-1.20-0.49	土師器・須恵器・石臼	中世上層		299		
SK1594	円	0.28-0.27-0.22	黒色土器	中世上層				43
SK1700	隅丸	0.83-0.79-0.20	須恵器・中世土師器・越前・瀬戸美濃・漆板・箸・加工板	中世上層		299		

第15表 土坑一覽(3)

遺構番号	平面形	規模 (長さ・幅、深さm)	出土遺物	時期	特記事項	建物番号	押出番号	図版番号
SK1704	横門	0.40-0.23-0.11	青花・石鉢	中世上期				
SK1723			中世土師器・瓦器					
SK1783	不整形	★★-0.54-0.07	刀子	中世上期				
SK1824	不整形	(1.15)-(1.00)-0.06	瀬戸美濃・曲物・枕・箸・木札・加工材・加工板・砥石・金輪	中世中期		278		
SK1832	横門	0.76-0.53-0.06	越前	中世中期				
SK1833	不整形	0.69-(0.67)-0.24	越前	中世中期				
SK1843	不整形	1.86-★★-0.12	中世土師器・越前・瀬戸美濃・中国製白磁・青花・志野・曲物・底板・漆製品・漆器・漆碗・加工材・加工板・石臼・釘	中世中期				
SK1847	不整形	0.64-★★-0.18	珠罎・越前・枕・箸・下駄・加工板・加工材	中世中期				
SK1881	不整形	0.28-(0.25)-0.32	天行針	中世中期				
SK1885	隅丸	0.49-0.46-0.31	下駄	中世中期				
SK1890	隅丸	1.14-1.10-0.43	中国製白磁・加工材・加工板・釘	中世中期				
SK1891	円	0.75-0.74-0.24	中世土師器・加工板	中世中期				
SK1901	隅丸	(1.03)-0.98-0.03	須恵器・瀬戸美濃・青花・加工板	中世中期				
SK1904	不整形	2.22-★★-0.10	加工板・鏡	中世中期				
SK1905	不整形	0.68-0.51-0.14	瀬戸美濃	中世中期				
SK1910	円	0.85-0.82-0.10	漆製品・木屑・加工板	中世中期				
SK1912	不整形	(0.75)-0.72-0.28	中世土師器・中国製白磁	中世中期		278		
SK1913	楕円	1.40-1.03-0.18	加工板・漆製品・箸・漆碗・数珠	中世中期				
SK1914	不整形	0.68-★★-0.26	須恵器・瀬戸美濃・中国製白磁・漆碗・枕・加工棒・加工板	中世中期				
SK1915	不整形	3.54-2.41-0.11	須恵器・中世土師器・中国製白磁・箸・曲物・底板・加工板・加工材・数珠	中世中期				
SK1916	方	4.68-3.75-0.26	土師器・須恵器・中国製白磁・青花・枕・竹製品・箸・糸巻・漆碗・数珠・曲物・下駄・加工板・加工材・砥石・石夾子・鉄釘	中世上期		SB133	196	
SK1923	隅丸	0.72-0.62-0.13	土師器・須恵器・瀬戸美濃・加工板	中世中期				278
SK1930	隅丸	0.66-0.61-0.33	須恵器・底板・箸・加工板	中世中期				
SK1941	楕円	0.44-0.38-0.28	中国製白磁・加工板	中世中期				
SK1961	楕円	1.72-1.51-0.43	土師器・曲物・下駄・糸巻・種・加工材・加工板・加工棒・鏡	中世中期				278
SK1963	不整形	0.73-0.65-0.21	中世土師器・瀬戸美濃・漆碗・柱・加工材・加工板・漆製品	中世中期		279		104
SK1970	横門	1.23-0.98-0.56	青花・曲物・底板・加工板	中世中期				279
SK1977	不整形	0.60-(0.45)-0.10	加工板	中世中期				
SK1981	不整形	0.77-0.66-0.28	漆碗	中世中期				
SK1988	不整形	(1.67)-1.06-0.03	土師器・加工材・門金具	中世中期				
SK1991	不整形	1.13-0.83-0.11	曲物・加工板・加工材・釘	中世中期				
SK2018	不整形	(1.29)-0.75-0.04	曲物・加工板・加工材・漆製品	中世中期				
SK2024	円	0.87-0.84-0.32	土師器・箸・曲物・枕・加工板・加工材・鏡	中世中期				279
SK2026	円	0.71-0.72-0.24	瀬戸美濃・曲物・底板・加工板	中世中期				
SK2027	円	0.22-0.22-0.04	中世土師器	中世中期				
SK2030	不整形	(1.39)-0.61-0.51	中世土師器・越前・曲物・箸・加工板	中世中期		279		
SK2031-2	不整形	1.39-0.61-0.42	下駄・柱	中世上期 中世中期				
SK2037	不整形	3.54-1.86-0.42	中世土師器・須恵器・越前・瀬戸美濃・箸・木碗・加工材・加工板	中世上期				
SK2038	不整形	1.52-0.93-0.30	土師器・中世土師器・越前・漆製品・加工板・鏡・小札	中世中期		279		
SK2039	隅丸	0.84-0.68-0.12	須恵器・加工棒・加工材・漆製品・素白	中世中期		279		
SK2040	不整形	0.64-(0.54)-0.11	曲物・測片	中世中期				
SK2048	円	0.65-0.60-0.28	底板	中世中期				
SK2056	不整形	0.48-(0.45)-★★		中世上期	カマド	SB133	196	
SK2057	不整形	(0.75)-(0.45)-★★		中世上期	カマド	SB136	198	
SK2060	楕円	1.80-1.05-0.19	中国製白磁・箸・曲物・加工板・加工材	中世中期				104
SK2070	不整形	1.66-(1.65)-0.10	柱・枕・加工板・鏡	中世中期				
SK2077	円	1.77-0.83-0.39	中世土師器・越前・曲物・箸・加工板・加工材	中世上期		290		
SK2078	方	2.55-2.14-0.51	越前・曲物・枕・下駄・加工棒・加工板・加工材・織物	中世上期				106
SK2079	不整形	1.92-(1.45)-0.37	中国製白磁・箸・漆製品・底板・加工板	中世上期				
SK2084	不整形	1.55-(0.90)-0.37	越前・中国製白磁・底板・枕・加工板	中世中期		279		
SK2088	円	0.76-0.71-0.12	瀬戸美濃・下駄・箱	中世中期		279		
SK2089	不整形	0.81-★★-0.34	瀬戸美濃・底板・加工材・鏡	中世上期				
SK2094	不整形	1.79-(0.95)-0.47	土師器・須恵器・中世土師器・越前	中世上期		254		
SK2095	楕円	1.08-0.83-0.54	枕・加工材	中世中期				
SK2098	楕円	(1.19)-1.18-0.48	中世土師器	中世上期				

第15表 土坑一覽(4)

遺構番号	平面形	規模 (長さ・幅・深さm)	出土遺物	時期	特記事項	発掘番号	探函番号	図版番号
SK2118	円	0.88-0.86-0.36	須恵器・加工材	中世中層				
SK2124	円	0.76-0.73-0.30	中世土師器	中世上層				
SK2131	円	0.17-0.14-0.12	土師器・須恵器・珠洲・瀬戸美濃	中世上層				
SK2178	円	1.50-1.37-0.47	土師器・須恵器・瀬戸美濃	中世上層				
SK2238	不整形	0.48-0.41-0.33	中世土師器	中世上層				
SK2296	円	0.40-0.37-0.06	須恵器・青花	中世上層			109	
SK2413	楕円	0.62-0.46-0.16	雑貨・加工板	中世下層				
SK2417	方	0.72-0.66-0.12	下敷・加工板	中世下層				104
SK2456	円	0.19-0.18-0.12	中世土師器	中世下層				
SK2474	円	0.77-0.71-0.32	須恵器・中世土師器・越前・濃加T板・加工板	中世下層		278		
SK2562	不整形	(1.02)-0.81-0.08	瀬戸美濃・杭	中世中層				
SK2593	円	0.99-0.87-0.14	須恵器・杭・釘	中世中層				
SK2572	円	0.82-0.78-0.41	須恵器・中世土師器・磁製品・漆碗・鉄皿	中世中層				
SK2636	楕円	0.86-0.63-0.26	加工板	中世下層				
SK2636	不整形	(0.47)-0.26-0.06	加工材	中世下層				
SK2678	楕円	1.36-1.04-0.54	漆板・曲物	中世下層				
SK2679	不整形	1.57 * *-0.20	漆板・漆底板	中世下層				
SK2688	楕円	0.72-0.36-0.04		中世下層				
SK2689	円	0.36-0.35-0.14		中世下層				
SK2031-3	不整形	(0.67)-* *-0.38		中世中層・ 中世上層			178-179	
SK2917	方	3.86-1.35-0.22	須恵器				304	
SK2933	楕円	1.47-1.29-0.62	須恵器				304	
SK3004	不整形	2.35-1.59-0.41	須恵器				304	
SK3048	方	2.34-1.95-0.12	須恵器				304	
SK3070	楕円	0.81-0.54-0.33	石鉢					
SK3502	円	3.70-3.20-0.28	土師器・須恵器・珠洲・越前・越中瀬戸・唐津・伊万里・羽口・石鉢			305	107	
SK3503	不整形	1.56-(1.12)-0.08					305	
SK3531	不整形	5.25-2.95-0.18	土師器・須恵器・越前・越中瀬戸				306	
SK3577	円	1.63-1.62-0.55	土師器・須恵器・製塩土器・珠洲				304	40-107
SK3684	楕円	1.75-1.05-0.33	土師器・須恵器				305	
SK3689	円	1.65-1.38-0.34	土師器・中世土師器・瓦器				305	
SK3699	方	1.58-1.49-0.20	珠洲				305	
SK3703	方	1.79-1.67-0.17	土師器・須恵器				307	107
SK3705	不整形	(1.98)-1.62-0.26	中世土師器・釜・杭				307	107
SK3706	方	3.64-2.90-0.38	土師器・中世土師器・瀬戸美濃・石鉢				307	107
SK3743	方	2.17-1.56-0.20					307	107
SK3773	楕円	2.43-1.67-0.37	土師器・須恵器・漆				307	
SK3773	楕円	2.43-1.67-0.37	土師器・須恵器・漆				307	
SK3791	不整形	0.39-(0.24)-0.23	土師器・伊万里				307	
SK3857	不整形	0.59-(0.42)-0.22	石臼					
SK4012	円	0.65-0.65-0.18	珠洲					
SK4037	楕円	0.35-0.25-0.24	中世土師器					
SK4041	円	0.62-0.49-0.16	中世土師器					
SK4073	楕円	0.60-0.44-0.28	唐津					
SK4174	不整形	(1.36)-1.30-0.38	越中瀬戸・腰掛具				305	107
SK4175	円	0.50-0.43-0.13						

第 16 卷 土器・土製品一覽表(1)

品目番号	通称	産地	種別	器種	山形県産品(市町村)	数量	重量	備考
171	2057	52033	52033	52033	12.8	37.7	52033	52033
172	2058	52034	52034	52034	12.8	37.7	52034	52034
173	2059	52035	52035	52035	12.8	37.7	52035	52035
174	2060	52036	52036	52036	12.8	37.7	52036	52036
175	2061	52037	52037	52037	12.8	37.7	52037	52037
176	2062	52038	52038	52038	12.8	37.7	52038	52038
177	2063	52039	52039	52039	12.8	37.7	52039	52039
178	2064	52040	52040	52040	12.8	37.7	52040	52040
179	2065	52041	52041	52041	12.8	37.7	52041	52041
180	2066	52042	52042	52042	12.8	37.7	52042	52042
181	2067	52043	52043	52043	12.8	37.7	52043	52043
182	2068	52044	52044	52044	12.8	37.7	52044	52044
183	2069	52045	52045	52045	12.8	37.7	52045	52045
184	2070	52046	52046	52046	12.8	37.7	52046	52046
185	2071	52047	52047	52047	12.8	37.7	52047	52047
186	2072	52048	52048	52048	12.8	37.7	52048	52048
187	2073	52049	52049	52049	12.8	37.7	52049	52049
188	2074	52050	52050	52050	12.8	37.7	52050	52050
189	2075	52051	52051	52051	12.8	37.7	52051	52051
190	2076	52052	52052	52052	12.8	37.7	52052	52052
191	2077	52053	52053	52053	12.8	37.7	52053	52053
192	2078	52054	52054	52054	12.8	37.7	52054	52054
193	2079	52055	52055	52055	12.8	37.7	52055	52055
194	2080	52056	52056	52056	12.8	37.7	52056	52056
195	2081	52057	52057	52057	12.8	37.7	52057	52057
196	2082	52058	52058	52058	12.8	37.7	52058	52058
197	2083	52059	52059	52059	12.8	37.7	52059	52059
198	2084	52060	52060	52060	12.8	37.7	52060	52060
199	2085	52061	52061	52061	12.8	37.7	52061	52061
200	2086	52062	52062	52062	12.8	37.7	52062	52062
201	2087	52063	52063	52063	12.8	37.7	52063	52063
202	2088	52064	52064	52064	12.8	37.7	52064	52064
203	2089	52065	52065	52065	12.8	37.7	52065	52065
204	2090	52066	52066	52066	12.8	37.7	52066	52066
205	2091	52067	52067	52067	12.8	37.7	52067	52067
206	2092	52068	52068	52068	12.8	37.7	52068	52068
207	2093	52069	52069	52069	12.8	37.7	52069	52069
208	2094	52070	52070	52070	12.8	37.7	52070	52070
209	2095	52071	52071	52071	12.8	37.7	52071	52071
210	2096	52072	52072	52072	12.8	37.7	52072	52072





















第17表 木製品一覧(1)

探出 番号	遺物 番号	取組 番号	遺構 番号	産物	取 源	種 類	規格(長・幅・厚(cm))	材 質	備 考
156	2002	125	SP234	SB104		柱	30.2-12.1-11.4	二葉松類	
158	2005	125	SP162	SB105		柱	82.8-11.4 9.8	二葉松類	角切
160	2007		SP133	SB106		柱	38.1-14.1-12.7	シイ属	
	2007		SP133	SB106		柱	50.6-11.4-12.2	ウルシ科	
161	2008	125	SP412	SB107		柱	58.2-13.0-13.0	二葉松類	
	2009		SP113	SB107		柱	60.2-11.2 11.2	シイ属?	炭化
	2010		SP416	SB107		柱	95.4-16.4-13.2	サイカチ?	
165	2011	125	SP394	SB110		柱	66.4-13.4 14.2	二葉松類	
170	2012		SP665	SB113		加工板	14.6-6.3-1.4		炭化、植付けの転用か
	2013	126	SP668	SB113		漆加工板	52.2-33.2 2.1	二葉松類	漆付着
172	2017	126	SP800	SB115		柱	40.4-10.4-11.6		
173	2018		SP633	SB116		柱	59.5-12.3 10.0		
176	2020		SP1983	SB118		箸	(11.8)-0.7-0.5		
177	2026		SP2004	SB119	X225Y382	漆栓	8.0 2.8 2.8		漆付着
178	2027		SP1934	SB120		箸	(21.2)-0.6-0.6		
180	2028		SP1301	SB121		下駄	(12.9)-8.2-2.5		
	2029		SP1301	SB121		横板板	33.3-(12.2)-2.2		
	2030		SP1301	SB121		加工上	41.7-8.7-4.8		
	2031		SP2135	SB121		横板	9.7-(6.5) 0.5		漆付着
181	2033		SP1341	SB121		漆板	(10.3)-(5.1)-0.7		漆付着、炭化
	2034		SP1341	SB121		横板板	18.2 8.1-1.3		
	2035		SP1341	SB121		加工材	27.5-2.3-0.4		
	2036	126	SP1341	SB121		柱	34.4 11.6-11.3		
	2037		SP2003	SB122	X222Y383	下駄	(18.3)-(8.0)-3.5		
	2038	127	SP2031	SB122		漆板	14.0 6.8-6.8	ブナ	総黒色漆、 内外面に赤色漆あり
203	2050		SB130	X226Y376	漆度土	箸	18.6 0.6-0.5		
	2051		SB130	X225Y378	漆度土	箸	(12.0)-0.6-0.5		
206	2060		SD297			加工板	18.0-1.9-9.5		
210	2075		SD2485			加工材	13.0-10.6 4.1		
	2076		SD2485			箸	22.4-0.6		
	2089	127	SD2515	X219Y385		漆板	13.1 5.1-6.2	ヒノキ ケヤキ	総赤色漆、 口縁部・高台のみ黒色漆、 赤色漆で縁あり
	2100	127	SD2515	X229Y385		漆板	1.7-8.5	ブナ	総黒色漆、 内外面に赤色漆あり
	2101		SD2515	X216-219Y386		漆板	11.2-3.5	ケヤキ	総黒色漆
	2102	127	SD2515	X223Y387		漆合子蓋	3.0-**-**	ヒノキ	内外赤黒色漆
	2103		SD2515	X223Y383-387		加工板	(8.5)-(1.9) 0.9		漆付着
211	2104	128	SD2515	X217Y385		下駄	17.8-10.8	二葉松類	
	2105		SD2515	X229Y383		下駄	14.1 (10.3)-3.3		
	2106		SD2515	X228Y387		下駄	(19.2)-9.5-4.0		
	2107		SD2515	X216Y386		下駄	(15.9)-(9.8)-2.9		
	2108		SD2515	X223-225Y386		下駄	15.5-9.1	ブナ	
	2109		SD2515	X228Y387		下駄	21.9-9.2-2.4		
	2110	130	SD2515	X217Y386		下駄	21.3-(5.5) 1.0		漆残存
	2111		SD2515	X221Y383		下駄	8.0-7.0		
212	2112		SD2515	X226Y386		底板	6.3-(2.7) 0.7		
	2113	128	SD2515	X222Y383		漆板	9.8-3.8	ヒノキ	
	2114	128	SD2515	X218Y384		底板	17.2 (3.4)-0.4		
	2115	128	SD2515	X224Y382		底板	25.5-11.5	ヒノキ科	
	2116		SD2515	X226Y385		漆板	(23.0)-(4.4)-2.0		
	2117	128	SD2515	X218Y386		底板	31.2-(7.8) 0.7		
	2118		SD2515	X217Y386		側板	33.7-7.5-1.8		
213	2119		SD2515	X229Y383		箸	24.8 0.7-0.7		
	2120		SD2515	X223-225Y386		箸	(17.7)-0.7-0.5		
	2121		SD2515	X227-229Y386		箸	(11.5)-0.5-0.3		
	2122		SD2515	X227-229Y386		加工材	3.6-1.6-1.5		
	2123		SD2515	X227-229Y386		加工板	2.1-1.7-0.9		
	2124	129	SD2515	X229Y383		加工板	3.4 3.1		ヒノキ
	2125	129	SD2515	X218Y387		木筒	23.5-(2.2)-1.0		
	2126	129	SD2515	X227-229Y386		木筒	(6.1)-2.9-0.3		
	2127	129	SD2515	X227-229Y386		木筒	(4.0)-(2.1) 0.2		
	2128	129	SD2515	X227-229Y386		木筒	(4.4)-1.9-0.2		
	2129		SD2515	X221-222Y386		加工材	15.8 2.8	二葉松類	
	2130	129	SD2515	X227-229Y385		加工板	26.7-9.9-0.7	ヒノキ	
	2131		SD2515	X226Y385		加工板	13.1-2.9-0.9		漆残存
	2132	130	SD2515	X218Y383		加工板	24.1-3.5-0.7		
	2133		SD2515	X216-219Y386		加工板	14.4-2.1-0.6		

第17表 木製品一覧(2)

押出番号	造物番号	版番号	造物番号	建物	型番	種類	規格(長・幅・厚cm)	材質	備考
214	2134	130	SD2515		X226Y385	加工板	12.1-2.2-0.7		
	2135	130	SD2515		X227Y387	加工板	(19.8) 2.7-1.7		
	2136		SD2515		X221Y383	加工板	(21.2)-1.8-1.4		
215	2137		SD2515		X219Y384	加工材	32.9-9.7-9.2		
	2144		SD1701		X226Y396	嵌板	11.2-3.2-0.9		
	2145		SD1701		X227Y397	加工板	10.7-2.1-0.3		
	2146		SD1701		X222Y397	嵌	23.0-0.7-0.6		
	2147		SD1701		X226Y396	嵌	25.0-0.7-0.6		
	2148		SD1701		X227Y397	嵌板	0.8-0.3		
	2151		SD1919			漆板	15.7-***-***	ケヤキ	紅褐色漆
	2152	130	SD1959			人形	(10.5) 0.9	ガマズミ	
	2153	130	SD1967		X228Y381	木筒	(23.8)-3.9-0.3	スギ	
	2154		SD1967		X228Y381	加工板	41.4 5.3 0.9		
216	2155		SD1967		X228Y381	下板	(13.1)-8.8-(4.0)		
	2158	131	SD2309		X227Y397	漆板	12.3 *** **	ケヤキ	紅褐色漆
	2159		SD2309		X228Y394	嵌板	24.0-(4.5)-0.7		漆付着
	2160		SD2309		X227Y394	嵌板	24.4-(8.3)-0.7		漆付着
	2162	131	SD2839		X226Y396	加工材	25.8-10.5-10.6		
	2163	130	SD2840		X226Y396	木筒	36.3-7.4-5.6	スギ	漆喰着,炭化
218	2166	131	SD1086			糸巻	19.3-3.9-1.2	ヒノキ	漆喰着
	2174	131	SD1135		X230Y399	漆器	7.0-2.5	ヒノキ	赤色漆
	2175		SD1135		X230Y399	嵌	(24.2) 0.7 0.6		
	2177		SD1165		X227Y398	嵌	(14.7)-0.6-0.5		
	2194		SD1168			嵌	8.2 2.0 1.1		
221	2195		SD1168			嵌	(6.4)-(2.3)-1.0		
	2196	131	SD1168			嵌	3.2 5.1	バラ科 生付材(12x12)	
	2197	132	SD1168		X224Y397	下板	18.5-11.0	ヤナギ科	
	2198		SD1168			下板	(14.6)-(8.2) 2.5		
	2199	132	SD1168		X225Y396	下板	15.9-9.8	イヌマキ	
	2200	132	SD1168			下板	14.5-9.0	(台)ホウノキ (脚)フサギクラ	
	2201		SD1168			嵌板	5.0 (3.6) 0.4		
	2202		SD1168			嵌板	9.0-3.1-0.5		
	2203		SD1168		X227Y397	嵌板	5.8 5.2 0.4		
	2204		SD1168			嵌板	8.7-(7.4)-0.7		
	2205		SD1168			嵌板	33.4 (9.3) -1.7		
	2206		SD1168			漆板	***-***-***		紅褐色漆
	2207		SD1168		X218Y398	嵌	25.0-0.7-0.7		
2208		SD1168			嵌	24.6-0.8-0.7			
2209		SD1168		X217Y397	嵌	25.7-0.8-0.7			
2210		SD1168			嵌	24.1-0.7-0.8			
2211		SD1168			嵌	23.6-0.8-0.5			
2212		SD1168			嵌	23.0 0.7 0.6			
2213	131	SD1168		X224Y398	嵌板	2.8-2.1	マツ科		
2214	132	SD1168		X226Y396	付札	(9.8)-1.45-0.5	ヒノキ		
2215		SD1168			加工板	(7.7)-(3.2)-0.8			
2216		SD1168		X225Y397	加工板	8.2-2.6-1.0			
2217		SD1168			加工材	17.8-3.4 0.4	ヒノキ		
2218		SD1168		X226Y397	加工材	17.1-6.1-3.7		炭化	
2219		SD1168		X218Y396	加工材	11.9 2.5-0.9			
225	2243	133	SD1169		X229Y397	漆板	12.8-10.0	ブナ	紅褐色漆, 内面に赤色漆塗あり
	2244	133	SD1169		X227Y397	漆板	8.2 5.6	カエデ科 (イタヤカヌダ?)	紅褐色漆,嵌部穿孔
	2265		SD1278		X223Y388	嵌	21.9 0.8 0.5		
	2266		SD1280		X222Y390	嵌	27.6-0.7-0.4		
	2269	133	SD1408			下板	12.2-7.6	スギ	
227	2270	134	SD1408			嵌板	7.5-6.3-0.4		
	2271	133	SD1408		X228Y397	嵌板	11.4-11.4-1.6		
	2272	134	SD1408			漆板	10.0-8.5	ブナ	紅褐色漆, 内外面に赤色漆塗あり
	2279	134	SD1917		X220Y395	漆板	12.0-7.3 6.0	ブナ	内赤外黒色漆, 外赤・高台内に赤色漆塗あり
	2280		SD1917		X219Y393	嵌	30.7-0.8-0.7		
	2281		SD1917		X219Y394	嵌板	33.6-(6.2)-0.8		
	2282		SD1917		X219Y393	加工材	18.9-4.3	ツブラジイ	
228	2283		SD1917		X219Y393	加工板	21.6 2.7 1.2		
	2286		SD1933		X217Y376	下板	(6.4)-(5.0)-2.4		
	2287	131	SD1933			漆板	***-6.2-***	ブナ	内赤外黒色漆, 外赤・高台内に赤色漆塗あり

第17表 木製品一覧(3)

神田 番号	遺物 番号	図版 番号	遺構 番号	建物	座 敷	種 類	規格(長×幅×厚/cm)	材 質	備 考	
228	2229	134	SD1953		X230Y376	底板	21.4-(4.5)-0.6			
	2300	135	SD1953			裏板	10.0 9.8	ヒノキ		
229	2301		SD1953			底板	5.6-(2.1)-0.2			
	2302		SD1953	X223Y376		横側板	14.8-3.5-0.6		炭化	
	2303		SD1953	X223Y376		横側板	15.2-3.3-0.9		炭化物付着?	
	2304		SD1953	X223Y376		白土筋	11.8-7.0-3.2			
	2305		SD1953	X221Y376		箸	33.2-0.7-0.6			
	2306		SD1953	X221Y376		箸	28.2-0.7-0.8			
	2307	135	SD1953	X221Y376		箸	28.1-0.8-0.8			
	2308	135	SD1953	X223Y376		箸	28.2-0.8-0.6			
	2309	135	SD1953	X223Y376		箸	25.8-0.8-0.6			
	2310		SD1953	X221Y376		箸	24.7-0.8-0.7			
	2311		SD1953	X221Y376		箸	(24.6)-0.7-0.7			
	2312		SD1953	X221Y376		箸	(22.5)-0.7-0.6			
	2313		SD1953	X221Y376		箸	(17.2) 0.7-0.4			
	2314		SD1953	X221Y376		箸	16.8-0.7-0.5			
	2315		SD1953	X221Y376		箸	(17.7)-0.8-0.3			
	2316		SD1953	X221Y376		箸	(19.3)-0.7-0.4			
	230	2322	136	SD1974			加工材	(10.2)-(3.5) 0.5	ヒノキ	金箔残存
		2323	135	SD2005			加工材	6.2-3.1	ヒノキ科	
		2326		SD2020		X225Y385	箸	(2.8)-(4.7)-(0.7)		
		2327		SD2020		X225Y385	加工板	3.1-2.9	ヒノキ	
2328		136	SD2020			漆塗り	15.6-1.6	ヒノキ		
2329		136	SD2020			下敷	15.4 8.9-2.1			
2330			SD2020		X220Y384	底板	17.2-(4.2)-0.6			
2331			SD2020		X225Y382	加工板	9.1 (4.2) 0.4			
2332			SD2020		X225Y378	加工材	6.6-3.9 1.0			
2333			SD2020			下敷	16.2-4.1-0.8			
2334			SD2020			裏板	31.3-6.9-0.8			
2335			SD2020			加工棒	27.5-2.0-1.3		炭化	
2336			SD2020		X220Y380	箸	30.0 0.9-0.8			
2337			SD2020		X220Y380	箸	28.3-0.7-0.5			
2338			SD2020		X225Y379	箸	(28.2)-0.7-0.5			
231		2339		SD2020			加工棒	31.3-11.9-10.1		
		2343	136	SD2041			漆桶	9.2 5.3 2.8	コブシ	内赤外黒色漆, 外面に赤色漆絵あり
		2344		SD2041			箸	(18.4)-0.7 0.7		
		2346		SD2053			横側板	20.8-7.7-1.2		
		2347		SD2053			横側板	20.6-4.9-1.3		
	2348	136	SD2053		X219Y384	付札	(7.5)-1.5-0.4			
	2349		SD2053		X219Y380	底板	(23.3)-(3.3)-0.8			
	2350	137	SD2033		X219Y384	柄	5.0-1.7	ヒノキ		
	2351		SD2033		X219Y380	箸	22.2-0.7	ヒノキ		
	2352		SD2033		X230Y380	箸				
235	2376		SD2831		X221Y381	加工板	71.6-19.4-1.2	二葉松類		
	2377		SD2831		X221Y381	加工板	14.1-14.0-1.4	二葉松類	漆残存	
	2378	137	SD2831		X224Y382	葺材	26.7-8.4	二葉松類		
	2379	137	SD2831		X224Y382	葺材				
	2381	137	SD1985		X228Y386	糸巻	16.6 1.8-1.7			
237	2382		SD1985		X227Y386	箸	21.8-0.9-0.4			
	2383		SD1985		X220Y386	箸	21.8-0.6	ヒノキ		
	2384		SD1985		X222Y385	箸	21.8-0.8-0.8			
	2385		SD1985		X220Y386	箸				
	2386		SD1985		X221Y383	裏板	12.0 (2.7)-0.6			
	2387		SD1985		X228Y385	底板	8.9-8.4-0.2			
	2388	137	SD1985		X228Y386	加工棒	16.1-3.8	ヒノキ		
	2389		SD1985			加工板	(18.2)-3.7-1.3		炭化	
	2390		SD1985			加工板	30.7-15.4-1.4		炭化	
	2391		SD1885		X227Y386	加工材	49.7 3.7-3.6			
238	2392		SD1985			加工材	34.5-12.9-8.6	クリ?		
	2393		SD1985			加工材	34.2 9.5-9.2		炭化	
	2394	137	SD1985			板	47.7-10.4-10.0			
	2395		SD1985		X222Y386	柄	29.4 9.8 9.2			
	2400		SD1565		X218Y366	漆桶	***-**-8.3		黒黒色漆。 内面に赤色漆絵あり	
239	2401	138	SD1565		X218Y366	漆桶	***-**-7.6	ブナ	黒黒色漆。 外面に赤色漆絵あり	